

全国の言語聴覚士養成校一覧

【資料8】

(令和5年2月13日現在)

(私立：大学専攻科)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	東京	武蔵野大学	専攻科言語聴覚士養成課程	30	2年	H26.4.1	202-8585	東京都西東京市新町1-1-20	学校法人武蔵野大学	
2	大阪	大阪保健医療大学	言語聴覚専攻科	40	2年	H21.4.1	530-0043	大阪府大阪市北区天満1-9-27	学校法人福田学園	
3	広島	広島都市学園大学	言語聴覚専攻科	40	2年	H30.4.1	731-3166	広島県広島市南区大塚東3-2-1	学校法人古沢学園	
4	福岡	福岡国際医療福祉大学	言語聴覚専攻科	40	2年	H31.4.1	814-0001	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	学校法人高木学園	H31.4新規
合計			4 大学専攻科	150						

(公立：大学)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	広島	県立広島大学	保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース	30	4年	H17.4.1	723-0053	広島県三原市学園町1-1	広島県公立大学法人	R3.4保健福祉学部コミュニケーション障害学科の改組転換(設置者変更)
合計			1 大学	30						

(私立：大学)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	北海道	北海道医療大	リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科	60	4年	H27.4.1	061-0293	北海道石狩郡当別町字金沢1757	学校法人東日本学園	
2	青森	弘前医療福祉大学	保健学部医療技術学科言語聴覚学専攻	30	4年	H21.4.1	036-8102	青森県弘前市小比内3-18-1	学校法人弘前城東学園	
3	宮城	東北文化学園大学	医療福祉学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H20.4.1	981-8551	宮城県仙台市青葉区国見6-45-1	学校法人東北文化学園大学	
4	栃木	国際医療福祉大学	保健医療学部言語聴覚学学科	80	4年	H10.12.12	324-8501	栃木県大田原市金丸2600-1	学校法人国際医療福祉大学	H15.4名称変更 H19.4名称変更 R3.4新規(設置者変更)
5	群馬	群馬バース大学	リハビリテーション学部言語聴覚学学科	30	4年	R3.4.1	370-0006	群馬県高崎市問屋町1-7-1	学校法人群馬バース大学	
6	埼玉	目白大学	保健医療学部言語聴覚学学科	40	4年	H18.4.1	339-8501	埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320	学校法人目白学園	
7	千葉	国際医療福祉大学	成田保険医療学部言語聴覚学学科	40	4年	H28.4.1	286-8686	千葉県成田市公津の杜4-3	学校法人国際医療福祉大学	
8	東京	帝京平成大学	健康メディカル学部言語聴覚学学科	60	4年	H14.4.1	170-8445	東京都豊島区東池袋2-51-4	学校法人帝京平成大学	H20.4移転 H21.4入学定員変更80→60 R3.4新規
9	東京	東京工科大	医療保健学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	R3.4.1	144-8535	東京都大田区西蒲田5-23-22	学校法人片柳学園	
10	神奈川	北里大学	医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻	30	4年	H10.12.22	252-0373	神奈川県相模原市南区北里1-15-1	学校法人北里研究所	H18.4入学定員変更20→28 H20.4設置者変更
11	新潟	新潟医療福祉大学	リハビリテーション学部言語聴覚学学科	40	4年	H13.4.1	950-3198	新潟県新潟市北区島見町1398	学校法人新潟総合学園	H30.4医療技術学部言語聴覚学学科の改組転換
12	福井	福井医療大学	保健医療学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	30	4年	H29.4.1	910-3190	福井県福井市江上町55宇島町13-1	学校法人新田塚学園	
13	静岡	聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部言語聴覚学学科	25	4年	H16.4.1	433-8558	静岡県浜松市北区三方原町3453	学校法人聖隷学園	H20.4入学定員変更20→25 H23.4課程変更
14	愛知	愛知学院大学	健康科学部健康科学科言語聴覚士コース	180	4年	情報なし	470-0195	愛知県日進市岩崎町阿良池12	学校法人愛知学院	定員不明、コースによる選択制
15	愛知	愛知淑徳大学	健康医療科学部医療貢献学科言語聴覚学専攻	40	4年	H16.4.1	480-1197	愛知県長久手市片平2-9	学校法人愛知淑徳学園	H22.4学部名称変更
16	京都	京都先端科学大学	健康医療学部言語聴覚学学科	30	4年	H27.4.1	615-8577	京都府京都市右京区山ノ内五反田町18	学校法人永守学園	H31.4設置者変更、学校名変更
17	京都	京都光華女子大学	健康科学部医療福祉学科言語聴覚学専攻	30	4年	H26.4.1	615-0882	京都府京都市右京区西京極菟野町38	学校法人光華女子学園	
18	大阪	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H18.4.1	597-0104	大阪府貝塚市水間158	学校法人河崎学園	
19	大阪	大阪人間科学大学	保健医療学部言語聴覚学学科	40	4年	H24.4.1	566-8501	大阪府摂津市正雀1-4-1	学校法人薫英学園	R2.4人間科学部医療心理学科言語聴覚専攻の改組転換
20	大阪	関西福祉科学大学	保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H27.4.1	582-0026	大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1	学校法人玉手山学園	
21	大阪	大和大学	保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H26.4.1	564-0082	大阪府吹田市片山町2-5-1	学校法人西大和学園	
22	兵庫	姫路獨協大学	医療保健学部言語聴覚療法学科	20	4年	H18.4.1	670-8524	兵庫県姫路市上大野7-2-1	学校法人獨協学園	
23	岡山	川崎医療福祉大学	リハビリテーション学部言語聴覚療法学科	60	4年	H11.4.1	701-0193	岡山県倉敷市松島288	学校法人川崎学園	H31.4医療技術学部感覚矯正科言語聴覚専攻の改組転換
24	広島	広島国際大学	総合リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻	30	4年	H25.4.1	739-2695	広島県東広島市黒瀬学園台555-36	学校法人常翔学園	
25	福岡	国際医療福祉大学	福岡保健医療学部言語聴覚学学科	40	4年	H19.4.1	831-8501	福岡県大川市榎津137-1	学校法人国際医療福祉大学	H25.4学部名称変更
26	熊本	熊本保健科学大学	保健科学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H23.4.1	861-5598	熊本県熊本市北区和泉町325	学校法人銀杏学園	
27	宮崎	九州保健福祉大学	臨床心理学部臨床心理学科言語聴覚学コース	40	4年	H11.4.1	882-8508	宮崎県延岡市吉野町1714-1	学校法人順正学園	R2.4保健科学部言語聴覚療法学科の改組転換
合計			27 大学	1,215						

(私立：専門職大学)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	高知	高知リハビリテーション専門職大学	リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H31.4.1	781-1102	高知県土佐市高岡町乙1139-3	学校法人高知学園	H31.4新規
合計			1 専門職大学	40						

(私立：短期大学専攻科)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	宮城	仙台青葉学院短期大学	言語聴覚学学科	40	3年	R3.4.1	980-0021	宮城県仙台市青葉区中央四丁目5-3	学校法人北社学園	R3.4新規
2	奈良	白鳳短期大学	専攻科リハビリテーション学専攻言語聴覚学課程	20	1年	H23.4.1	636-0011	奈良県北葛城郡王寺町1-7-17	学校法人西大和学園	
合計			2 短期大学専攻科	60						

(私立：大学院)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考

全国の言語聴覚士養成校一覧

【資料8】

1	新潟	新潟リハビリテーション大学大学院	リハビリテーション研究科言語聴覚障害コース	12	2年	H30.4.1	958-0053	新潟県村上市上ノ山2-16	学校法人北都健勝学園	言語聴覚士国家試験受験を希望する者は、受験に必要な科目を履修・修得すること、及び学士を有している(4年制大学卒業等)ことにより、言語聴覚士法第33条第4号に基づき国家試験受験資格が得られる。コース定員不明、コースによる選択制。
2	東京	武蔵野大学大学院	人間学専攻 言語聴覚コース	30	2年	H30.4.1	202-8585	東京都西東京市新町1-1-20	学校法人武蔵野学院	既に言語聴覚士として3年以上実務経験が場合は1年制短期コースもある。2年制コースは、大学卒業(見込)が出願資格。
総計				4 大学専攻科、28 大学、1 専門職大学、2 短期大学 専攻科、2 大学院		1,537				

全国の言語聴覚士養成校一覧

【資料8】

(私立：設置申請中)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	東京	杏林大学	保健学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻	25	4年	R5.4.1	181-8612	東京都三鷹市下連雀5-4-1	学校法人杏林学園	R5.4新規設置予定

(国立：専門学校、養成機関)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	埼玉	国立障害者リハビリテーションセンター学院	言語聴覚学科(昼間部)	34	2年	S46.4.1	359-8555	埼玉県所沢市並木4-1	国立障害者リハビリテーションセンター	出願資格：大学卒業(見込)

(私立：専門学校、養成機関)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	北海道	専門学校北海道リハビリテーション大学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	情報なし	060-0063	札幌市中央区南3条西1丁目	学校法人吉田学園	出願資格：高校卒業(見込)
2	北海道	札幌医学技術福祉歯科専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	40	3年	情報なし	064-0805	札幌市中央区南5条西1丁目1289-5	学校法人西野学園	出願資格：高校卒業(見込)
3	福島	国際医療看護福祉大学校	言語聴覚士科(昼間部)	40	3年	H13.4.1	963-8811	福島県郡山市方八町2-4-19	学校法人国際総合学園	出願資格：高校卒業(見込)
4	茨城	医療専門学校水戸メディカルカレッジ	言語聴覚療法学科(昼間部)	40	3年	情報なし	310-0035	茨城県水戸市東原3-2-5	社会福祉法人北養会	出願資格：高校卒業(見込)
5	群馬	前橋医療福祉専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	2年	情報なし	371-0006	群馬県前橋市石関町122-6	学校法人未来学園	出願資格：大学卒業(見込)
6	埼玉	埼玉福祉保育医療専門学校(2023年4月より埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校へ名称変更)	2023年4月まで 言語聴覚士科(昼間部) 言語聴覚士科II部(夜間部) 2024年4月入学者以降 言語聴覚士科(午前コース) (午後コース)	80	3年	情報なし	330-0845	埼玉県さいたま市大宮区仲町3-88-2	学校法人東京滋慶学園	出願資格：高校卒業(見込) II部出願資格：大学卒業(見込) 言語聴覚士科II部のみ2年制 午前コース(9時10分～14時40分)、午後コース(15時10分～20時00分)
7	東京	東京医療看護専門学校	言語聴覚士科(昼間部) 2年制・3年制	80	2、3年	H6.4.1	134-0084	東京都江戸川区東葛西6-5-12	学校法人滋慶学園	3年制出願資格：高校卒業(見込) 2年制出願資格：大学卒業(見込) 2年制は原則土・日・月の週3日間授業
8	東京	首都医校	言語聴覚学科(昼間部：2年制)	20	2年	H21.4.1	160-0023	東京都新宿区西新宿1-7-3	学校法人日本教育財団	出願資格：大学卒業(見込)
9	東京	日本福祉教育専門学校	言語聴覚療法学科(昼間部)	78	2年	H9.4.1	169-0075	東京都新宿区高田馬場2-16-3	学校法人敬心学園	出願資格：大学卒業(見込)
10	東京	西武学園医学技術専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	H17.4.1	170-0013	東京都豊島区東池袋3-9-3	学校法人文理佐藤学園	出願資格：高校卒業(見込)
11	東京	多摩リハビリテーション学院専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	2年	情報なし	198-0004	東京都青梅市根ヶ布1-642-1	学校法人和風会	出願資格：大学卒業(見込)
12	神奈川	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	35	2年	253-0061	253-0061	神奈川県茅ヶ崎市南湖1-6-11	学校法人湘南ふれあい学園	出願資格：大学卒業(見込)
13	長野	長野医療衛生専門学校	言語聴覚士学科(昼間部)	30	4年	H13.4.1	386-0012	長野県上田市中央2-13-27	学校法人成田会	出願資格：高校卒業(見込)
14	岐阜	サンビレッジ国際医療福祉専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	20	3年	H14.4.1	503-2413	岐阜県掛妻郡池田町白鳥104	社会福祉法人新生会	出願資格：高校卒業(見込)
15	愛知	名古屋医専	言語聴覚科(昼間部)	20	2年	H20.4.1	450-0002	愛知県名古屋市中村区名駅4-27-1	学校法人日本教育財団	出願資格：大学卒業(見込)
16	愛知	東海医療科学専門学校	言語聴覚科(昼間部)	40	2年	H14.4.1	450-0003	愛知県名古屋市中村区名駅南2-7-2	学校法人セムイ学園	出願資格：大学卒業(見込)
17	愛知	専門学校日本聴覚言語福祉学院	補聴言語学科(昼間部) 聴能言語学科(昼間部)	60	3年、2年	S60.4.1	453-0023	愛知県名古屋市中村区若宮町2-14	学校法人珪山学園	補聴言語学科出願資格：高校卒業(見込) 聴能言語学科出願資格：大学卒業(見込)
18	愛知	日本福祉大学中央福祉専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	情報なし	2年	情報なし	460-0012	愛知県名古屋市中区千代田3-27-11	学校法人日本福祉大学	出願資格：大学卒業(見込)
19	京都	京都健康専門学校	言語聴覚科(昼間部)	40	2年	H24.4.1	604-8203	京都府京都市中京区衣笠町51-2	学校法人滋慶コミュニケーションアート	出願資格：大学卒業(見込)
20	大阪	大阪医療技術学園専門学校	言語聴覚士学科(昼間部：3年制) 言語聴覚士学科(昼夜間：2年制)	80	3年、2年	H18.4.1	530-0044	大阪府大阪市北区東天満2-1-30	学校法人大阪滋慶学園	昼間部3年制出願資格：高校卒業(見込) 昼夜間2年制出願資格：大学卒業(見込)
21	大阪	大阪医専	言語聴覚学科(昼間部：2年制)	40	2年	H12.4.1	531-0003	大阪府大阪市北区大淀中1-10-3	学校法人日本教育財団	出願資格：大学卒業(見込)
22	大阪	大阪医療福祉専門学校	言語聴覚士学科(昼間部)	30	2年	情報なし	532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原1-2-14	学校法人大阪滋慶学園	出願資格：大学卒業(見込)
23	兵庫	神戸総合医療専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	25	2年	H11.4.1	654-0142	兵庫県神戸市須磨区友が丘7-1-21	医療法人社団慈恵会	出願資格：大学卒業(見込)
24	兵庫	関西総合リハビリテーション専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	H13.4.1	656-2132	兵庫県淡路市志筑新島7-4	社会医療法人社団順心会	出願資格：高校卒業(見込)
25	兵庫	平成リハビリテーション専門学校	言語聴覚療法学科(昼間部)	30	3年	H26.4.1	663-8231	兵庫県西宮市津門西口町2-26	社会福祉法人関西中央福祉会	出願資格：高校卒業(見込)
26	兵庫	神戸医療福祉専門学校三田校	言語聴覚士科(昼間部)	40	4年	情報なし	669-1313	兵庫県三田市福島501-85	学校法人神戸滋慶学園	出願資格：高校卒業(見込)
27	兵庫	姫路医療専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	40	3年	情報なし	670-0927	兵庫県姫路市駅前町27-2	学校法人神戸滋慶学園	出願資格：高校卒業(見込)
28	奈良	関西学研医療福祉学院	言語聴覚学科(昼間部)	40	2年	H12.4.1	631-0805	奈良県奈良市石京1-1-5	学校法人青丹学園	出願資格：大学卒業(見込)
29	島根	リハビリテーションカレッジ島根	言語聴覚学科(昼間部)	40	4年	H11.4.1	699-3225	島根県浜田市三隅町古木場2086-1	学校法人同志舎	出願資格：高校卒業(見込)
30	岡山	朝日医療大学校	言語聴覚学科(昼間部)	30	3年	H27.4.1	700-0026	岡山県岡山市北区奉還町2-7-1	学校法人朝日医療学園	出願資格：高校卒業(見込)
31	山口	山口コ・メディカル学院	言語聴覚学科(昼間部)	20	4年	H10.4.1	753-0054	山口県山口氏富田原町2-24	学校法人山口コア学園	出願資格：高校卒業(見込)
32	愛媛	四国中央医療福祉総合学院	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	情報なし	799-0422	愛媛県四国中央市中之庄町1684-10	学校法人RWFグループ	出願資格：高校卒業(見込)
33	福岡	専門学校麻生リハビリテーション大学校	言語聴覚学科(昼間部：3年制) 言語聴覚学科(昼夜間部：2年制)	80	3年、2年	H13.4.1	812-0007	福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1	麻生専門学校グループ	昼間部3年制出願資格：高校卒業(見込) 昼夜間2年制出願資格：大学卒業(見込)
34	福岡	専門学校柳川リハビリテーション学院	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	H11.4.1	832-0058	福岡県柳川市上宮永町116-1	学校法人高木学園	出願資格：高校卒業(見込)
35	長崎	長崎リハビリテーション学院	言語療法学科(昼間部)	40	3年	H3.4.1	856-0048	長崎県大村市赤佐古町42	学校法人向陽学園	出願資格：高校卒業(見込)
36	熊本	熊本駅前看護リハビリテーション学院	言語聴覚療法学科(昼間部)	40	4年	H12.4.1	860-0047	熊本県熊本市西区春日2-1-15	学校法人青照学舎	出願資格：高校卒業(見込)
37	大分	大分リハビリテーション専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	30	3年	H13.4.1	870-8658	大分県大分市千代町3-22	学校法人平松学園	出願資格：高校卒業(見込)
38	鹿児島	鹿児島医療技術専門学校	言語聴覚療法学科(昼間部)	40	4年	H12.4.1	891-0133	鹿児島県鹿児島市平川町字宇都口5417-1	学校法人原田学園	出願資格：高校卒業(見込)

全国の言語聴覚士養成校一覧

【資料8】

39	鹿児島	鹿児島第一医療リハビリ専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	30	3年	H15.4.1	899-4395	鹿児島県霧島市国分中央1-12-42	学校法人都築教育学園	出願資格:高校卒業(見込)
40	沖縄	沖縄リハビリテーション福祉学院	言語聴覚学科(昼間部)	30	3年	H17.4.1	901-1393	沖縄県尻尻郡与那原町板良敷1380-1	医療法人おもと会	出願資格:高校卒業(見込)
合計			40専門学校							1,608
総計			4 大学専攻科、28 大学、1 専門職大学、2 短期大学 専攻科、2大学院、41専門学校							3,139

近畿地方の言語聴覚士養成校一覧

(令和5年2月15日現在)

(私立：大学専攻科)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学 定員	修業 年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	大阪	大阪保健医療大学	言語聴覚専攻科	40	2年	H21.4.1	530-0043	大阪府大阪市北区天満1-9-27	学校法人福田学園	
合計			1 大学専攻科	40						

(私立：大学)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学 定員	修業 年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	京都	京都先端科学大学	健康医療学部言語聴覚学科	30	4年	H27.4.1	615-8577	京都府京都市右京区山ノ内五反田町18	学校法人永守学園	H31.4設置者変更、学校名変更
2	京都	京都光華女子大学	健康科学部医療福祉学科言語聴覚専攻	30	4年	H26.4.1	615-0882	京都府京都市右京区西京極葛野町38	学校法人光華女子学園	
3	大阪	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚専攻	40	4年	H18.4.1	597-0104	大阪府貝塚市水間158	学校法人河崎学園	
4	大阪	大阪人間科学大学	保健医療学部言語聴覚学科	40	4年	H24.4.1	566-8501	大阪府摂津市正雀1-4-1	学校法人薫英学園	R2.4人間科学部医療心理学科言語聴覚専攻の改組転換
5	大阪	関西福祉科学大学	保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚専攻	40	4年	H27.4.1	582-0026	大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1	学校法人玉手山学園	
6	大阪	大和大学	保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚専攻	40	4年	H26.4.1	564-0082	大阪府吹田市片山町2-5-1	学校法人西大和学園	
7	兵庫	姫路獨協大学	医療保健学部言語聴覚療法学科	20	4年	H18.4.1	670-8524	兵庫県姫路市上大野7-2-1	学校法人獨協学園	
合計			7 大学	240						

(私立：短期大学専攻科)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学 定員	修業 年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	奈良	白鳳短期大学	専攻科リハビリテーション学専攻言語聴覚学課程	20	1年	H23.4.1	636-0011	奈良県北葛城郡王寺町1-7-17	学校法人西大和学園	
合計			1 短期大学専攻科	20						

(私立：専門学校)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学 定員	修業 年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	大阪	大阪医療技術学園専門学校	言語聴覚士学科(昼間部:3年制) 言語聴覚士学科(昼夜間:2年制)	80	3年・2年	H18.4.1	530-0044	大阪府大阪市北区東天満2-1-30	学校法人大阪滋慶学園	昼間部3年制出願資格:高校卒業(見込) 昼夜間2年制出願資格:大学卒業(見込)
2	大阪	大阪医専	言語聴覚学科(昼間部:2年制)	40	2年	H12.4.1	531-0003	大阪府大阪市北区大淀中1-10-3	学校法人日本教育財団	出願資格:大学卒業(見込)
3	大阪	大阪医療福祉専門学校	言語聴覚士学科(昼間部)	30	2年	情報なし	532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原1-2-14	学校法人大阪滋慶学園	出願資格:大学卒業(見込)
4	兵庫	神戸総合医療専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	25	2年	H11.4.1	654-0142	兵庫県神戸市須磨区友が丘7-1-21	医療法人社団慈恵会	出願資格:大学卒業(見込)
5	兵庫	関西総合リハビリテーション専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	H13.4.1	656-2132	兵庫県淡路市志筑新島7-4	社会医療法人社団順心会	出願資格:高校卒業(見込)
6	兵庫	平成リハビリテーション専門学校	言語聴覚療法学科(昼間部)	30	3年	H26.4.1	663-8231	兵庫県西宮市津門西口町2-26	社会福祉法人関西中央福祉会	出願資格:高校卒業(見込)
7	兵庫	神戸医療福祉専門学校三田校	言語聴覚士科(昼間部)	40	4年	情報なし	669-1313	兵庫県三田市福島501-85	学校法人神戸滋慶学園	出願資格:高校卒業(見込)
8	兵庫	姫路医療専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	40	3年	情報なし	670-0927	兵庫県姫路市駅前町27-2	学校法人神戸滋慶学園	出願資格:高校卒業(見込)
9	奈良	関西学研医療福祉学院	言語聴覚学科(昼間部)	40	2年	H12.4.1	631-0805	奈良県奈良市右京1-1-5	学校法人青丹学園	出願資格:大学卒業(見込)
総計			1 大学専攻科、7 大学、1 短期大学専攻科、9 専門学校	665						

教育課程等の概要																	
(総合リハビリテーション学部言語聴覚学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2				○			3	2	3			兼1	オムニバス・共同(一部)
		物理学	1後		2			○								兼1	
		生物学	1前	2		2			○							兼1	
		化学	1前		2				○							兼1	
		情報処理	1前	2						○						兼1	
	統計学	3前	2						○						兼1		
	人間理解と社会	心理学	1前	2				○								兼1	
		生命倫理学	1後	2				○								兼1	
		哲学	1前		2			○								兼1	
		社会福祉学	1後	2				○								兼1	
		日本国憲法	1後		2			○								兼1	
		東洋史概説	3前		2			○								兼1	
	西洋史概説	3前		2			○								兼1		
	語学	英語Ⅰ(初級)	1前	2					○							兼2	
		英語Ⅱ(中級)	1後	2					○							兼2	
英会話		2前		2				○							兼1		
医学英語		2後		2				○							兼1		
基礎英語演習		2前		2				○							兼1		
応用英語演習		2後		2				○							兼1		
小計(19科目)		—	18	20	0			—		3	2	3	0	0	兼12		
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1				○			1					兼4 兼1 兼1 兼1 兼1 兼3 兼2 兼3	オムニバス
		チーム医療見学実習	1前	1				○			1						
		医療コミュニケーション	2前	1				○			1						
		チーム医療論	2後	1					○		1						
		IPW論	3前	1					○		1						
		基礎体育	1後	2					○								
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前		2			○									
		健康管理学Ⅰ	2前		2			○									
		健康管理学Ⅱ	2後		2			○									
		栄養学	2後		2			○									
		身体運動科学	2前		2			○									
		東洋医療概論	3前		2			○									
		統合医療概論	3前		2			○									
	小計(13科目)		—	7	14	0			—		1	0	0	0	0	兼14	
学科専門科目群	言語学	言語学	1後	2				○								兼1	オムニバス
		音声学	1後	2				○								兼1	
		音響学(聴覚心理学を含む)	1後	2				○								兼1	
	小計(3科目)		—	6	0	0			—		0	0	0	0	0	兼2	
	人体の構造と機能及び治療	医学総論	1前	1				○								兼1	
		人体の構造Ⅰ	1前	2				○								兼1	
		人体の構造Ⅱ	1後	2				○								兼1	
		人体の機能Ⅰ	1前	2				○								兼1	
		人体の機能Ⅱ	1後	2				○								兼1	
		病理学	2後	1				○								兼1	
		臨床病態学Ⅰ(形成外科学含む)	2前	1				○								兼1	
		臨床病態学Ⅱ	2後	1				○								兼1	
		臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む)	3前	1				○								兼3	
		耳鼻咽喉科学	2後	1				○								兼1	
		臨床歯科医学(口腔外科学を含む)	2後	1				○								兼1	
音声・言語・聴覚医学		1前	3				○			2	1	2					
言語発達学	1後	1				○					1						
リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	3前	2				○								兼1			
チームリハビリテーション概論	2前	1				○			1					兼2			
小計(15科目)		—	22	0	0			—		3	1	3	0	0	兼9		

教 育 課 程 等 の 概 要																					
(総合リハビリテーション学部言語聴覚学科)																					
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考							
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手								
学科専門科目群	専門基礎科目	心の働き	臨床心理学 学習・認知心理学 心理測定法 発達心理学	2前 3前 3前 1後	2 2 1 2			○ ○ ○ ○							兼1 兼1 兼1 兼1						
		小計(4科目)			—	7	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3				
		障害・社会 とリハビ リテー ション	医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む) リハビリテーション概論	2前 1前	1 1			○ ○									兼1 兼1				
小計(2科目)			—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2						
学科専門科目群	専門科目	言語聴覚 総論 障害学	言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学概論Ⅱ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 総合リハビリテーションIPW演習	1前 1後 3後 4後 4後 3前	1 1 1 1 1 1			○ ○ ○ ○ ○ ○			3 1 3 3 3 1	2 2 2 2 2	3 1 3 3 3				兼3 兼3				
			小計(6科目)			—	5	1	0	—			3	2	3	0	0	兼3			
			失語・高次 脳機能 障害学	失語・高次脳機能障害学概論 失語症学演習 高次脳機能障害学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ	2前 2後 2後 2後 3前 4前	2 1 1 1 1 1			○ ○ ○ ○ ○ ○			2 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1					兼0		
				小計(6科目)			—	7	0	0	—			2	1	1	0	0	兼0		
				言語 発達 障害学	言語発達障害学Ⅰ 言語発達障害学Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅰ 言語発達障害学演習Ⅱ	2前 2前 2後 3前	2 2 1 1			○ ○ ○ ○					1 1 3 3					兼0	
					小計(4科目)			—	6	0	0	—			0	0	3	0	0	兼0	
		発声 発語・ 嚥下 障害学			発声発語・嚥下障害学Ⅰ 発声発語・嚥下障害学Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅲ 音声障害学 吃音学 発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ	1後 2前 2後 2後 3前 2前 3前 3後	1 1 2 1 1 1 1 1			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 2 1 1 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1					兼1 兼1	
			小計(8科目)			—	9	0	0	—			2	1	2	0	0	兼1			
			聴覚 障害学	聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学Ⅲ 聴覚障害学Ⅳ 聴覚障害学演習Ⅰ 聴覚障害学演習Ⅱ 聴覚障害学演習Ⅲ	1後 2前 2前 3前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○					1 1 1 1 2 2 2					兼0		
				小計(7科目)			—	7	0	0	—			0	0	2	0	0	兼0		
				臨床 実習	臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習)	2前 3前 2通 3通 4前	1 1 2 5 8					○ ○ ○ ○ ○			5 5 5 5 5	2 2 2 2 2	3 3 3 3 3				兼0
					小計(5科目)			—	17	0	0	—			5	2	3	0	0	兼0	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(総合リハビリテーション学部言語聴覚学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学科専門科目群	総合領域	高齢期リハビリテーション概論	2後	1			○			3	2				
		高齢期リハビリテーション演習	3前	1				○		3	2				
		高齢期リハビリテーション特論	3後	1					○	3	2				
		小児リハビリテーション概論	2後	1			○					3			
		小児リハビリテーション演習	3前	1				○				3			
		小児リハビリテーション特論	3後	1				○				3			
		精神・心理リハビリテーション概論	2後	1			○					1			
		精神・心理リハビリテーション演習	3前	1				○				1			
		精神・心理リハビリテーション特論	3後	1				○				1			
	小計 (9科目)		—	0	9	0			—	3	2	3	0	0	兼0
	研 卒 究 業	卒業研究Ⅰ	3通	2				○		5	2	3			
		卒業研究Ⅱ	4通	2				○		5	2	3			
	小計 (2科目)		—	4	0	0			—	5	2	3	0	0	兼0
	選 択 必 修	言語聴覚療法セミナーⅠ (失語・高次脳機能障害学)	4通		2			○		2	1				
		言語聴覚療法セミナーⅡ (発声発語・嚥下障害学)	4通		2			○		2	1				
言語聴覚療法セミナーⅢ (言語発達障害学)		4通		2			○				2				
言語聴覚療法セミナーⅣ (聴覚障害学)		4通		2			○				2				
言語聴覚療法セミナーⅤ (拡大・代替コミュニケーション)		4通		1			○		1	1	1				
小計 (5科目)		—	0	9	0			—	3	2	3	0	0	兼0	
合計 (108科目)		—	117	53	0			—	5	2	3	0	0	兼42	
学位又は称号		学士 (言語聴覚学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
4年以上在籍し、教養科目群から必修18単位+選択2単位以上、共通科目群から必修7単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目から必修37単位、学科専門科目群の専門科目から必修55単位、選択必修科目から選択8単位以上の計129単位以上修得すること。なお、履修できる単位数は半期24単位、通年で48単位以内とする。							1 学年の学期区分			2期					
							1 学期の授業期間			15週					
							1 時限の授業時間			90分					

森ノ宮医療大学 収容定員に係る学則変更認可申請
学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科
学生の確保の見通し等を記載した書類

(1)学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	3
ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	3
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析	3
A. 言語聴覚士とは	3
B. 言語聴覚士を取り巻く環境	4
C. 言語聴覚士有資格者数	5
D. 言語聴覚士養成学校	5
E. 言語聴覚学科設置の必要性	6
ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	6
(ア)新設学科の趣旨目的	6
A. 精度の高い専門的知識と専門技術	6
B. チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力	6
C. 豊かな人間力	6
D. 主体的問題解決能力	6
(イ)教育内容	7
A. 教育課程の変更内容と質の担保	7
(A)言語聴覚学科の教養科目群	7
(B)言語聴覚学科の共通科目群	7
(C)言語聴覚学科の学科専門科目群	7
(ウ)アやイで分析した課題に対して新設学科等がどのように貢献できるのか	8
(エ)定員設定の理由	9
(オ)今、学科等を新設しなければいけない理由	9
(カ)新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠	10
エ 学生確保の見通し	10
A. 学生確保の見通しの調査結果	10

(A) 高校卒業後の進路について	10
(B) 興味のある分野(第1位)について	11
(C) 森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科への興味・関心について	11
(D) 森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科への受験意向について	11
(E) 森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科への入学意向について	11
(F) 森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科への受験意向と入学意向の クロス集計について	12
B. 新設学部等の分野の動向	12
C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等	12
D. 競合校の状況	12
E. 既設学部等の学生確保の状況	13
オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	13
A. オープンキャンパス	14
B. 本学公式WEBサイト	14
C. 受験情報雑誌／進学情報サイト	14
D. 進学相談会／高校ガイダンス	15
E. 高校訪問	15
F. 教員対象説明会(高等学校・塾・予備校教員対象)	15
(2) 人材需要の動向等社会の要請	16
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	16
ア 精度の高い専門的知識と専門技術	16
イ チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力	16
ウ 豊かな人間力	16
エ 主体的問題解決能力	16
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	16
ア 社会的な需要	17
イ 近畿および大阪エリアにおける言語聴覚士の需要	17
ウ 業界団体からの要請	18
エ 既設学科の求人状況	18
オ 第三者機関による採用意向調査結果	18
(ア) 調査の概要	18
(イ) 調査の結果	19
カ 結論	20

森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科 学生の確保の見通し等を記載した書類

(1)学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

本計画は、本学総合リハビリテーション学部新たに言語聴覚学科（入学定員 40 名 収容定員 160 名）を設置し、大学全体の収容定員を 1,880 名から 2,040 名へ増加させる計画である。

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

平成 19（2007）年 4 月に開設された森ノ宮医療大学（保健医療学部鍼灸学科および理学療法学科）は、4 年後の平成 23（2011）年 4 月には、保健医療学部看護学科と、大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）を設置し、さらに 5 年後の平成 28（2016）年 4 月には、保健医療学部臨床検査学科と作業療法学科の 2 学科と、1 年課程の助産学専攻科を設置、平成 30（2018）年 4 月には保健医療学部臨床工学科と、大学院保健医療学研究科医療科学専攻（博士後期課程）を設置、令和 2（2020）年 4 月に保健医療学部診療放射線学科と大学院保健医療学研究科看護学専攻（修士課程）を設置した。

令和 4（2022）年 4 月には保健医療学部を再編、総合リハビリテーション学部と看護学部を新設し、保健医療学部を医療技術学部へ名称変更、大学院に保健医療学研究科看護学専攻（博士後期課程）を新設したことから、大学開設以来十数年で、3 学部 7 学科、1 専攻科、大学院 1 研究科 4 専攻（修士課程・博士前期課程・博士後期課程）という体制になった。

言語聴覚学科を設置する総合リハビリテーション学部には、現在、理学療法学科および作業療法学科の 2 学科が設置されており、「リハビリテーション」という広い視点において理学療法士、作業療法士が果たすべき役割について思考できるカリキュラムが構築されている。そこでは、自分自身が専門職として他の医療スタッフを尊重しつつ、対象者に最適なりハビリテーション医療を提供できる人材の育成を目指している。また、卒業教育においても、大学と卒業生との双方向で最新情報をリアルタイムに共有し、リハビリテーション医療のさらなる前進への貢献を目指している。

この目標を達成するにあたり、「リハビリテーション」という広い視点で考えるうえでは、理学療法学科と作業療法学科だけでは十分と言えず、分野の異なるリハビリテーションのアプローチについても学ぶことができる環境の整備が課題として上げられる。また、本学が推進している「チーム医療教育」のさらなる拡充を図ることも課題である。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

A. 言語聴覚士とは

言語聴覚士は、平成 9（1997）年に制定された言語聴覚士法により、医師または歯科医師

の指示の下で嚥下訓練の実施が可能となった職種であり、「話す」「聴く」「食べる（安全に飲み込む）」機能に障害のある者（児）に対して評価、訓練、支援などを行う。その対象は小児から高齢者まで幅広く、保健・教育・福祉領域など、医療機関以外からの需要も高まっており、言語聴覚士が社会において果たす役割は近年ますます拡大している。

B. 言語聴覚士を取り巻く環境

内閣府発表の平成 25 年版障害者白書には、聴覚・言語障害者、聴覚障害者、音声・言語・そしゃく機能障害者（児）の数は幼児から高齢者まで含めると約 70 万人であること、国立研究開発法人情報通信研究機構の「障害別にみた障害者数（構成比）の推移」の平成 28 年のデータでは障害者総数のうち約 8%を聴覚・言語障害者が構成していることが示されている。さらに、大阪府では平成 29（2017）年 3 月 29 日に「大阪府言語としての手話の認識の普及及び習得の機会の確保に関する条例」が公布・施行されたことに伴い、難聴児への早期支援をはじめとして聴覚者（児）の「暮らす」「学ぶ」「働く」といった生活場面で手話習得支援の取組みを行っており、難聴者（児）への支援等の要請が高まっている。また、摂食・嚥下障害の主な原因疾患となる脳卒中の罹患者数は多く、さらには正常加齢によっても嚥下機能の低下をもたらすことから、言語聴覚士は嚥下障害に関する評価や訓練、助言、サポートにおいても重要な役割を担っている。加えて、令和 2 年版高齢社会白書によると令和 7（2025）年には 65 歳以上の高齢者人口が 3 割を超え、令和 37（2055）年には 4 人に 1 人が 75 歳以上になると推計されており【資料 1】、超高齢社会が進展する我が国において、言語聴覚士は、病院で行われる急性期または回復期のリハビリテーション、さらには、在宅を中心とした生活期リハビリテーションにおいて、言語機能、コミュニケーション能力、聴力、摂食・嚥下機能、発声・発語機能、認知機能などの障害や機能低下に対応するリハビリテーション専門職としての役割を担っている。

例えば、病院・診療所で働く言語聴覚士の数は、厚生労働省の統計調査「医療施設調査」によると、平成 14（2002）年から令和 2（2020）年の間に 3,777 人から 17,905 人へと 5 倍近い伸びを示しており、言語聴覚士はリハビリテーション専門職の中で、理学療法士・作業療法士に次いで増加が目立つ職種の一つとなっている【資料 2】。平成 28（2016）年 8 月 5 日付「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会）の言語聴覚士の数の充足についての項目では、言語聴覚士の数は基準上充足していると答える病院が多い反面、運営上（患者の状況に応じた必要な人員）では充足していないと答えている病院の割合も多く【資料 3】、同じく「令和 7（2025）年までに言語聴覚士の雇用を増やしていく予定か」という項目に対しては、近畿では雇用を増やしていくとする病院が 3 割近くを占めている。しかし、「募集の現状と将来の見通し」の項目では、言語聴覚士を増やしたいが、募集人数に比べて集まらないという声があがっている【資料 4】。また、日本言語聴覚士協会が公表する「会員動向」（令和 4（2022）年 4 月 1 日時点）によると、病院だけでなく介護保険施設で従事している言語聴覚士の数も増えている【資料 5】。

C. 言語聴覚士有資格者数

言語聴覚士の有資格者数は、令和4(2022)年4月1日時点で38,200人となり【資料5】、そのうち病院や診療所で働く言語聴覚士数は17,905人となったが、この数は、理学療法士100,965人、作業療法士51,056人と比べて明らかに少ない【資料2】。また、令和4年(2022)年2月実施の「第24回言語聴覚士国家試験」の合格者数は1,945人であり、毎年新たに誕生する有資格者数も理学療法士10,096人、作業療法士4,608人に比して少ない。さらに、国家試験合格率については、直近10年ほどは70%前後を推移しており、改善傾向にはあるものの高いとはいえない【資料6】。令和4(2022)年4月1日時点の都道府県別日本言語聴覚士協会会員数を見ると、大阪府の会員数は1,161人で、東京都(1,630人)について第2位であるものの、大都市圏の大阪エリアにおける言語聴覚士はまだまだ不足しているのが現状である【資料7】。

D. 言語聴覚士養成学校

言語聴覚士養成校の数は全国で70校を超え、入学定員も3,000人を超えるまで拡大している【資料8】。近畿エリアにおいて、令和5(2023)年3月現在、言語聴覚学科(専攻を含む)を設置している大学は8校、このうち大阪府には5校であり、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3つのリハビリテーション職種で構成された総合リハビリテーション学部・学科(リハビリテーション学部、保健医療学部を含む)を持つ大学は5大学のみで全て大阪府に所在している。そして、3つのリハビリテーション職種で構成された総合リハビリテーション学部(リハビリテーション学部を含む)を設置し、学部単位での教育を行っている大学は大阪府に1校のみ(リハビリテーションの単科大学)であり、本学のように総合リハビリテーション学部、看護学部、医療技術学部の学部単位で構成された医療系総合大学はまだない。一方で、言語聴覚学科を設置している専門学校は近畿エリアでは9校、大阪府には3校設置されており、全国的にみると4年制大学よりも専門学校の方が多く設置されているが、全国的には2~3年課程、大阪府においては2年課程の専門学校が多くなっている【資料9】。近年、言語聴覚士はリハビリテーション専門職として、チーム医療に貢献できる科学的な学問体系から得られた専門的知識・専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力、問題解決に向けた科学的思考能力、主体的学修能力等、さまざまな能力が求められるようになってきている。このような質の高い言語聴覚士を育成するには、4年制大学における学士課程での教育が望ましいと考えられる。また、言語聴覚士養成校のうち4年制大学に寄せられる求人倍率は10倍以上という高倍率を維持し続けており、このことから、言語聴覚士の高い需要と必要とされる有資格者数の不足が示唆される。この傾向は言語聴覚士が平成9(1997)年に国家資格化されて以来長らく続いており、今後も長期間にわたる需要が見込まれることから、4年制大学における言語聴覚士の養成は喫緊の課題と考えられる。

これらの状況から、本学の総合リハビリテーション学部に言語聴覚学科を設置すること

は必要であると考えている。

また、言語聴覚士の業界団体「一般社団法人大阪府言語聴覚士会」より、大阪府をはじめとする近畿エリアでは言語聴覚士を養成する大学がまだまだ少ないことや、チーム医療に欠かせない知識や技術、寛容性等を身につけた言語聴覚士が社会的に求められていることなどから、本学の言語聴覚学科開設を求める要望書が寄せられている【資料10】。

E. 言語聴覚学科設置の必要性

言語聴覚士を取り巻く地域・社会的動向等の現状把握・分析に関してA～Dに記述のことから、言語聴覚士は現時点では病院での需要も高く、かつ、病院以外の在宅・地域における領域からのニーズも高い一方で、近畿エリアで輩出される言語聴覚士の数は需要に対してまだ十分とはいえ、本学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科を設置することは、そうした社会的必要性を踏まえたものといえる。

ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

(ア)新設学科の趣旨目的

今回、設置を計画している総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の設置の目的（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）は次の通りである。

チーム医療に貢献できる協調性とコミュニケーション能力を有し、専門的な知識と技能および幅広い教養と豊かな感性を備え、科学的根拠に基づいて対象児・者が抱える問題の解決や支援のための言語聴覚療法を実践できる言語聴覚士を養成することを目的とし、下記のA～Dの能力を身につけた人材を養成する。

A. 精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける言語聴覚療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができる。

B. チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた言語聴覚療法を提供することができる。

C. 豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

D. 主体的問題解決能力

言語聴覚療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々

のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

(イ)教育内容

A 教育課程の変更内容と質の担保

新設する言語聴覚学科の教育課程については、基本的に既設 3 学部 7 学科の教育課程を基盤として策定する。本学の教育課程は、「教養科目群」、「共通科目群」、「学科専門科目群」と順次体系的に構成されている。この構成は、医療に携わる専門職の養成に有効なプログラムを提供するのみならず、中央教育審議会の答申を踏まえ、学士力（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力）を育むように編成されている。新学科も、これに準じて科目編成を行う。

(A) 言語聴覚学科の教養科目群

「教養科目群」は、新設する言語聴覚学科を含む 3 学部 8 学科に共通する科目群である。教養科目群は「科学的思考」、「人間理解と社会」、「語学」の 3 つの科目区分によって構成される。この群では、保健・医療・福祉領域に従事する専門職として必要な高い倫理観と豊かな人間性、そして柔軟かつ創造的な知性および実践できる能力の形成を育む。

(B) 言語聴覚学科の共通科目群

「共通科目群」では、言語聴覚学科と既設の 3 学部 7 学科が密に連携をもち、専門職種間での相互の理解を深めた教育を目指す。学科を越えて同じ目標に向かい、ともに学ぶ機会を設けることで異なる医療職種の理解につなげる。

特に「医療コミュニケーション」と「チーム医療論」は、医療の現場でチームとして協働するために必要とされる資質や素養を身につけるため、医療者と患者間および医療者同士のコミュニケーションを学ぶとともに、医療におけるコミュニケーションの重要性とチーム医療の意義を学び、多様な環境に対応できる能力を育む。また、同じく必修とした「IPW論」では、異なる医療職を目指す他学科の学生との症例検討等を通し、専門職間連携の方法について学びを深める。

(C) 言語聴覚学科の学科専門科目群

言語聴覚学科の「学科専門科目群」は、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分される。

「専門基礎科目」では、言語聴覚士資格取得を目指す者が学ぶべき専門教育に直結する知識と技術、ならびに専門教育の理解と理論付けの基礎として必要な「言語とコミュニケーション」、「人体の構造と機能及び治療」、「心の働き」、「社会保障、教育とリハビリテーション」の 4 領域から構成されている。

「専門科目」では、特色として、基本的かつ実践的な言語聴覚療法が実施できるような教育カリキュラムと教員を配置している。具体的には、「言語聴覚障害学総論」領域において、言語聴覚療法の臨床場面で必要となる知識や技能について総合的な学びを深め、「失語・高次脳機能障害学」「言語発達障害学」「発声発語・嚥下障害学」「聴覚障害学」の 4 領域を設

定して専門科目を展開し、多領域に渡って専門性の高い内容を学び、知識と技能を修得する。また、総合リハビリテーション学部では、3学科合同で高齢期、小児、精神・心理の3分野について専門的に学修する「総合領域」を設定し、2年後期に自身が興味のある分野を1つ選択し、他のリハビリテーション職を志す学生と共に知識を深め専門職としてキャリア形成を目指すことができるよう、令和6年度に総合リハビリテーション学部既設2学科のカリキュラムを変更する。なお、「総合領域」に設定する科目はすべて選択科目とし、受講にあたっては学生が自由に選択できる。

(ウ)アヤイで分析した課題に対して新設学科等がどのように貢献できるのか

本学の総合リハビリテーション学部においては、「リハビリテーション」という広い視点において理学療法士、作業療法士が果たすべき役割について考え、自分自身が専門職として他の医療スタッフを尊重しつつ、対象者に最適なリハビリテーション医療を提供できる人材の育成が必要であり、卒後教育においても、最新情報をリアルタイムで大学と卒業生との双方向で共有し、リハビリテーション医療をさらに前進させることが求められている。

この目標を達成するにあたり、「リハビリテーション」という広い視点で考えるうえでは、理学療法学科と作業療法学科だけでは十分と言えず、分野の異なるリハビリテーションのアプローチについても学ぶことができる環境の整備が課題として上げられる。また、本学が推進している「チーム医療教育」のさらなる拡充を図ることも課題である。総合リハビリテーション学部言語聴覚学科を設置することでこれらの課題の解決に貢献できると考える。

また、超高齢社会が進展する我が国では、言語聴覚士は、病院で行われる急性期または回復期のリハビリテーション、在宅を中心とした生活期リハビリテーションにおいて、言語機能、コミュニケーション能力、聴力、摂食・嚥下機能、発声・発語機能、認知機能などの障害や機能低下に対応するリハビリテーション専門職としての役割の重要性が増してきている。さらに医療機関においては、リハビリテーション分野の専門職はもとより、医師・看護師等の他の医療専門職との連携による「チーム医療」が求められている。また、言語聴覚士の業界団体「一般社団法人大阪府言語聴覚士会」より、大阪府をはじめとする近畿エリアでは言語聴覚士を養成する大学がまだまだ少ないことや、チーム医療に欠かせない知識や技術、寛容性等を身につけた言語聴覚士が社会的に求められていることにより本学に言語聴覚学科の開設の要望が寄せられている。

近年、言語聴覚士はリハビリテーション専門職として、チーム医療に貢献できる科学的な学問体系から得られた専門的知識・専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力、問題解決に向けた科学的思考能力、主体的学修能力等、さまざまな能力が求められており、このような質の高い言語聴覚士を育成するには、4年制大学における学士課程での教育が望ましいと考えられる。また、近畿エリアの言語聴覚士養成校のうち4年制大学に寄せられる求人倍率は10倍以上という高倍率を維持し続けており、このことから、言語聴覚士の高い需要と必要とされる有資格者数の不足が示唆されている。この

傾向は言語聴覚士が平成9（1997）年に国家資格化されて以来長らく続いており、今後も長期間にわたる需要が見込まれることから、4年制大学における言語聴覚士の養成は喫緊の課題であり、森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部に言語聴覚学科を開設することにより4年制大学における言語聴覚士養成の課題に貢献できる。

また、近畿エリアの養成機関においては、リハビリテーション分野で構成された学部単位での教育を行う大学は少ない。本学の総合リハビリテーション学部に言語聴覚学科を開設することにより、言語聴覚学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科が連携した学びが可能となり、「リハビリテーション」という視点をさらに広げ、人材育成の幅も広がると考えられ、近畿エリアにおける言語聴覚士養成への貢献は大きい。さらに、8学科によるチーム医療教育の面においても、他の7学科の学生の言語聴覚士および言語聴覚療法についての理解が深まり、「チーム医療」に必要な多職種理解の拡大を図ることが可能となる。

森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部に言語聴覚学科を開設し、学科の目的である「チーム医療に貢献できる協調性とコミュニケーション能力を有し、専門的な知識と技能および幅広い教養と豊かな感性を備え、科学的根拠に基づいて対象児・者が抱える問題の解決や支援のための言語聴覚療法を実践できる言語聴覚士の養成」を達成することにより、これらの課題に貢献することが出来る。

(エ) 定員設定の理由

本学は開学以来安定して志願者数を確保しており、医療系大学として周辺地域の方々に支持されている。この度、総合リハビリテーション学部言語聴覚学科を開設するに当たり、教員組織、実習指導体制、学生支援体制、教育施設・設備等の面において現行の水準が確保できること、「学則変更の趣旨等を記載した書類」に記載されている言語聴覚士への社会的ニーズに応えること、長期的な学生確保が可能であること、言語聴覚士学校養成所指定規則において1学級の定員が10名以上40名以下と規定されていること、近畿地区における4年制大学の言語聴覚学科の定員が20名～40名に設定されていること等の観点を総合的に判断した結果、言語聴覚学科の入学定員を40名（収容定員160名）に設定することとした。

(オ) 今、学科等を新設しなければいけない理由

厚生労働省「令和2年版厚生労働白書」によれば、平成2（1990）年に12.1%であった我が国の高齢化率は令和元（2019）年までの間に16.3ポイント上昇して、28.4%に達しており、30年間で急激な高齢化が進行した。他方、内閣府「令和2年版高齢社会白書」によると、我が国の65歳以上人口は、「団塊の世代」（ベビーブーム世代）が75歳以上となる令和7（2025）年には3,677万人に達すると見込まれている。その後も65歳以上人口は増加傾向が続き、令和24（2042）年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計している。我が国における高齢化の問題は、高齢化の進展の「速さ」の問題だけでなく、高齢化率の「高さ」（＝高齢者数の多さ）への対応が問題となっており、そのためにも今、言

語聴覚学科を開設する意義は大きいと言える。

また、厚生労働省は、平成 30（2018）年に「未来投資戦略 2018」を発表し、その中で「健康寿命の延伸」を重点施策のひとつとして位置づけている。したがって、リハビリテーションに携わる言語聴覚士に対しても、「チーム医療」の中での知識や技能に加えて、リハビリテーション対象者の「健康寿命の延伸」をも見据えた多様な要望に対応するアプローチが期待されており、今後は更なる資質の向上が求められる。つまり、医師のリーダーシップのもとで、リハビリテーションの専門職として「自律性」を持った対応や判断ができる人材育成が喫緊の課題であり、その意味においても、令和 6（2024）年に、本学総合リハビリテーション学部新たに言語聴覚学科（入学定員 40 名 収容定員 160 名）を設置し、4 年制大学を卒業した質の高い言語聴覚士を輩出することにより、社会の需要に応え、有資格者不足の改善に貢献することが必要である。

（カ）新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

言語聴覚学科における初年度学生納付金（入学金＋授業料＋施設設備費）は、近隣競合校の状況や既設学科の初年度学生納付金を考慮し、180 万円に設定した。

近隣競合校の初年度学生納付金は、160～185 万円であり、言語聴覚学科が設定する初年度学生納付金もこの範囲内に納められている。また、本学の総合リハビリテーション学部の既設学科（理学療法学科、作業療法学科）の学生納付金と同額に設定した。**【資料 1 1】**なお本学では、水光熱費等の経費の高騰および新校舎（総合リハビリテーション学部棟）の新築をはじめとした教育施設の充実のため、令和 6 年 4 月より全学部学科で学費を改定することを現在検討している。他の学部学科の学費の変更にあわせて、言語聴覚学科の学費も今後改定予定である。

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

「森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケート」調査結果 **【資料 1 2】**

森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科への進学ニーズを調査する目的で、第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所による下記のアンケート調査を行った。

- ・実施者：一般財団法人日本開発構想研究所
- ・アンケート題目：森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケート
- ・調査対象者：令和 4 年度において高等学校 2 学年である者
- ・調査対象校：森ノ宮医療大学近隣に所在する高等学校、または森ノ宮医療大学に進学実績のある高等学校を中心とした 207 校

・実施期間：令和4年9月～令和5年1月

高等学校 175 校 20,614 人から回答があり、うち高校2年生 20,396 人を有効回答として分析した。アンケート調査結果の分析により、以下の点が示された。

(A) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生 20,396 人のうち、「大学進学」が 16,348 人 (80.2%) と最も多く、次いで「専門学校進学」2,476 人 (12.1%)、「就職」654 人 (3.2%)、「短期大学進学」595 人 (2.9%)、「その他」294 人 (1.4%) の順になっている【資料12-p.2】。

(B) 興味のある分野(第1位)について

高校卒業後の進路で大学進学を希望する 16,348 人に、興味のある分野(第1位)について調査した結果、本学科が含まれる「保健、医療、リハビリテーション関係」の回答者は 2,288 人 (14.0%) であった【資料12-p.3】。

(C) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心について

「興味のある分野(第1位)」において「保健、医療、リハビリテーション関係」と回答した 2,288 人に、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心について調査した。

その結果、「大いに興味・関心がある」176 人 (7.7%)、「興味・関心がある」751 人 (32.8%) の合計 927 人 (40.5%) が森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科に興味・関心を示している【資料12-p.5】。

(D) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向について

「森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心について」において「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」と回答した 927 人に、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向について調査した。

その結果、「受験してみたい」87 人 (9.4%)、「受験先として検討したい」363 人 (39.2%) の合計 450 人 (48.5%) が森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科に受験意向を示している【資料12-p.8】。

(E) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への入学意向について

「森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向について」に

において森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向を示した450人に、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果、「入学を希望する」127人(28.2%)、「入学を検討する」が295人(65.6%)の合計422人(93.8%)が森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科に入学意向を示している【資料12-p.8】。

(F)森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向と入学意向のクロス集計について

さらに受験意向と入学意向についてクロス集計を行うと、言語聴覚学科を「受験してみたい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校2年生は67人となり、言語聴覚学科の入学定員40人に対して約1.7倍の入学意向を実数にて確保したといえる。

また、言語聴覚学科を「受験してみたい」または「受験先として検討したい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校2年生は合計127人となり、言語聴覚学科の入学定員40人に対し、約3.2倍が入学意向を示している【資料12-p.10】。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外の高校生の進学も考えられることから、言語聴覚学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

B. 新設学部等の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団発表の「令和4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、言語聴覚学を含む「保健分野」の大学の志願者数は184,961人、志願倍率は4.65倍、入学者数は39,444人となっており、入学者数は令和3(2021)年度の37,130人から1,314人増加している。ここ数年新型コロナウイルス感染症の社会的状況下にも関わらず安定しているといえる。

言語聴覚学を含む「保健分野」への大阪府の進学ニーズについて、大阪府発表の学校統計(学校基本調査)の「大学の分野別学部入学状況」より、入学志願者数は全国動向と同じく安定しており、前年の入学志願者数に対する比率を私立大学全体と保健分野で比較すると、私立大学全体よりも保健分野の方が高い傾向にあり、このことから保健分野の進学ニーズの高さを伺うことができる。

また、入学者数も安定して増加傾向にあることからニーズの高さがわかる【資料13】。

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

全国の18歳人口は、平成4(1992)年をピークに緩やかに減少し、平成20(2008)年以降は120万人前後で推移してきたが、令和3(2021)年以降は再び減少局面に突入し、予測では令和22(2040)年には約88万人まで減少するとされている。

一方の大学志願者数をみると、18歳人口が減少する中でも大学進学率は上昇し、大学進学者数も微増傾向にあったが、令和2（2020）年の約64万人をピークに、18歳人口の動向と同じく減少局面に入ることが予想される【資料14】。

近畿地区の18歳人口と大学進学者数の将来推計を見ると、令和4（2022）年に185,626人であった18歳人口は、12年後の令和16（2034）年に162,668人と、12.4%減少するとされている。また、近畿地区内では本学が所在する大阪府の18歳人口の減少数が一番大きく、9,147人の減少予測となっている。一方、近畿地区の大学進学率は2013年～2022年の10年間で9.4%上昇し、全国動向と同様の傾向である。特に大阪府における大学進学率の上昇幅は11.1%と大きく、2020年から2022年の3年間で56.5%から62.1%へ5.6%上昇している。現在は堅調に推移しているが、今後は18歳人口の減少とともに減少局面に入ることが予想される【資料15】。

D. 競合校の状況

近畿エリアに言語聴覚士養成校である私立大学は複数あり、本学と直接競合関係のある2校（大阪人間科学大学と大和大学：ともに大阪府）は令和4（2022）年度および令和3（2021）年度入試において、それぞれの入学定員以上の志願者数を確保している。また、近隣府県の指標校2校（京都光華女子大学：京都府、と姫路獨協大学：兵庫県）においても同様に志願者数を確保していることがわかる【資料16】。

なお、近畿エリアの言語聴覚士養成校である私立大学の設置場所をみると、本学の位置する大阪府大阪市には言語聴覚士養成校である私立大学が1校も設置されておらず、設置されれば私立大学では本学が大阪府で初めてとなる【資料17】。

また、本学の半径約20km圏内は、本学への出願者が多く居住するエリアであることも考慮すると、本学の言語聴覚学科は大阪市内や大阪市と近接する市区町村からの学生確保が期待できる。さらに、私立大学の言語聴覚士養成校がないエリア（兵庫県東部・奈良県全域・和歌山県全域など）からの学生確保も見込めると考えられ、これらのことは、本学が言語聴覚学科の入学定員を充足できると考える根拠の一つになっている。

E. 既設学部等の学生確保の状況

本学は過去5年にわたり安定して志願者を確保しており、十分な学生数を継続して確保し続けている。そうした本学の医療系大学としての実績は、言語聴覚学科の定員充足の見込みを裏付ける一つの根拠といえる。

平成28年4月に開設した作業療法学科・臨床検査学科、平成30年4月に開設した臨床工学科、および令和2年4月に開設した診療放射線学科では、いずれも定員を満たすに十分な志願者数を確保し、新設学科でも確実に安定した志願者を集めることができている。これは、本学が医療者を育成する大学として社会的に認められていることを示しているといえる。

学部全体でみると、平成 30 年度入試の志願者数が 3,304 名（競争率 4.84 倍）、令和元年度入試の志願者数が 2,731 名（競争率 4.23 倍）、令和 2 年度入試の志願者数が 4,282 名（競争率 5.20 倍）、令和 3 年度入試の志願者数が 4,623 名（競争率 4.52 倍）、令和 4 年度入試の志願者数が 5,479 名（競争率 5.58 倍）となっており、競争率は常に高い水準を維持している【資料 18】。また、令和 4 年度入試志願者数比較（関西地区）では、医療系大学のうち、本学がもっとも志願者を確保していることがわかる【資料 19】。

この度の言語聴覚学科の開設により、本学は医療分野 8 学科を有する医療の総合的な大学としてさらに認知されることが期待できる。また、総合リハビリテーション学部としての視点で考慮しても、既設の理学療法学科および作業療法学科に加えて言語聴覚学科を開設することでリハビリテーションの 3 分野がそろふことになる。よって、言語聴覚学科の定員充足だけでなく本学全体の更なる学生獲得についても、十分に期待できると考えている。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学では学生確保に向け、入学広報センターが中心となり様々な取り組みを行っている。具体的には、広報課で起案している各種企画の内容的な報告・連絡・相談とその確定および学科内への業務依頼、情報の提供を入学広報センター会議において行い、それを各学科及び部署にフィードバックする体制が構築されている。この体制により、「オープンキャンパス」「進学相談会」「高校訪問」「教員対象説明会」等の学生募集活動を教職協働で連携することが可能となっており、一貫性のある長期的な学生確保が見込まれる。

主な取組（予定含む）は以下のとおりである。

A. オープンキャンパス

毎年、各高等学校のイベントや競合大学のスケジュールを考慮した上で、本学が求める学生が幅広く参加できるよう日程を調整し、内容においても開催時期ごとにテーマを設け、本学の認知向上とともに各学問領域への興味を喚起するものとなっている。また、高校 3 年生を対象とするだけでなく、1・2 年生を対象としたプログラムや保護者にフォーカスした発信をすることで、長期的な学生の確保に力を入れている。令和 4 年度に実施したオープンキャンパス（来場型）では合計 5,117 名の参加があり、そのうち、総合リハビリテーション学部での参加者は、学部の入学定員 110 名（理学療法学科 70 名、作業療法学科 40 名）の約 6 倍、668 名であった。オープンキャンパスの効果としては、本学で毎年実施する新入生アンケートにおいて、本学を受験するきっかけとなった項目の上位がオープンキャンパスとなっており、学生募集に効果的であることが検証されている。

なお、令和 5 年度開催分より、言語聴覚学科のプログラムを実施予定であるとともに、令和 4 年度より総合リハビリテーション学部にて特化したオープンキャンパスを実施しており、高校生に対して言語聴覚士の職業認知度の向上、リハビリテーション分野そのものへの興味関心の喚起が期待される。

B. 本学公式 WEB サイト

本学公式 WEB サイトのアクセス数（ページビュー数および訪問者数）はここ数年、順調に推移している。ページビュー数では年間 100 万ページビュー前後、訪問者数では 60 万人前後となっている。WEB サイト内に言語聴覚学科特設ページを制作し、言語聴覚学科及び言語聴覚士への興味関心を促すとともに、日々更新される最新情報を滞りなく発信するツールとして活用する。本学公式 WEB サイトの効果としては、本学で毎年実施する新入生アンケートにおいて、本学の情報を入手したツールの項目の上位が本学公式 WEB サイトとなっており、学生募集に効果的であることが検証されている。受験生だけでなく、高校 1・2 年生を対象とした専用コンテンツも開設しており、長期的な学生の確保を意識した構成となっている。

C. 受験情報雑誌／進学情報サイト

受験生等からの本学に対する資料請求件数はここ数年、30,000 件前後（年間のべ）を推移している【資料 20】。受験情報雑誌や進学情報サイトへの広告掲載の効果としては、資料請求件数全体のうち、受験雑誌／進学サイトを経由した請求が概ね 8 割程度を占めており、それらを通じた長期的な学生確保の取り組みに力を入れる。

また、これまで受験情報雑誌や進学情報サイトに掲載してきた内容に加え、言語聴覚学科の新設に伴う新增設企画（新学科を特集するための専用の企画）への参加や、掲載雑誌およびサイトの拡大、広告枠の拡大などについても順次実施していく。

D. 進学相談会／高校ガイダンス

複数の大学がブースを設け、来場した高校生やその保護者から相談を受け付ける「進学相談会」と、大学の広報担当者などが高校に出向いて各学科の特色などを説明する「高校ガイダンス」を、本学の通学圏内となるエリアを中心に年間を通して実施する。参画する相談会／ガイダンスの学問分野を看護・医療系に限定し、看護・医療関連への興味関心の高い生徒との接点を増やすと同時に、高校 1・2 年生を対象とした相談会／ガイダンスへの参画を増やし、長期的かつ安定的な学生の確保に向けた取り組みを行っている。進学相談会と高校ガイダンスの効果としては、本学で毎年実施する新入生アンケートにおいて、本学を受験するきっかけとなった項目の上位に進学相談会と高校ガイダンスが挙げられており、学生募集に効果的であることが検証されている。

進学相談会令和 4 年度（令和 4 年 4 月～令和 4 年 11 月）実績：延べ 21 会場で実施。

高校ガイダンス令和 4 年度（令和 4 年 4 月～令和 4 年 11 月）実績：延べ 209 校で実施、4,181 名と接触。

E. 高校訪問

周辺の高等学校教員へ本学及び医療系職種の認知度を向上させる目的で、高等学校を訪問する。訪問目的と必要性を吟味し、訪問対象校や訪問時期・訪問回数・提案内容等を精査する。本学と同じ学科を有する大学が少ない近隣府県の高等学校への訪問を強化し、認知度を高めることで当該分野に興味のある生徒の獲得が期待できる。高校訪問の効果としては、学校推薦型選抜（指定校推薦）の対象高校選定に必要な情報を獲得することができ、また進路指導担当教員に直接、本学の3つのポリシーをはじめとした教育内容を説明することにより、アドミッションポリシーに沿った学生の確保に貢献していることが挙げられる。

令和4年度（令和4年4月～令和5年2月）実績：延べ583校訪問。うち近畿2府4県では延べ495校訪問。

F. 教員対象説明会（高等学校・塾・予備校教員対象）

近隣府県の高等学校・塾・予備校の教員を対象とした説明会を実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり49校（50名）の参加であったが、令和4年度は116校（118名）まで参加校数（参加者数）が増加している。認知度や募集力の短期的な向上ではなく、より長期的な学生募集力の強化を目的としており、そのため本学全体の情報提供のほか、各学科の設置の趣旨やアドミッションポリシー、入学者選抜の方法等の情報も提供している。教員対象説明会の実施により、例えば入学者選抜の方法を変更した際に、変更内容を的確に受験生に伝えることが出来ており、受験者増加をはじめ一定の効果があると評価している。なお、令和5年度開催分では、言語聴覚学科の詳細についても説明予定である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

チーム医療に貢献できる協調性とコミュニケーション能力を有し、専門的な知識と技能および幅広い教養と豊かな感性を備え、科学的根拠に基づいて対象（児）が抱える問題の解決や支援のための言語聴覚療法を実践できる言語聴覚士を養成することを目的とし、下記のア～エの能力を身につけた人材を養成する。

A 精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける言語聴覚療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができる。

イ チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、

チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた言語聴覚療法を提供することができる。

ウ 豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

エ 主体的問題解決能力

言語聴覚療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 社会的な需要

言語聴覚士は、病院で行われる急性期または回復期のリハビリテーション、さらには、在宅を中心とした生活期リハビリテーションにおいて、言語機能、コミュニケーション能力、聴力、摂食・嚥下機能、発声・発音機能、認知機能などの障害や機能低下に対応するリハビリテーション専門職としての役割を担っており、超高齢社会が進展する我が国において、言語聴覚士の需要は増加している。例えば、病院・診療所で働く言語聴覚士の数は、厚生労働省の統計調査「医療施設調査」によると、平成 14（2002）年から令和 2（2020）年の間に 3,777 人から 17,905 人へと 5 倍近い伸びを示しており、言語聴覚士はリハビリテーション専門職の中で、理学療法士・作業療法士に次いで増加が目立つ職種の一つとなっている【資料 2 1】。

平成 28（2016）年 8 月 5 日付「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会）の言語聴覚士の充足についての項目では、言語聴覚士は基準上充足していると答える病院が多い反面、運営上（患者の状況に応じた必要な人員）では充足していないと答えている病院の割合も多く【資料 2 2】、同じく「令和 7（2025）年までに言語聴覚士の雇用を増やしていく予定か」という項目に対しては、近畿では雇用を増やしていくとする病院が 3 割近くを占めている。しかし、「募集の現状と将来の見通し」の項目では、言語聴覚士を増やしたいが、募集人数に比べて集まらないという声があがっている【資料 2 3】。また、日本言語聴覚士協会が公表する「会員動向」（令和 4（2022）年 4 月 1 日時点）によると、病院だけでなく介護保険施設で従事している言語聴覚士の数も増えている【資料 2 4】。

イ 近畿および大阪エリアにおける言語聴覚士の需要

言語聴覚士の有資格者数は、令和4（2022）年4月1日時点で38,200人となり【資料25】、そのうち病院や診療所で働く言語聴覚士数は17,905人となったが、この数は、理学療法士100,965人、作業療法士51,056人と比べて明らかに少ない。また、令和4（2022）年4月1日時点の都道府県別日本言語聴覚士協会会員数を見ると、大阪府の会員数は1,161人で、東京都（1,630人）について第2位であるものの、大都市圏の大阪エリアにおける言語聴覚士はまだ不足しているのが現状である【資料26】。

言語聴覚士養成校の数は全国で70校を超え、入学定員も3,000人を超えるまで拡大しているが、近畿エリアにおいて、令和5年（2023）年3月現在、言語聴覚学科（専攻を含む）を設置している大学は8校、このうち大阪府には5校のみであり、一方で、言語聴覚士養成校のうち4年制大学に寄せられる求人倍率は10倍以上という高倍率を維持し続けている。このことから、言語聴覚士の高い需要と必要とされる有資格者数の不足が示唆される。また、この傾向は言語聴覚士が平成9（1997）年に国家資格化されて以来長らく続いており、今後も長期間にわたる需要が見込まれることから、4年制大学における言語聴覚士の養成は喫緊の課題と考えられる。

ウ 業界団体からの要請

言語聴覚士の業界団体「一般社団法人大阪府言語聴覚士会」より、大阪府をはじめとする近畿エリアでは言語聴覚士を養成する大学がまだまだ少ないことや、チーム医療に欠かせない知識や技術、寛容性等を身につけた言語聴覚士が社会的に求められていることなどから、本学の言語聴覚学科開設を求める要望書が寄せられている【資料27】。

エ 既設学科の求人状況

本学の既存学科の就職状況は順調に推移しており、新卒者の平均求人倍率（2023年3月卒1.58倍リクルートワークス研究所調べ）をはるかに上回る数値で推移している【資料28】。また、本学の就職先を対象としたアンケートにおいても本学の卒業生は高い評価を受けており【資料29】、本学の養成する人材は、社会的において、また地域的にも求められているといえる。

近隣の他の言語聴覚士養成4年制大学における2021年度求人倍率を見ると、公表している大学数が少ないものの、以下のような高い求人倍率となっており、新卒者の平均求人倍率と比較してかなり高い水準であるといえる【資料30】。

大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻	17.2 倍
姫路獨協大学 医療保健学部 言語聴覚療法学科	43.4 倍
京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻	17.3 倍

これらの情報を基に、言語聴覚学科における求人件数は需要過多の状況にあり、社会的にも地域的にもこれらの職種に関する人材を求めていることが裏付けられている。

以上により、本学の総合リハビリテーション学部言語聴覚学科が養成する人材は社会的な要請に対応したものであり、卒業生に対する中長期的な人材需要が十分に確保できるものとする。

オ 第三者機関による採用意向調査結果【資料31】

(ア) 調査の概要

森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科の卒業生に対する医療機関および企業の採用意向を調査する目的で、第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所によるアンケート調査を行った。

- ・実施者：一般財団法人日本開発構想研究所
- ・アンケート題目：森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科（仮称）の卒業生に対する病院・医療系企業等の採用意向に関するアンケート調査
- ・調査対象者：森ノ宮医療大学卒業生の採用実績のある病院・医療系企業等、または卒業生の就職が見込まれる病院・医療系企業等施設の採用担当者
- ・実施期間：令和4年10月～令和4年12月
- ・有効回答率等

調査対象数：2,253 施設

有効回答数：645 件

有効回答率：約 28.6%

(イ) 調査の結果

上記のアンケート結果から以下のことが明らかになった。

- ・入学定員以上の求人件数の確保が見込める

「総合リハビリテーション学部言語聴覚学科の卒業生の採用意向について」の設問において、「採用したい」141件、「採用を検討したい」339件の回答を得ている。「採用したい」

のみで採用予定人数を合計した場合、181人分となり入学定員40人の約4.5倍の採用意向を確保できている。また「採用したい」、「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は525人分となり、入学定員の約13.1倍となる。【資料3 1-p. 11】

・将来的に安定した採用が見込まれる

現在の言語聴覚士の配置状況について調査したところ、回答のあった施設645件のうち、「適度な人数が配置されている」308件(47.8%)、「人数は不足気味である」164件(25.4%)、「人数は不足している」114件(17.7%)、「余裕を持った人数が配置されている」55件(8.5%)、「配置されていない」4件(0.6%)との回答を得ている。「人数は不足気味である」と「人数は不足している」を合計した場合、278件(43.1%)と40%を超える施設において、言語聴覚士の人数が不足している。

さらに、言語聴覚士が配置されている641施設に今後の言語聴覚士の採用方針を調査したところ、「毎年、安定的に採用していくと思う」84件(13.1%)、「できれば、毎年安定的に採用していくと思う」67件(10.5%)、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う」119件(18.6%)と安定した採用意向の回答を得ており、これらの回答を合計した場合、270件(42.2%)となり、将来的に安定した採用が見込まれる。【資料3 1-p. 6】

上記の調査内容に加えて、今回アンケートの対象としていないが歯科クリニックや教育機関などの施設・企業においても言語聴覚士の採用が見込まれる。

したがって、本学の言語聴覚学科卒業生の就職先は十分に確保できているといえる。

カ 結論

- ・言語聴覚士の社会的需要が高水準であるといえる。
- ・近隣の言語聴覚士養成校に対する求人件数は順調である。
- ・本学の既設学科卒業生の就職状況は順調であり、且つ評価も高い。
- ・第三者機関によるアンケートの結果から、本学言語聴覚学科の卒業生に対する採用が毎年見込める。

以上により、本学の言語聴覚学科を養成する人材は社会的な要請に対応したものであり、卒業生に対する中長期的な人材需要が十分に確保できると考える。

**森ノ宮医療大学 収容定員に係る学則変更認可申請
学生確保の見通しを記載した書類 資料**

目次

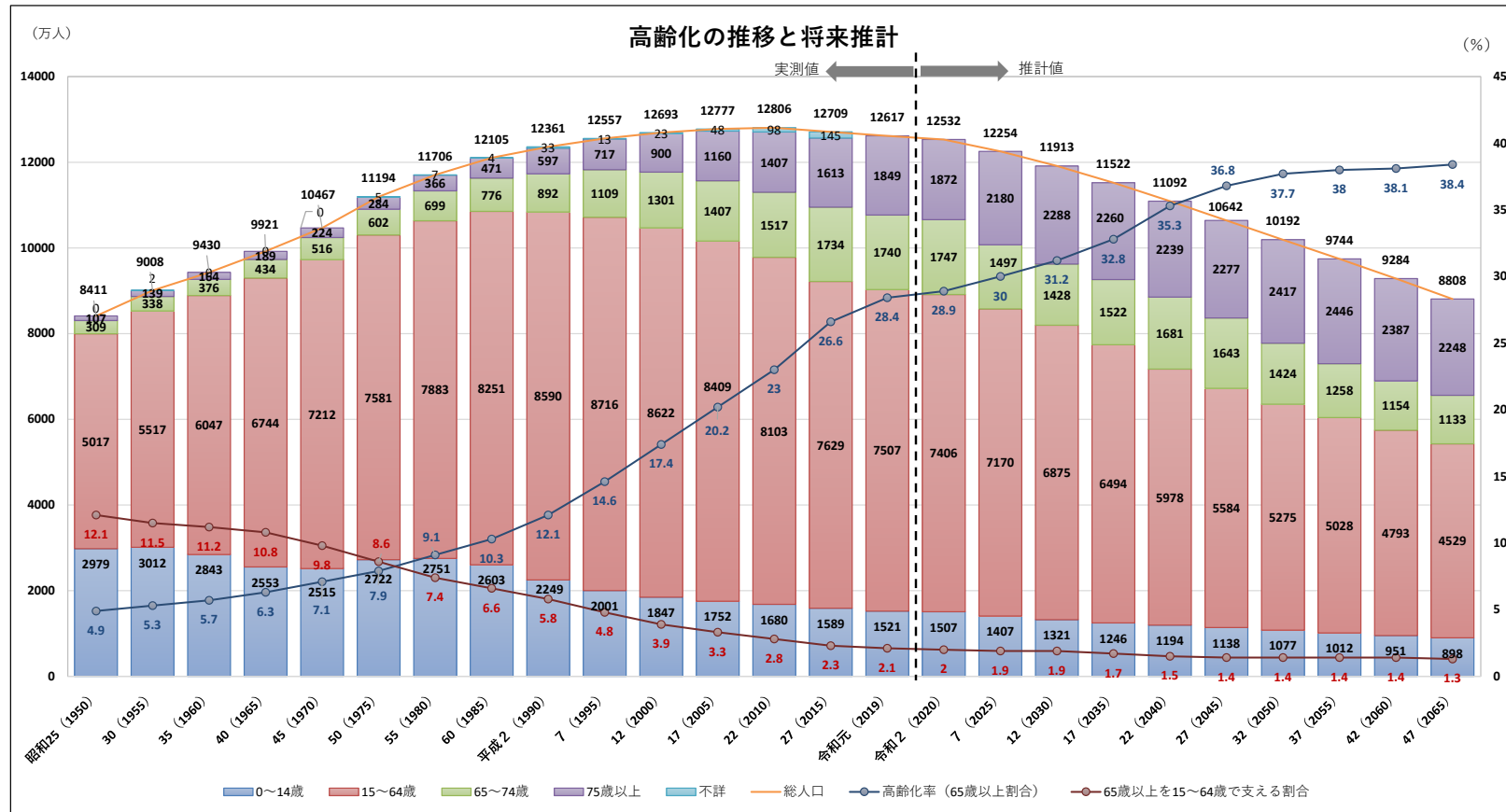
資料 1	高齢化の推移と将来推計
資料 2	言語聴覚士・理学療法士・作業療法士従事者数の年次推移 (病院・診療所)
資料 3	病院に勤務する言語聴覚士数の充足
資料 4	言語聴覚士雇用の意向と現状
資料 5	言語聴覚士国家試験の合格者数及び合格率ならびに言語聴覚士の就業状況
資料 6	言語聴覚士国家試験の合格者数
資料 7	日本言語聴覚士協会 都道府県別会員数
資料 8	全国の言語聴覚士養成校一覧
資料 9	近畿地方の言語聴覚士養成校一覧
資料 10	業界団体からの要望書(大阪府言語聴覚士会)
資料 11	競合大学学納金一覧(言語聴覚士養成校)
資料 12	高校生の入学意向に関するアンケート調査報告
資料 13	大阪府における大学の分野別学部入学状況
資料 14	18歳人口と大学進学者数の将来推計
資料 15	近畿地区18歳人口と大学進学者数
資料 16	競合校の入試動向分析
資料 17	競合校の立地状況
資料 18	過去5ヵ年の本学の入学試験状況
資料 19	令和4(2022)年度入試 医療系大学志願者数
資料 20	森ノ宮医療大学 年度別資料請求数(直接接触者数を含む)
資料 21	言語聴覚士・理学療法士・作業療法士従事者数の年次推移 (病院・診療所)
資料 22	病院に勤務する言語聴覚士数の充足
資料 23	言語聴覚士雇用の意向と現状
資料 24	言語聴覚士国家試験の合格者数及び合格率 ならびに言語聴覚士の就業状況・勤務先
資料 25	言語聴覚士国家試験の合格者数
資料 26	日本言語聴覚士協会 都道府県別会員数
資料 27	業界団体からの要望書(大阪府言語聴覚士会)

- 資料 28 森ノ宮医療大学 就職の状況（過去3年間）
- 資料 29 森ノ宮医療大学 就職先アンケート調査
- 資料 30 近隣の言語聴覚士養成四年制大学の求人倍率
- 資料 31 採用意向に関するアンケート調査報告

高齢化の推移と将来推計

令和2年版高齢社会白書 第1節 高齢化の状況 1 高齢化の現状と将来像より

65歳以上人口のうち、65～74歳人口は「団塊の世代」が高齢期に入った後に平成28（2016）年の1,768万人でピークを迎える。その後は、令和10（2028）年まで減少傾向となるが再び増加に転じ、令和23（2041）年の1,715万人に至った後、減少に転じると推計されている。一方、75歳以上人口は、令和36（2054）年まで増加傾向が続くものと見込まれている



資料：棒グラフと実線の高齢化率については、2015年までは総務省「国勢調査」、2019年は総務省「人口推計」（令和元年10月1日確定値）、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。

(注1) 2018年以降の年齢階級別人口は、総務省統計局「平成27年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950年～2015年の高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

(注2) 沖縄県の昭和25年70歳以上の外国人136人（男55人、女81人）及び昭和30年70歳以上23,328人（男8,090人、女15,238人）は65～74歳、75歳以上の人口から除き、不詳に含めている。

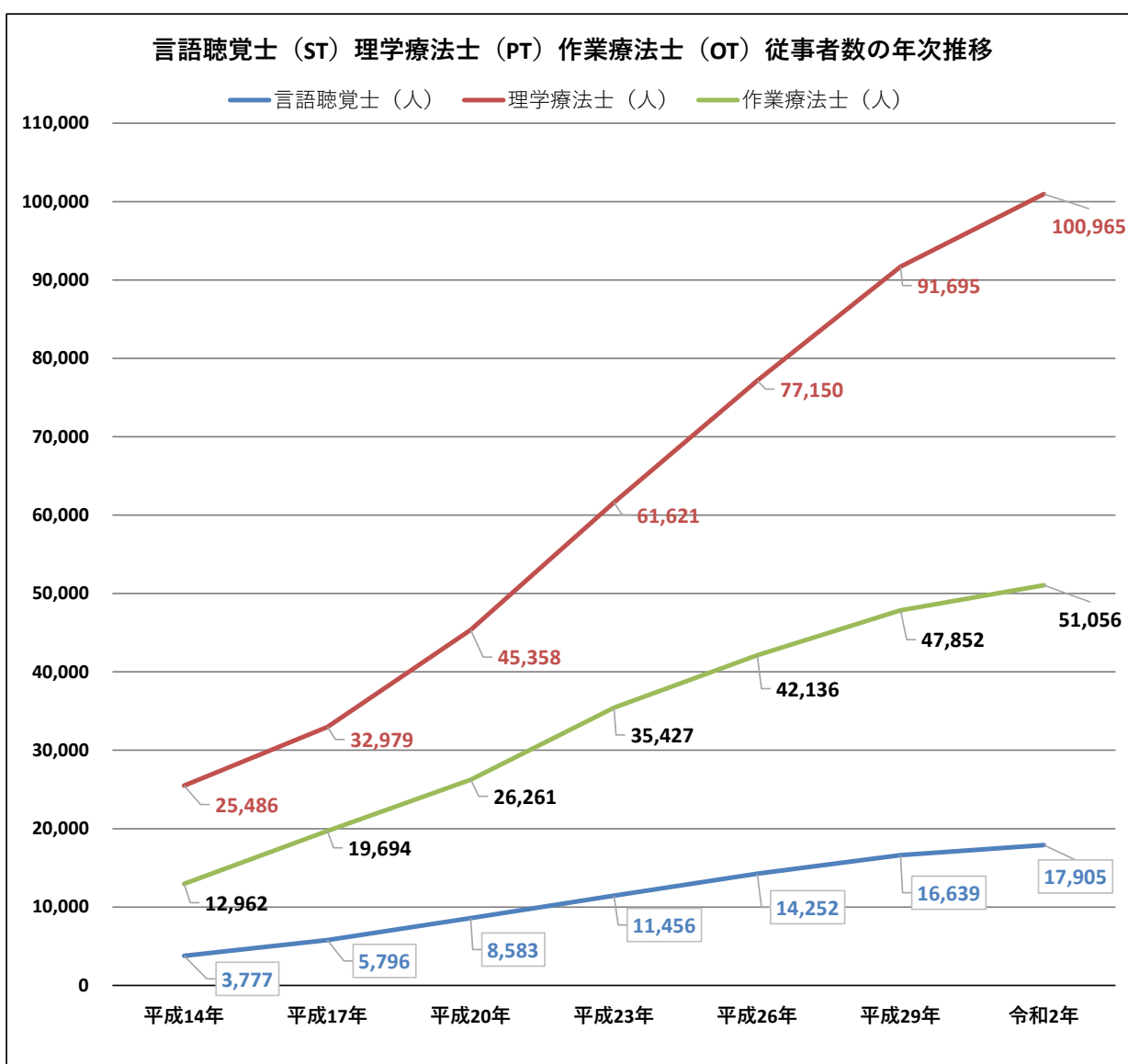
(注3) 将来人口推計とは、基準時点までに得られた人口学的データに基づき、それまでの傾向、趨勢を将来に向けて投影するものである。基準時点以降の構造的な変化等により、推計以降に得られる実績や新たな将来推計との間には乖離が生じうるものであり、将来推計人口はこのような実績等を踏まえて定期的に見直すこととしている。

【資料2】

言語聴覚士・理学療法士・作業療法士従事者数の年次推移（病院・診療所）

職種別にみた施設の従事者数（病院・一般診療所）

白書年次	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年
資料時点	H14.10.1	H17.10.1	H20.10.1	H23.10.1	H26.10.1	H29.10.1	R.2.10.1
西暦	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年	2020年
言語聴覚士（人）	3,777	5,796	8,583	11,456	14,252	16,639	17,905
理学療法士（人）	25,486	32,979	45,358	61,621	77,150	91,695	100,965
作業療法士（人）	12,962	19,694	26,261	35,427	42,136	47,852	51,056

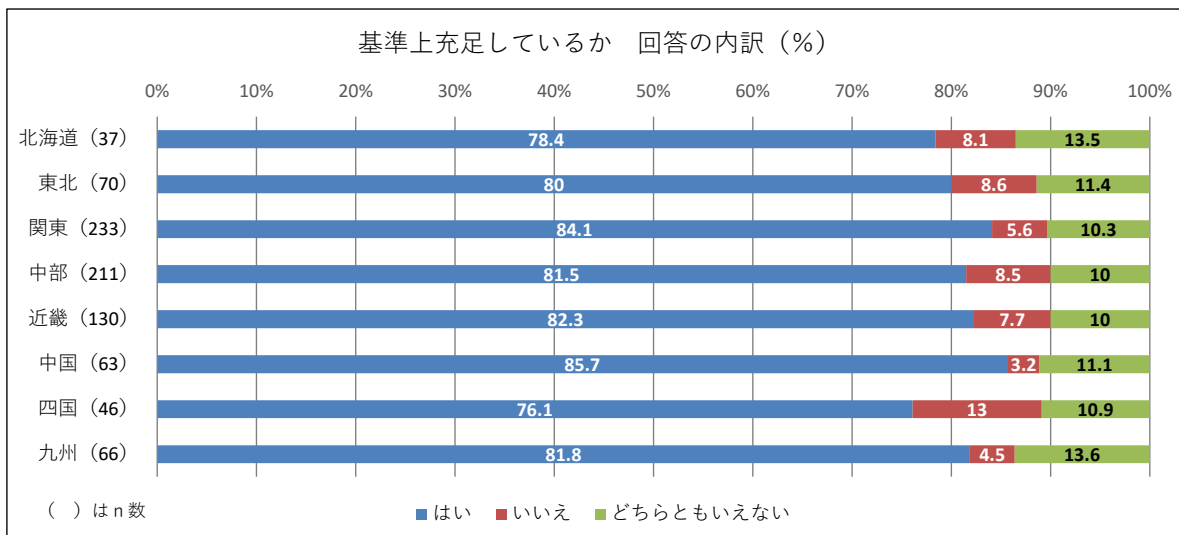


厚生労働統計調査 2.保健衛生 2.1.医療（施設）「医療施設調査」（平成14年～令和2年）

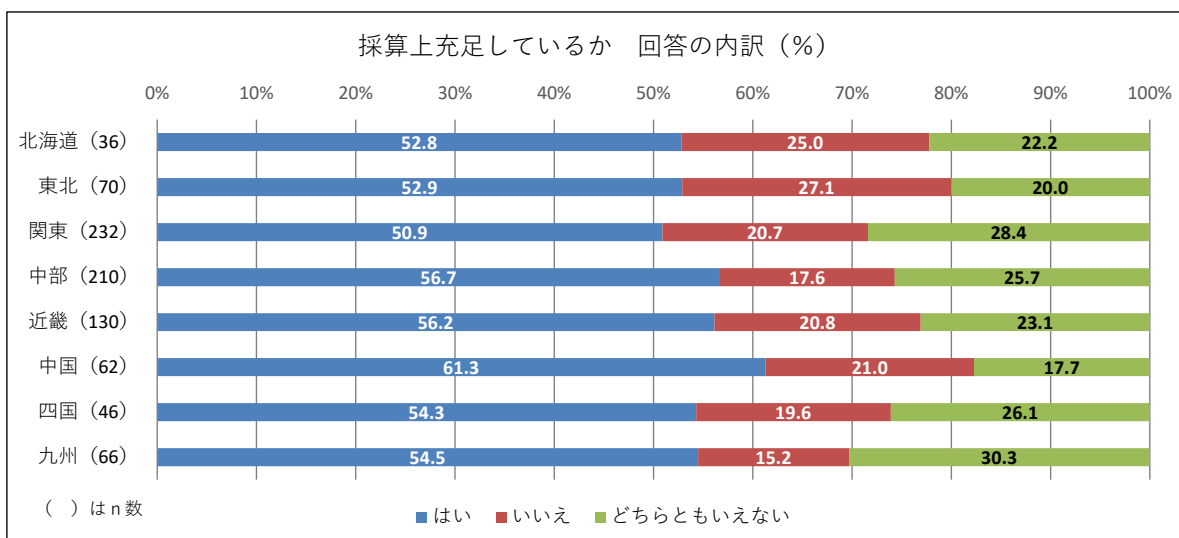
病院に勤務する言語聴覚士数の充足

「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会 平成28年5月～6月実施）より

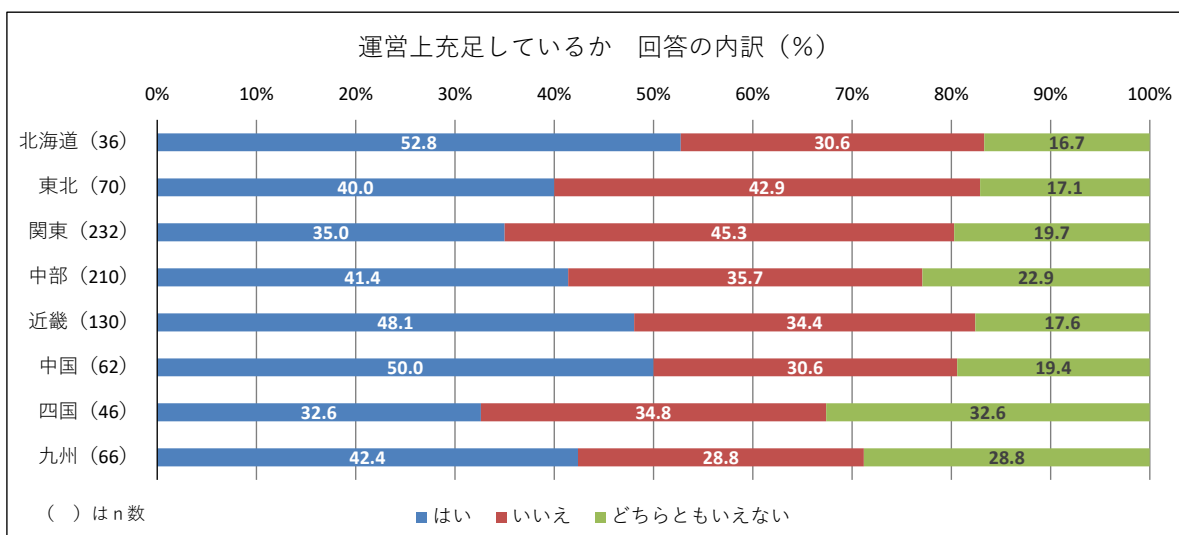
問：現在、貴院において数は充足していますか。（基準上、採算上、運営上 について回答）



→ すべての地域の施設で、基準上はほぼ充足していると回答する率が高い



→ 採算上（経営上必要な人員数）充足していると回答した割合は、基準上の充足に比べると減少している

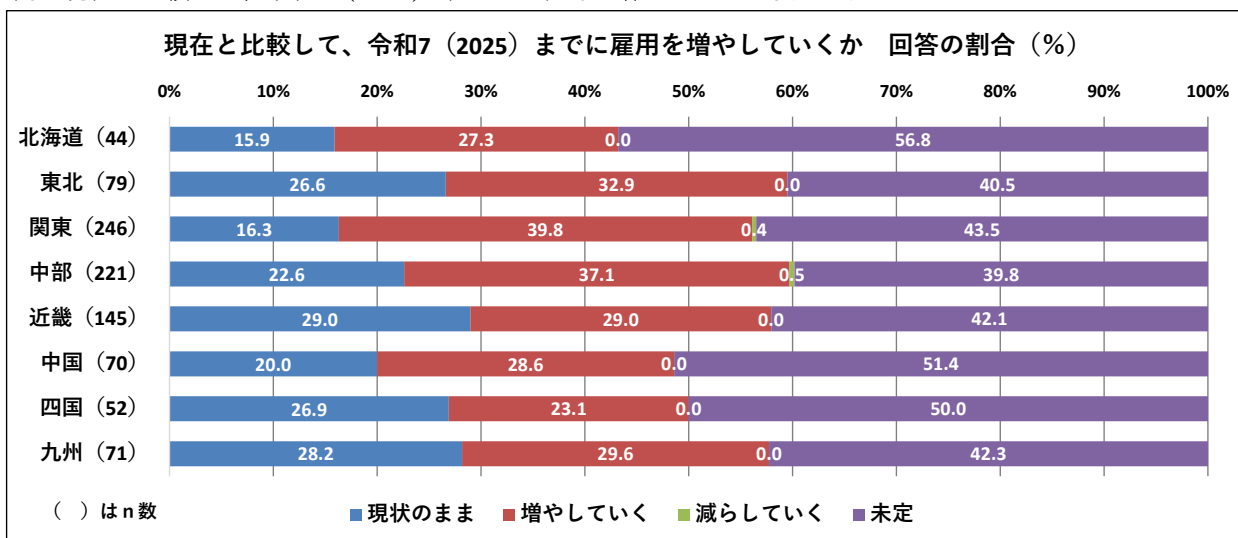


→ 運営上（患者の状況に応じた必要な人員）では、充足していないと回答した割合が増加している

言語聴覚士雇用の意向と現状

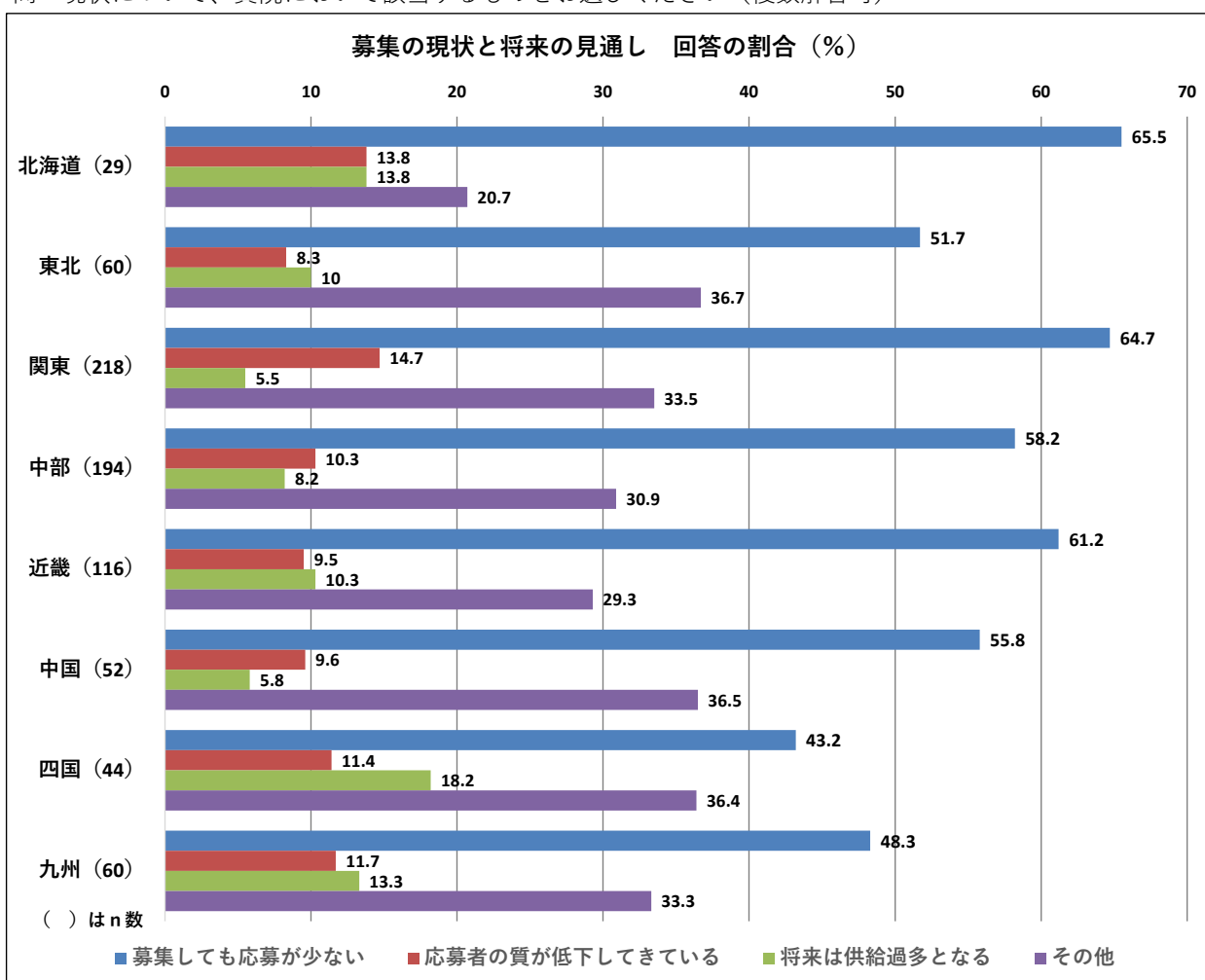
「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会 平成28年5月～6月実施）より

問：現在と比較して、令和7（2025）年までに雇用を増やしていく予定ですか



→ 北海道（56.8%）、中国（51.4%）、四国（50.0%）の未定の割合が高かった。

問：現状について、貴院において該当するものをお選びください（複数解答可）

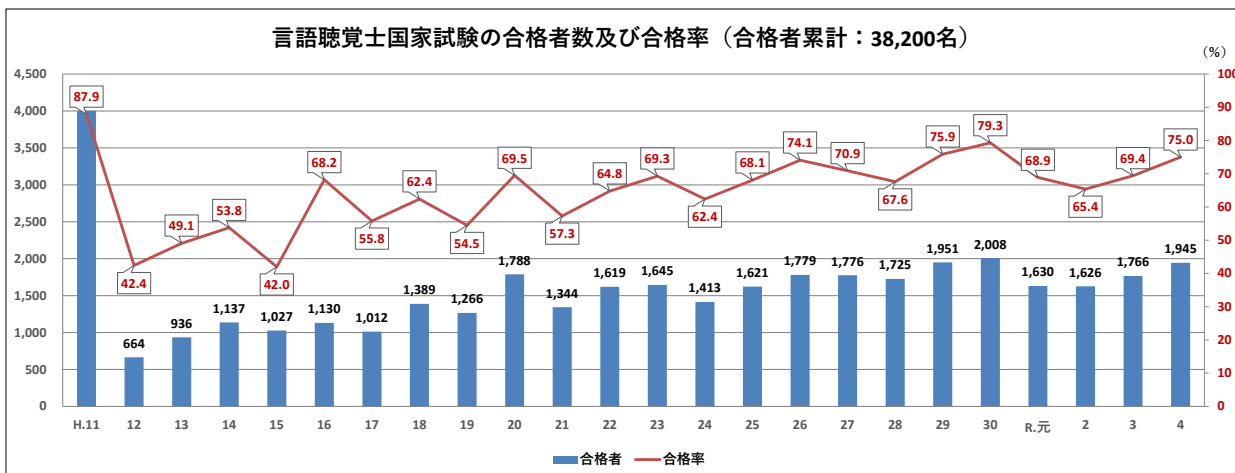


→ 四国、九州を除き「募集しても応募が少ない」との回答の割合が高かった。

言語聴覚士の就業状況と勤務先_一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会員動向 (令和4年4月1日現在) より

言語聴覚士国家試験の合格者数及び合格率

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
合格者	4,003	664	936	1,137	1,027	1,130	1,012	1,389	1,266	1,788	1,344	1,619	1,645	1,413	1,621	1,779	1,776	1,725	1,951	2,008	1,630	1,626	1,766	1,945
合格率	88	42	49	54	42	68	56	62	55	70	57	65	69	62	68	74	71	68	76	79	69	65	69	75

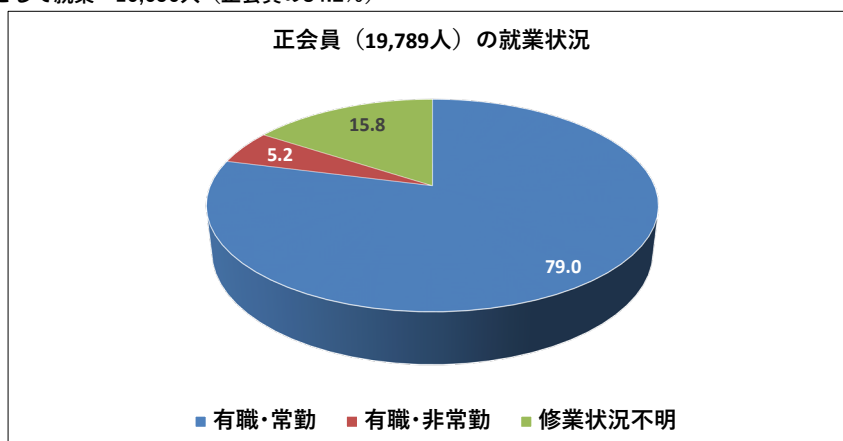


合格者累計：38,200人

日本言語聴覚士協会会員数：19,789人 (有資格者38,200人の51.8%)

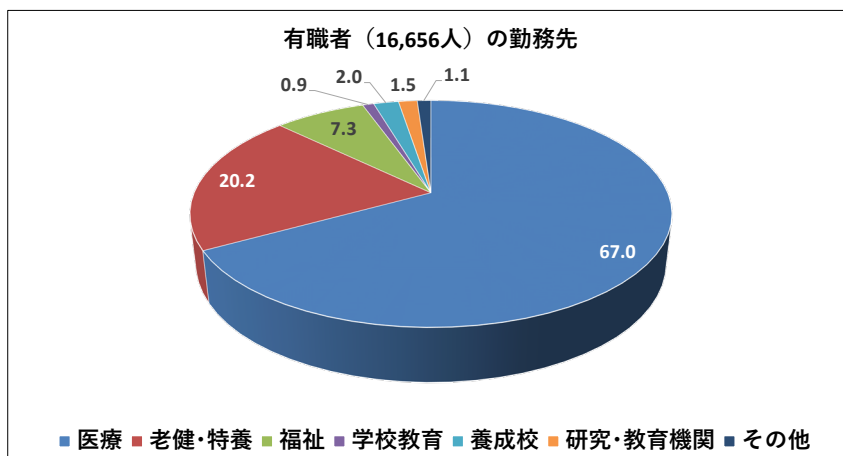
正会員19,789人の就業状況：言語聴覚士として就業 16,656人 (正会員の84.2%)

就業状況	%
有職・常勤	79.0
有職・非常勤	5.2
修業状況不明	15.8



有職者16,656人の勤務先

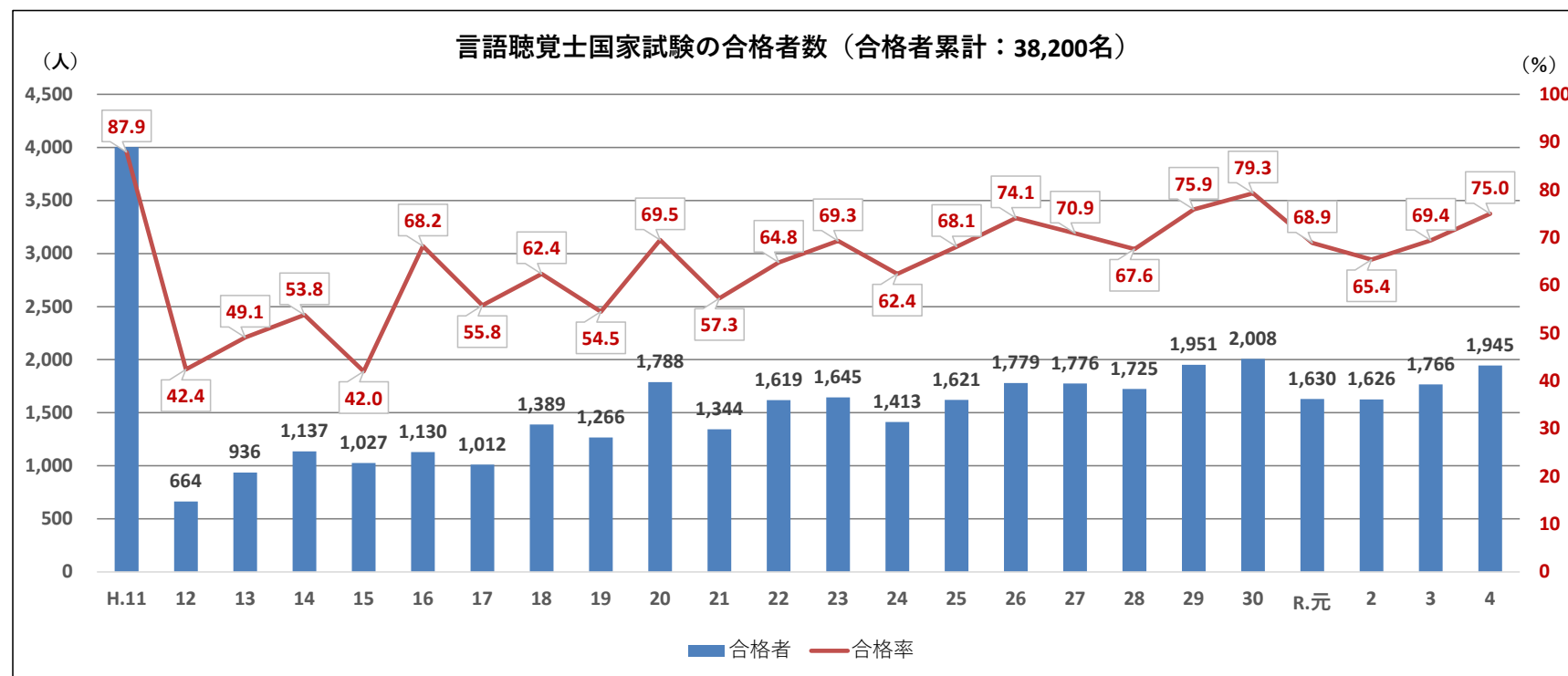
勤務先	%
医療	67.0
老健・特養	20.2
福祉	7.3
学校教育	0.9
養成校	2.0
研究・教育機関	1.5
その他	1.1



言語聴覚士国家試験の合格者数

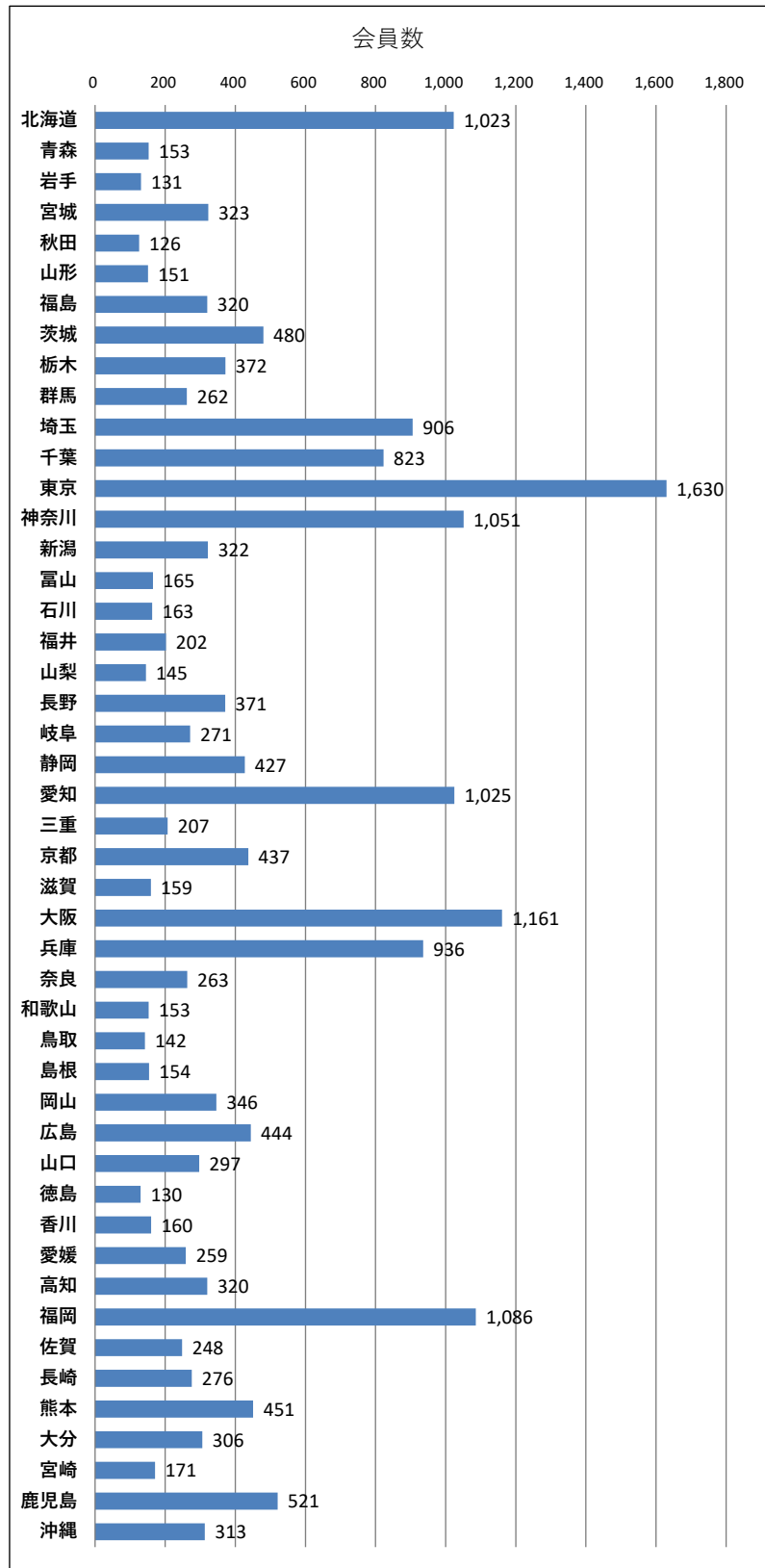
【資料6】

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	H.11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R.元	2	3	4
合格者	4,003	664	936	1,137	1,027	1,130	1,012	1,389	1,266	1,788	1,344	1,619	1,645	1,413	1,621	1,779	1,776	1,725	1,951	2,008	1,630	1,626	1,766	1,945
合格率	87.9	42.4	49.1	53.8	42.0	68.2	55.8	62.4	54.5	69.5	57.3	64.8	69.3	62.4	68.1	74.1	70.9	67.6	75.9	79.3	68.9	65.4	69.4	75.0



一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会員動向（令和4年4月1日現在）

都道府県	会員数
北海道	1,023
青森	153
岩手	131
宮城	323
秋田	126
山形	151
福島	320
茨城	480
栃木	372
群馬	262
埼玉	906
千葉	823
東京	1,630
神奈川	1,051
新潟	322
富山	165
石川	163
福井	202
山梨	145
長野	371
岐阜	271
静岡	427
愛知	1,025
三重	207
京都	437
滋賀	159
大阪	1,161
兵庫	936
奈良	263
和歌山	153
鳥取	142
島根	154
岡山	346
広島	444
山口	297
徳島	130
香川	160
愛媛	259
高知	320
福岡	1,086
佐賀	248
長崎	276
熊本	451
大分	306
宮崎	171
鹿児島	521
沖縄	313
合計	19,782



一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会員動向 (令和4年4月1日現在)

全国の言語聴覚士養成校一覧

【資料8】

(私立：大学専攻科)

(令和5年2月13日現在)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	東京	武蔵野大学	専攻科言語聴覚士養成課程	30	2年	H26. 4. 1	202-8585	東京都西東京市新町1-1-20	学校法人武蔵野大学	
2	大阪	大阪保健医療大学	言語聴覚専攻科	40	2年	H21. 4. 1	530-0043	大阪府大阪市北区天満1-9-27	学校法人福田学園	
3	広島	広島都市学園大学	言語聴覚専攻科	40	2年	H30. 4. 1	731-3166	広島県広島市南区大塚東3-2-1	学校法人古沢学園	
4	福岡	福岡国際医療福祉大学	言語聴覚専攻科	40	2年	H31. 4. 1	814-0001	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	学校法人高木学園	H31. 4新規
合計			4 大学専攻科	150						

(公立：大学)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	広島	県立広島大学	保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース	30	4年	H17. 4. 1	723-0053	広島県三原市学園町1-1	広島県公立大学法人	R3. 4保健福祉学部コミュニケーション障害学科の改組転換(設置者変更)
合計			1 大学	30						

(私立：大学)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	北海道	北海道医療大	リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科	60	4年	H27.4.1	061-0293	北海道石狩郡当別町字金沢1757	学校法人東日本学園	
2	青森	弘前医療福祉大学	保健学部医療技術学科言語聴覚学専攻	30	4年	H21.4.1	036-8102	青森県弘前市小比内3-18-1	学校法人弘前城東学園	
3	宮城	東北文化学園大学	医療福祉学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H20.4.1	981-8551	宮城県仙台市青葉区国見6-45-1	学校法人東北文化学園大学	
4	栃木	国際医療福祉大学	保健医療学部言語聴覚学科	80	4年	H10.12.12	324-8501	栃木県大田原市金丸2600-1	学校法人国際医療福祉大学	H15.4名称変更 H19.4名称変更
5	群馬	群馬パース大学	リハビリテーション学部言語聴覚学科	30	4年	R3.4.1	370-0006	群馬県高崎市問屋町1-7-1	学校法人群馬パース大学	R3.4新規(設置者変更)
6	埼玉	目白大学	保健医療学部言語聴覚学科	40	4年	H18.4.1	339-8501	埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320	学校法人目白学園	
7	千葉	国際医療福祉大学	成田保険医療学部言語聴覚学科	40	4年	H28.4.1	286-8686	千葉県成田市公津の杜4-3	学校法人国際医療福祉大学	
8	東京	帝京平成大学	健康メディカル学部言語聴覚学科	60	4年	H14.4.1	170-8445	東京都豊島区東池袋2-51-4	学校法人帝京平成大学	H20.4移転 H21.4入学定員変更80→60
9	東京	東京工科大	医療保健学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	R3.4.1	144-8535	東京都大田区西蒲田5-23-22	学校法人片柳学園	R3.4新規
10	神奈川	北里大学	医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻	30	4年	H10.12.22	252-0373	神奈川県相模原市南区北里1-15-1	学校法人北里研究所	H18.4入学定員変更20→28 H20.4設置者変更
11	新潟	新潟医療福祉大学	リハビリテーション学部言語聴覚学科	40	4年	H13.4.1	950-3198	新潟県新潟市北区島見町1398	学校法人新潟総合学園	H30.4医療技術学部言語聴覚学科の改組転換

12	福井	福井医療大学	保健医療学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	30	4年	H29.4.1	910-3190	福井県福井市江上町55字鳥町13-1	学校法人新田塚学園	
13	静岡	聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部言語聴覚学科	25	4年	H16.4.1	433-8558	静岡県浜松市北区三方原町3453	学校法人聖隷学園	H20.4入学定員変更20→25 H23.4課程変更
14	愛知	愛知学院大学	健康科学部健康科学科言語聴覚士コース	180	4年	情報なし	470-0195	愛知県日進市岩崎町阿良池12	学校法人愛知学院	定員不明、コースによる選択制
15	愛知	愛知淑徳大学	健康医療科学部医療貢献学科言語聴覚学専攻	40	4年	H16.4.1	480-1197	愛知県長久手市片平2-9	学校法人愛知淑徳学園	H22.4学部名称変更
16	京都	京都先端科学大学	健康医療学部言語聴覚学科	30	4年	H27.4.1	615-8577	京都府京都市右京区山ノ内五反田町18	学校法人永守学園	H31.4設置者変更、学校名変更
17	京都	京都光華女子大学	健康科学部医療福祉学科言語聴覚専攻	30	4年	H26.4.1	615-0882	京都府京都市右京区西京極葛野町38	学校法人光華女子学園	
18	大阪	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚専攻	40	4年	H18.4.1	597-0104	大阪府貝塚市水間158	学校法人河崎学園	
19	大阪	大阪人間科学大学	保健医療学部言語聴覚学科	40	4年	H24.4.1	566-8501	大阪府摂津市正雀1-4-1	学校法人薫英学園	R2.4人間科学部医療心理学科言語聴覚専攻の改組転換
20	大阪	関西福祉科学大学	保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H27.4.1	582-0026	大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1	学校法人玉手山学園	
21	大阪	大和大学	保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H26.4.1	564-0082	大阪府吹田市片山町2-5-1	学校法人西大和学園	
22	兵庫	姫路獨協大学	医療保健学部言語聴覚療法学科	20	4年	H18.4.1	670-8524	兵庫県姫路市上大野7-2-1	学校法人獨協学園	
23	岡山	川崎医療福祉大学	リハビリテーション学部言語聴覚療法学科	60	4年	H11.4.1	701-0193	岡山県倉敷市松島288	学校法人川崎学園	H31.4医療技術学部感覚矯正学科言語聴覚専攻の改組転換
24	広島	広島国際大学	総合リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻	30	4年	H25.4.1	739-2695	広島県東広島市黒瀬学園台555-36	学校法人常翔学園	
25	福岡	国際医療福祉大学	福岡保健医療学部言語聴覚学科	40	4年	H19.4.1	831-8501	福岡県大川市榎津137-1	学校法人国際医療福祉大学	H25.4学部名称変更
26	熊本	熊本保健科学大学	保健科学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H23.4.1	861-5598	熊本県熊本市北区和泉町325	学校法人銀杏学園	
27	宮崎	九州保健福祉大学	臨床心理学部臨床心理学科言語聴覚コース	40	4年	H11.4.1	882-8508	宮崎県延岡市吉野町1714-1	学校法人順正学園	R2.4保健科学部言語聴覚療法学科の改組転換
合計		27 大学		1,215						

（私立：専門職大学）

1	高知	高知リハビリテーション専門職大学	リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	40	4年	H31.4.1	781-1102	高知県土佐市高岡町乙1139-3	学校法人高知学園	H31.4新規
合計		1 専門職大学		40						

（私立：短期大学専攻科）

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	宮城	仙台青葉学院短期大学	言語聴覚学科	40	3年	R3.4.1	980-0021	宮城県仙台市青葉区中央四丁目5-3	学校法人北杜学園	R3.4新規
2	奈良	白鳳短期大学	専攻科リハビリテーション学専攻言語聴覚学課程	20	1年	H23.4.1	636-0011	奈良県北葛城郡王寺町1-7-17	学校法人西大和学園	
合計		2 短期大学専攻科		60						

（私立：大学院）

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	新潟	新潟リハビリテーション大学大学院	リハビリテーション研究科言語聴覚障害コース	12	2年	H30.4.1	958-0053	新潟県村上市上ノ山2-16	学校法人北都健勝学園	言語聴覚士国家試験受験を希望する者は、受験に必要な科目を履修・修得すること、及び学士を有している(4年制大学卒等)ことにより、言語聴覚士法第33条第4号に基づき国家試験受験資格が得られる。 コース定員不明、コースによる選択制。
2	東京	武蔵野大学大学院	人間学専攻 言語聴覚コース	30	2年	H30.4.1	202-8585	東京都西東京市新町1-1-20	学校法人武蔵野学院	既に言語聴覚士として3年以上実務経験が場合は1年制短期コースもある。2年制コースは、大学卒業(見込)が出願資格。
総計		4 大学専攻科、28 大学、1 専門職大学、2 短期大学専攻科、2 大学院		1,537						

(私立：設置申請中)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	東京	杏林大学	保健学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻	25	4年	R5.4.1	181-8612	東京都三鷹市下連雀5-4-1	学校法人杏林学園	R5.4新規設置予定

(国立：専門学校、養成機関)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	埼玉	国立障害者リハビリテーションセンター学院	言語聴覚学科(昼間部)	34	2年	S46.4.1	359-8555	埼玉県所沢市並木4-1	国立障害者リハビリテーションセンター	出願資格：大学卒業(見込)

(私立：専門学校、養成機関)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学定員	修業年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	北海道	専門学校北海道リハビリテーション大学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	情報なし	060-0063	札幌市中央区南3条西1丁目	学校法人吉田学園	出願資格：高校卒業(見込)
2	北海道	札幌医学技術福祉歯科専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	40	3年	情報なし	064-0805	札幌市中央区南5条西11丁目1289-5	学校法人西野学園	出願資格：高校卒業(見込)
3	福島	国際医療看護福祉大学校	言語聴覚士科(昼間部)	40	3年	H13.4.1	963-8811	福島県郡山市方八町2-4-19	学校法人国際総合学園	出願資格：高校卒業(見込)
4	茨城	医療専門学校水戸メディカルカレッジ	言語聴覚療法学科(昼間部)	40	3年	情報なし	310-0035	茨城県水戸市東原3-2-5	社会福祉法人北養会	出願資格：高校卒業(見込)
5	群馬	前橋医療福祉専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	2年	情報なし	371-0006	群馬県前橋市石関町122-6	学校法人未来学園	出願資格：大学卒業(見込)
6	埼玉	埼玉福祉保育医療専門学校(2023年4月より埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校へ名称変更)	2023年4月まで 言語聴覚士科(昼間部) 言語聴覚士科Ⅱ部(夜間部) 2024年4月入学者以降 言語聴覚士科(午前コース) (午後コース)	80	3年	情報なし	330-0845	埼玉県さいたま市大宮区仲町3-88-2	学校法人東京滋慶学園	出願資格：高校卒業(見込) Ⅱ部出願資格：大学卒業(見込) 言語聴覚士科Ⅱ部のみ2年制 午前コース(9時10分～14時40分)、午後コース(15時10分～20時00分)
7	東京	東京医薬看護専門学校	言語聴覚士科(昼間部) 2年制・3年制	80	2、3年	H6.4.1	134-0084	東京都江戸川区東葛西6-5-12	学校法人滋慶学園	3年制出願資格：高校卒業(見込) 2年制出願資格：大学卒業(見込) 2年制は原則土・日・月の週3日間授業

8	東京	首都医校	言語聴覚学科(昼間部:2年制)	20	2年	H21.4.1	160-0023	東京都新宿区西新宿1-7-3	学校法人日本教育財団	出願資格:大学卒業(見込)
9	東京	日本福祉教育専門学校	言語聴覚療法学科(昼間部)	78	2年	H9.4.1	169-0075	東京都新宿区高田馬場2-16-3	学校法人敬心学園	出願資格:大学卒業(見込)
10	東京	西武学園医学技術専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	H17.4.1	170-0013	東京都豊島区東池袋3-9-3	学校法人文理佐藤学園	出願資格:高校卒業(見込)
11	東京	多摩リハビリテーション学院専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	2年	情報なし	198-0004	東京都青梅市根ヶ布1-642-1	学校法人和風会	出願資格:大学卒業(見込)
12	神奈川	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	35	2年		253-0061	神奈川県茅ヶ崎市南湖1-6-11	学校法人湘南ふれあい学園	出願資格:大学卒業(見込)
13	長野	長野医療衛生専門学校	言語聴覚士学科(昼間部)	30	4年	H13.4.1	386-0012	長野県上田市中央2-13-27	学校法人成田会	出願資格:高校卒業(見込)
14	岐阜	サンビレッジ国際医療福祉専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	20	3年	H14.4.1	503-2413	岐阜県揖斐郡池田町白鳥104	社会福祉法人新生会	出願資格:高校卒業(見込)
15	愛知	名古屋医専	言語聴覚科(昼間部)	20	2年	H20.4.1	450-0002	愛知県名古屋市中村区名駅4-27-1	学校法人日本教育財団	出願資格:大学卒業(見込)
16	愛知	東海医療科学専門学校	言語聴覚科(昼間部)	40	2年	H14.4.1	450-0003	愛知県名古屋市中村区名駅南2-7-2	学校法人セムイ学園	出願資格:大学卒業(見込)
17	愛知	専門学校日本聴覚言語福祉学院	補聴言語学科(昼間部) 聴能言語学科(昼間部)	60	3年・2年	S60.4.1	453-0023	愛知県名古屋市中村区若宮町2-14	学校法人珪山学園	補聴言語学科出願資格:高校卒業(見込) 聴能言語学科出願資格:大学卒業(見込)
18	愛知	日本福祉大学中央福祉専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	情報なし	2年	情報なし	460-0012	愛知県名古屋市中区千代田3-27-11	学校法人日本福祉大学	出願資格:大学卒業(見込)
19	京都	京都医健専門学校	言語聴覚科(昼間部)	40	2年	H24.4.1	604-8203	京都府京都市中京区衣棚町51-2	学校法人滋慶コミュニケーションアート	出願資格:大学卒業(見込)
20	大阪	大阪医療技術学園専門学校	言語聴覚士学科(昼間部:3年制) 言語聴覚士学科(昼夜間:2年制)	80	3年・2年	H18.4.1	530-0044	大阪府大阪市北区東天満2-1-30	学校法人大阪滋慶学園	昼間部3年制出願資格:高校卒業(見込) 昼夜間2年制出願資格:大学卒業(見込)
21	大阪	大阪医専	言語聴覚学科(昼間部:2年制)	40	2年	H12.4.1	531-0003	大阪府大阪市北区大淀中1-10-3	学校法人日本教育財団	出願資格:大学卒業(見込)
22	大阪	大阪医療福祉専門学校	言語聴覚士学科(昼間部)	30	2年	情報なし	532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原1-2-14	学校法人大阪滋慶学園	出願資格:大学卒業(見込)
23	兵庫	神戸総合医療専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	25	2年	H11.4.1	654-0142	兵庫県神戸市須磨区友が丘7-1-21	医療法人社団慈恵会	出願資格:大学卒業(見込)
24	兵庫	関西総合リハビリテーション専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	H13.4.1	656-2132	兵庫県淡路市志筑新島7-4	社会医療法人社団順心会	出願資格:高校卒業(見込)
25	兵庫	平成リハビリテーション専門学校	言語聴覚療法学科(昼間部)	30	3年	H26.4.1	663-8231	兵庫県西宮市津門西口町2-26	社会福祉法人関西中央福祉会	出願資格:高校卒業(見込)
26	兵庫	神戸医療福祉専門学校三田校	言語聴覚士科(昼間部)	40	4年	情報なし	669-1313	兵庫県三田市福島501-85	学校法人神戸滋慶学園	出願資格:高校卒業(見込)
27	兵庫	姫路医療専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	40	3年	情報なし	670-0927	兵庫県姫路市駅前町27-2	学校法人神戸滋慶学園	出願資格:高校卒業(見込)
28	奈良	関西学研医療福祉学院	言語聴覚学科(昼間部)	40	2年	H12.4.1	631-0805	奈良県奈良市右京1-1-5	学校法人青丹学園	出願資格:大学卒業(見込)
29	島根	リハビリテーションカレッジ島根	言語聴覚学科(昼間部)	40	4年	H11.4.1	699-3225	島根県浜田市三隅町古木場2086-1	学校法人同志舎	出願資格:高校卒業(見込)
30	岡山	朝日医療大学校	言語聴覚学科(昼間部)	30	3年	H27.4.1	700-0026	岡山県岡山市北区奉還町2-7-1	学校法人朝日医療学園	出願資格:高校卒業(見込)
31	山口	山口コ・メディカル学院	言語聴覚学科(昼間部)	20	4年	H10.4.1	753-0054	山口県山口氏富田原町2-24	学校法人山口コア学園	出願資格:高校卒業(見込)

32	愛媛	四国中央医療福祉総合学院	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	情報なし	799-0422	愛媛県四国中央市中之庄町1684-10	学校法人RWFグループ	出願資格:高校卒業(見込)
33	福岡	専門学校麻生リハビリテーション大学校	言語聴覚学科(昼間部:3年制) 言語聴覚学科(昼夜間部:2年制)	80	3年・2年	H13.4.1	812-0007	福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1	麻生専門学校グループ	昼間部3年制出願資格:高校卒業(見込) 昼夜間2年制出願資格:大学卒業(見込)
34	福岡	専門学校柳川リハビリテーション学院	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	H11.4.1	832-0058	福岡県柳川市上宮永町116-1	学校法人高木学園	出願資格:高校卒業(見込)
35	長崎	長崎リハビリテーション学院	言語療法学科(昼間部)	40	3年	H3.4.1	856-0048	長崎県大村市赤佐古町42	学校法人向陽学園	出願資格:高校卒業(見込)
36	熊本	熊本駅前看護リハビリテーション学院	言語聴覚療法学科(昼間部)	40	4年	H12.4.1	860-0047	熊本県熊本市西区春日2-1-15	学校法人青照学舎	出願資格:高校卒業(見込)
37	大分	大分リハビリテーション専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	30	3年	H13.4.1	870-8658	大分県大分市千代町3-22	学校法人平松学園	出願資格:高校卒業(見込)
38	鹿児島	鹿児島医療技術専門学校	言語聴覚療法学科(昼間部)	40	4年	H12.4.1	891-0133	鹿児島県鹿児島市平川町字宇都口5417-1	学校法人原田学園	出願資格:高校卒業(見込)
39	鹿児島	鹿児島第一医療リハビリ専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	30	3年	H15.4.1	899-4395	鹿児島県霧島市国分中央1-12-42	学校法人都築教育学園	出願資格:高校卒業(見込)
40	沖縄	沖縄リハビリテーション福祉学院	言語聴覚学科(昼間部)	30	3年	H17.4.1	901-1393	沖縄県島尻郡与那原町板良敷1380-1	医療法人おもと会	出願資格:高校卒業(見込)
合計			40専門学校	1,608						
総計			4 大学専攻科、28 大学、1 専門職大学、2 短期大学 専攻科、2 大学院、41 専門学校	3,139						

近畿地方の言語聴覚士養成校一覧

(令和5年2月15日現在)

(私立：大学専攻科)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学 定員	修業 年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	大阪	大阪保健医療大学	言語聴覚専攻科	40	2年	H21.4.1	530-0043	大阪府大阪市北区天満1-9-27	学校法人福田学園	
合計			1 大学専攻科	40						

(私立：大学)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学 定員	修業 年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	京都	京都先端科学大学	健康医療学部言語聴覚学科	30	4年	H27.4.1	615-8577	京都府京都市右京区山ノ内五反田町18	学校法人永守学園	H31.4設置者変更、学校名変更
2	京都	京都光華女子大学	健康科学部医療福祉学科言語聴覚専攻	30	4年	H26.4.1	615-0882	京都府京都市右京区西京極葛野町38	学校法人光華女子学園	
3	大阪	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚専攻	40	4年	H18.4.1	597-0104	大阪府貝塚市水間158	学校法人河崎学園	
4	大阪	大阪人間科学大学	保健医療学部言語聴覚学科	40	4年	H24.4.1	566-8501	大阪府摂津市正雀1-4-1	学校法人薫英学園	R2.4人間科学部医療心理学科言語聴覚専攻の改組転換
5	大阪	関西福祉科学大学	保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚専攻	40	4年	H27.4.1	582-0026	大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1	学校法人玉手山学園	
6	大阪	大和大学	保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚専攻	40	4年	H26.4.1	564-0082	大阪府吹田市片山町2-5-1	学校法人西大和学園	
7	兵庫	姫路獨協大学	医療保健学部言語聴覚療法学科	20	4年	H18.4.1	670-8524	兵庫県姫路市上大野7-2-1	学校法人獨協学園	
合計			7 大学	240						

(私立：短期大学専攻科)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学 定員	修業 年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	奈良	白鳳短期大学	専攻科リハビリテーション学専攻言語聴覚学課程	20	1年	H23.4.1	636-0011	奈良県北葛城郡王寺町1-7-17	学校法人西大和学園	
合計			1 短期大学専攻科	20						

(私立：専門学校)

No.	都道府県	学校名	学部学科等名	入学 定員	修業 年限	指定年月日	郵便番号	所在地	設置者	備考
1	大阪	大阪医療技術学園専門学校	言語聴覚士学科(昼間部:3年制) 言語聴覚士学科(昼夜間:2年制)	80	3年・2年	H18.4.1	530-0044	大阪府大阪市北区東天満2-1-30	学校法人大阪滋慶学園	昼間部3年制出願資格:高校卒業(見込) 昼夜間2年制出願資格:大学卒業(見込)
2	大阪	大阪医専	言語聴覚学科(昼間部:2年制)	40	2年	H12.4.1	531-0003	大阪府大阪市北区大淀中1-10-3	学校法人日本教育財団	出願資格:大学卒業(見込)
3	大阪	大阪医療福祉専門学校	言語聴覚士学科(昼間部)	30	2年	情報なし	532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原1-2-14	学校法人大阪滋慶学園	出願資格:大学卒業(見込)
4	兵庫	神戸総合医療専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	25	2年	H11.4.1	654-0142	兵庫県神戸市須磨区友が丘7-1-21	医療法人社団慈恵会	出願資格:大学卒業(見込)
5	兵庫	関西総合リハビリテーション専門学校	言語聴覚学科(昼間部)	40	3年	H13.4.1	656-2132	兵庫県淡路市志筑新島7-4	社会医療法人社団順心会	出願資格:高校卒業(見込)
6	兵庫	平成リハビリテーション専門学校	言語聴覚療法学科(昼間部)	30	3年	H26.4.1	663-8231	兵庫県西宮市津門西口町2-26	社会福祉法人関西中央福祉会	出願資格:高校卒業(見込)
7	兵庫	神戸医療福祉専門学校三田校	言語聴覚士科(昼間部)	40	4年	情報なし	669-1313	兵庫県三田市福島501-85	学校法人神戸滋慶学園	出願資格:高校卒業(見込)
8	兵庫	姫路医療専門学校	言語聴覚士科(昼間部)	40	3年	情報なし	670-0927	兵庫県姫路市駅前町27-2	学校法人神戸滋慶学園	出願資格:高校卒業(見込)
9	奈良	関西学研医療福祉学院	言語聴覚学科(昼間部)	40	2年	H12.4.1	631-0805	奈良県奈良市右京1-1-5	学校法人青丹学園	出願資格:大学卒業(見込)
総計			1 大学専攻科、7 大学、1 短期大学専攻科、9 専門学校	665						

競合大学学納金一覧（言語聴覚士養成校）

【資料11】

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	専攻名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	合計
大阪	私立	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	言語聴覚学専攻	40	280,000	1,150,000	420,000	1,850,000
大阪	私立	大阪人間科学大学	保健医療学部	言語聴覚学科		40	200,000	1,000,000	580,000	1,780,000
大阪	私立	関西福祉科学大学	保健医療学部	リハビリテーション学科	言語聴覚学専攻	40	200,000	1,100,000	400,000	1,700,000
京都	私立	京都光華女子大学	健康科学部	医療福祉学科	言語聴覚専攻	30	250,000	1,220,000	180,000	1,650,000
京都	私立	京都先端科学大学	健康医療学部	言語聴覚学科		30	260,000	900,000	440,000	1,600,000
兵庫	私立	姫路獨協大学	医療保健学部	言語聴覚療法学科		20	300,000	1,100,000	400,000	1,800,000
大阪	私立	大和大学	保健医療学部	総合リハビリテーション学科	言語聴覚学専攻	40	200,000	1,550,000	0	1,750,000
大阪	私立	森ノ宮医療大学	総合リハビリテーション学部	言語聴覚学科		40	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000
				理学療法学科		70	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000
				作業療法学科		40	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000
			看護学部	看護学科		90	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000
			医療技術学部	臨床検査学科		70	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000
				臨床工学科		60	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000
				診療放射線学科		80	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000
				鍼灸学科		60	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000

注1) 令和5（2023）年3月現在

注2) 各大学情報については、公式ウェブサイト等により調査した。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部
言語聴覚学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

令和5年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）への 高校生への入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和6年4月に予定している森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象高校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または森ノ宮医療大学に進学実績のある高等学校を中心に、2府7県（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県、香川県、徳島県、岡山県）に所在する高等学校の在学者で令和6年度大学進学対象となる高校2年生。

(3) 調査方法

近隣に所在する高等学校、または森ノ宮医療大学に進学実績のある高等学校を中心とした207校へ、28,424人分のアンケート用紙及び森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施した。回答用紙は、直接高等学校から一般財団法人日本開発構想研究所へ送付した。

この結果、高校2年生20,396人から有効回答（有効回収率約71.8%）を得た。

集計結果より、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和4年9月～令和5年1月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校207校28,424人

有効回答者数：高等学校175校20,614人の回答のうち、高校2年生20,396人

有効回収率：約71.8%（高校2年生20,396人÷調査対象者28,424人）

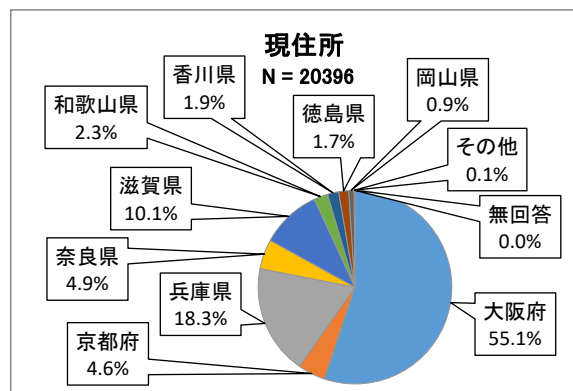
※森ノ宮医療大学において設置を構想している総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校 2 年生 20,396 人のうち、「大阪府」が 11,243 人 (55.1%) と最も多く、次いで「兵庫県」3,742 人 (18.3%)、「滋賀県」2,054 人 (10.1%)、「奈良県」1,008 人 (4.9%)、「京都府」940 人 (4.6%)、「和歌山県」476 人 (2.3%)、「香川県」381 人 (1.9%)、「徳島県」340 人 (1.7%)、「岡山県」183 人 (0.9%)、「その他」26 人 (0.1%) の順になっている。 ※「無回答」3 人 (0.0%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大阪府	11,243	55.1
2	京都府	940	4.6
3	兵庫県	3,742	18.3
4	奈良県	1,008	4.9
5	滋賀県	2,054	10.1
6	和歌山県	476	2.3
7	香川県	381	1.9
8	徳島県	340	1.7
9	岡山県	183	0.9
10	その他	26	0.1
	無回答	3	0.0
	N (%ベース)	20,396	100

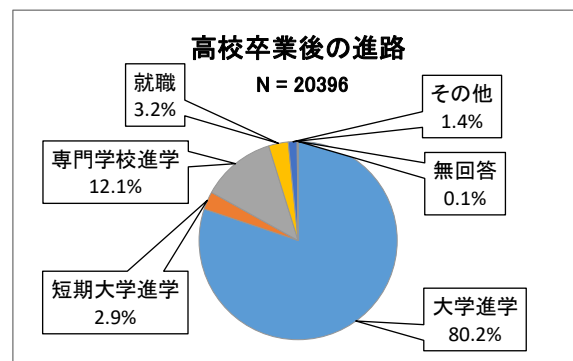


(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校 2 年生 20,396 人のうち、「大学進学」が 16,348 人 (80.2%) と最も多く、次いで「専門学校進学」2,476 人 (12.1%)、「就職」654 人 (3.2%)、「短期大学進学」595 人 (2.9%)、「その他」294 人 (1.4%) の順になっている。

※「無回答」29 人 (0.1%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	16,348	80.2
2	短期大学進学	595	2.9
3	専門学校進学	2,476	12.1
4	就職	654	3.2
5	その他	294	1.4
	無回答	29	0.1
	N (%ベース)	20,396	100



(3) 興味のある分野について

3-1 興味のある分野（第1位）

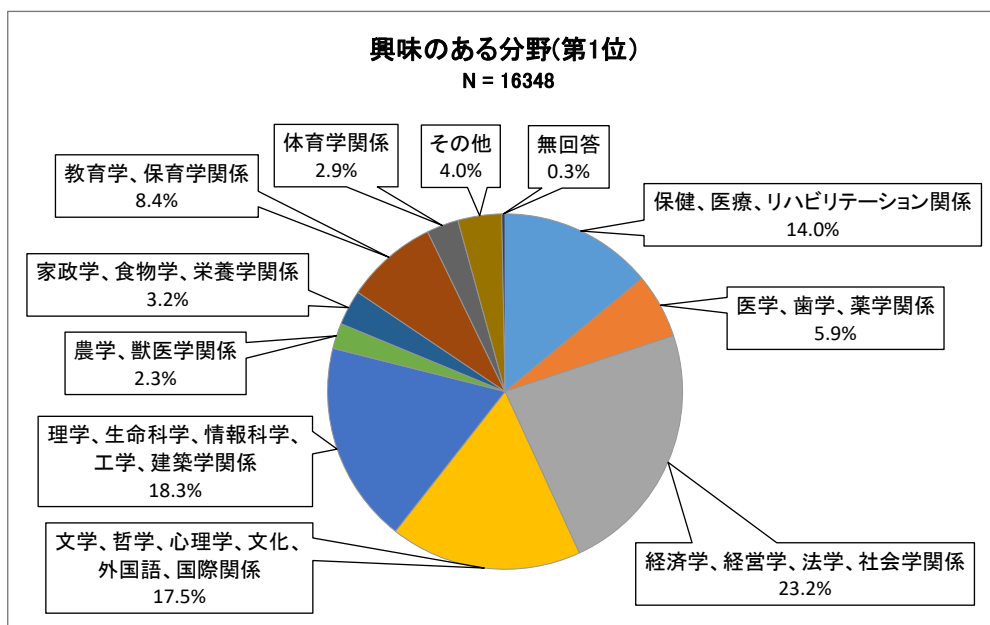
高校卒業後の進路で大学進学を希望する 16,348 人に、興味のある分野（第1位）について調査した。

その結果、「経済学、経営学、法学、社会学関係」が 3,797 人（23.2%）と最も多く、次いで「理学、生命科学、情報科学、工学、建築学関係」 2,993 人（18.3%）、「文学、哲学、心理学、文化、外国語、国際関係」 2,857 人（17.5%）、「保健、医療、リハビリテーション関係」 2,288 人（14.0%）、「教育学、保育学関係」 1,368 人（8.4%）、「医学、歯学、薬学関係」 965 人（5.9%）、「その他」 652 人（4.0%）、「家政学、食物学、栄養学関係」 523 人（3.2%）、「体育学関係」 476 人（2.9%）、「農学、獣医学関係」 381 人（2.3%）の順になっている。

※「無回答」 48 人（0.3%）

興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	保健、医療、リハビリテーション関係	2,288	14.0
2	医学、歯学、薬学関係	965	5.9
3	経済学、経営学、法学、社会学関係	3,797	23.2
4	文学、哲学、心理学、文化、外国語、国際関係	2,857	17.5
5	理学、生命科学、情報科学、工学、建築学関係	2,993	18.3
6	農学、獣医学関係	381	2.3
7	家政学、食物学、栄養学関係	523	3.2
8	教育学、保育学関係	1,368	8.4
9	体育学関係	476	2.9
10	その他	652	4.0
	無回答	48	0.3
	N (%ベース)	16,348	100



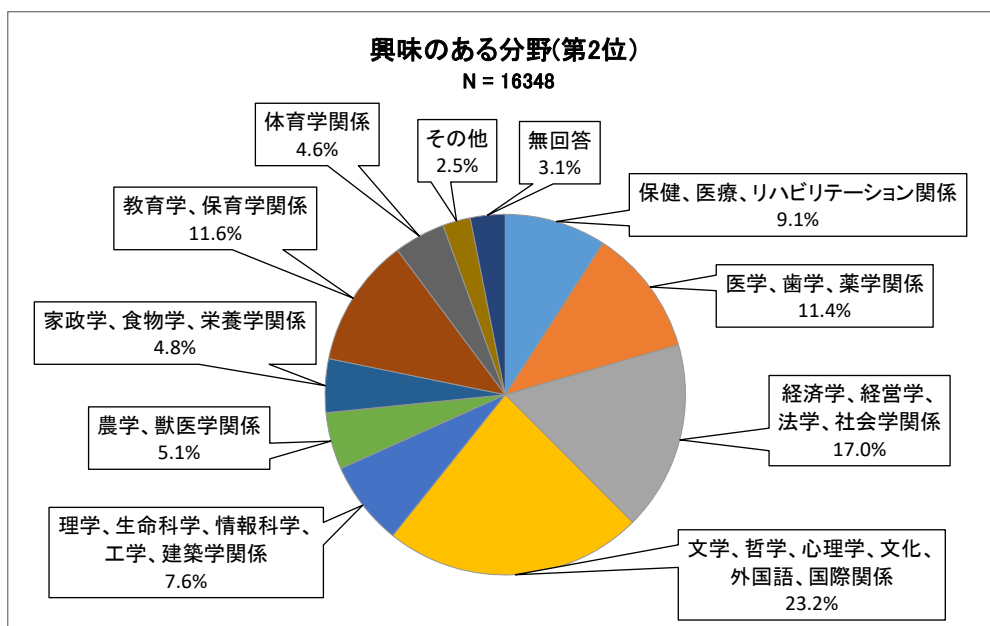
3-2 興味のある分野（第2位）

高校卒業後の進路で大学進学を希望する 16,348 人に、興味のある分野（第2位）について調査した。

その結果、「文学、哲学、心理学、文化、外国語、国際関係」が 3,797 人（23.2%）と最も多く、次いで「経済学、経営学、法学、社会学関係」2,773 人（17.0%）、「教育学、保育学関係」1,895 人（11.6%）、「医学、歯学、薬学関係」1,866 人（11.4%）、「保健、医療、リハビリテーション関係」1,492 人（9.1%）、「理学、生命科学、情報科学、工学、建築学関係」1,237 人（7.6%）、「農学、獣医学関係」835 人（5.1%）、「家政学、食物学、栄養学関係」785 人（4.8%）、「体育学関係」751 人（4.6%）、「その他」407 人（2.5%）の順になっている。 ※「無回答」510 人（3.1%）

興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	保健、医療、リハビリテーション関係	1,492	9.1
2	医学、歯学、薬学関係	1,866	11.4
3	経済学、経営学、法学、社会学関係	2,773	17.0
4	文学、哲学、心理学、文化、外国語、国際関係	3,797	23.2
5	理学、生命科学、情報科学、工学、建築学関係	1,237	7.6
6	農学、獣医学関係	835	5.1
7	家政学、食物学、栄養学関係	785	4.8
8	教育学、保育学関係	1,895	11.6
9	体育学関係	751	4.6
10	その他	407	2.5
	無回答	510	3.1
	N (%へ-入)	16,348	100



(4) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心について

「3-1 興味のある分野（第1位）」において「保健、医療、リハビリテーション関係」と回答した 2,288 人に、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心について調査した。

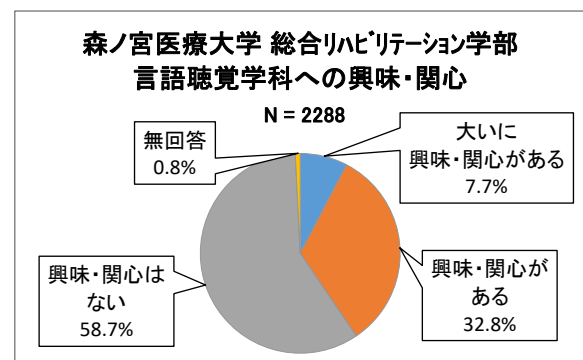
その結果、「興味・関心はない」が 1,343 人（58.7%）と最も多く、次いで「興味・関心がある」751 人（32.8%）、「大いに興味・関心がある」176 人（7.7%）の順になっている。

※「無回答」18 人（0.8%）

なお、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」の合計 927 人（40.5%）が森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科に興味・関心を示している。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	176	7.7
2	興味・関心がある	751	32.8
3	興味・関心はない	1,343	58.7
	無回答	18	0.8
	N (%ベース)	2,288	100



(5) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心の理由について

5-1 興味・関心の理由（第1理由）

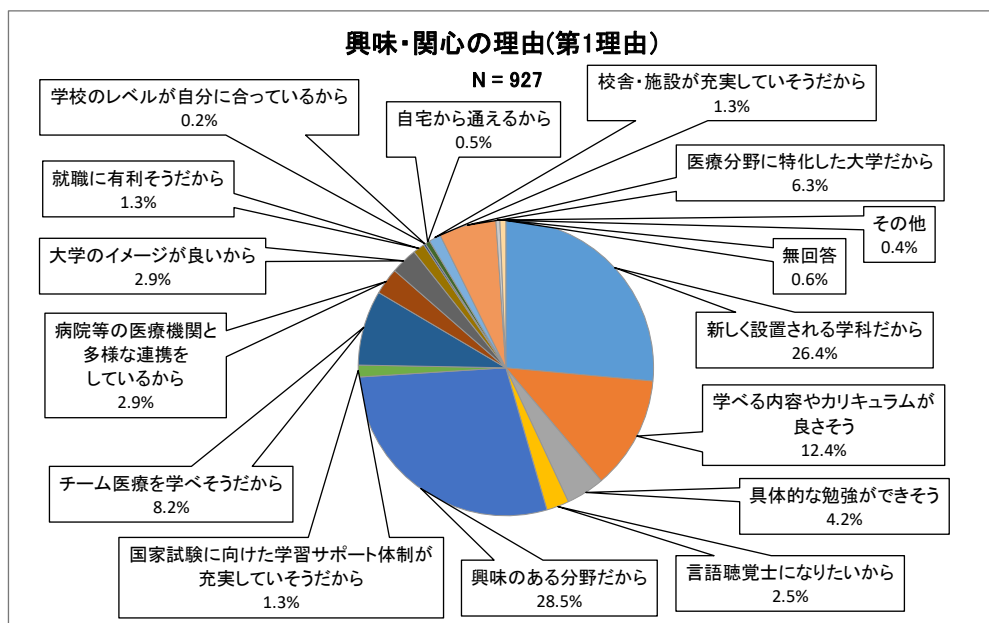
「(4) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心について」において「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」と回答した 927 人に、興味・関心の理由（第1理由）について調査した。

その結果、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「興味のある分野だから」が 264 人（28.5%）と最も多く、次いで「新しく設置される学科だから」245 人（26.4%）、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」115 人（12.4%）、「チーム医療を学べそうだから」76 人（8.2%）、「医療分野に特化した大学だから」58 人（6.3%）の順になっている。

※「無回答」6 人（0.6%）

興味・関心の理由(第1理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	245	26.4
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	115	12.4
3	具体的な勉強ができそう	39	4.2
4	言語聴覚士になりたいから	23	2.5
5	興味のある分野だから	264	28.5
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	12	1.3
7	チーム医療を学べそうだから	76	8.2
8	病院等の医療機関と多様な連携をしているから	27	2.9
9	大学のイメージが良いから	27	2.9
10	就職に有利そうだから	12	1.3
11	学校のレベルが自分に合っているから	2	0.2
12	自宅から通えるから	5	0.5
13	校舎・施設が充実していそうだから	12	1.3
14	医療分野に特化した大学だから	58	6.3
15	その他	4	0.4
	無回答	6	0.6
	N (%ベース)	927	100



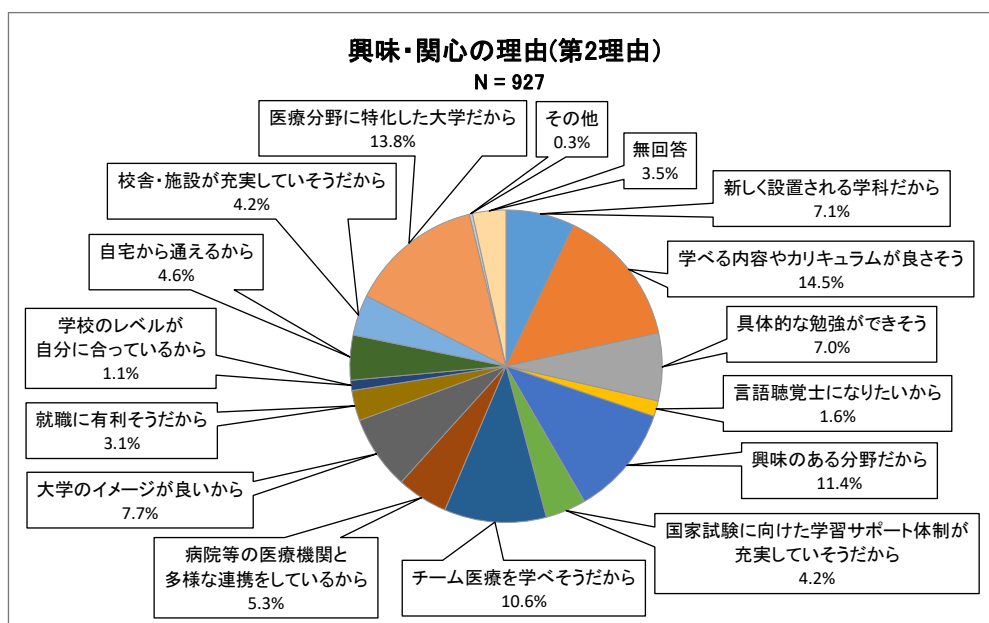
5-2 興味・関心の理由（第2理由）

「(4) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心について」において「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」と回答した 927 人に、興味・関心の理由（第2理由）について調査した。

その結果、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」が 134 人（14.5%）と最も多く、次いで「医療分野に特化した大学だから」128 人（13.8%）、「興味のある分野だから」106 人（11.4%）、「チーム医療を学べそうだから」98 人（10.6%）、「大学のイメージが良いから」71 人（7.7%）、「新しく設置される学科だから」66 人（7.1%）、「具体的な勉強ができそう」65 人（7.0%）、「病院等の医療機関と多様な連携をしているから」49 人（5.3%）の順になっている。 ※「無回答」32 人（3.5%）

興味・関心の理由(第2理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	66	7.1
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	134	14.5
3	具体的な勉強ができそう	65	7.0
4	言語聴覚士になりたいから	15	1.6
5	興味のある分野だから	106	11.4
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	39	4.2
7	チーム医療を学べそうだから	98	10.6
8	病院等の医療機関と多様な連携をしているから	49	5.3
9	大学のイメージが良いから	71	7.7
10	就職に有利そうだから	29	3.1
11	学校のレベルが自分に合っているから	10	1.1
12	自宅から通えるから	43	4.6
13	校舎・施設が充実していそうだから	39	4.2
14	医療分野に特化した大学だから	128	13.8
15	その他	3	0.3
	無回答	32	3.5
	N (%ベース)	927	100



(6) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向について

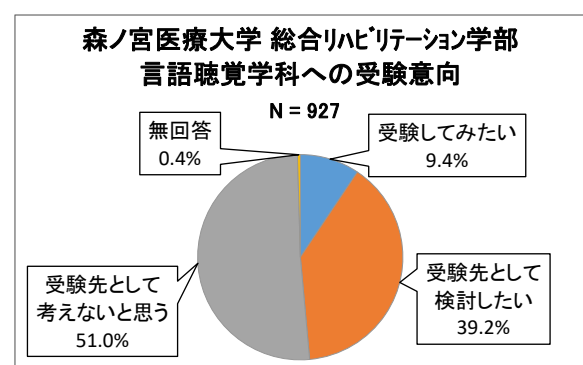
「(4) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への興味・関心について」において「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」と回答した 927 人に、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向について調査した。

その結果、「受験先として考えないと思う」が 473 人 (51.0%) と最も多く、次いで「受験先として検討したい」363 人 (39.2%)、「受験してみたい」87 人 (9.4%) の順になっている。 ※「無回答」4 人 (0.4%)

なお、「受験してみたい」、「受験先として検討したい」の肯定的な回答を合計すると、450 人 (48.5%) となっている。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	87	9.4
2	受験先として検討したい	363	39.2
3	受験先として考えないと思う	473	51.0
	無回答	4	0.4
	N (%ベース)	927	100



(7) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への入学意向について

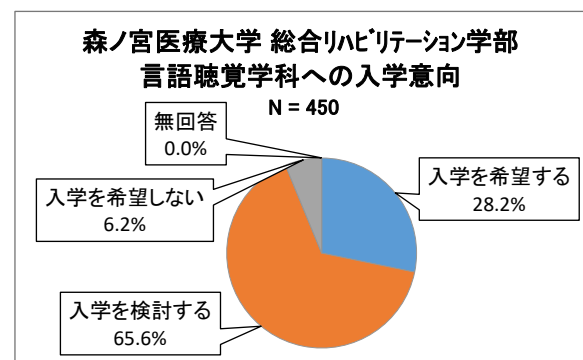
「(6) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向について」において森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向を示した 450 人に、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果、「入学を検討する」が 295 人 (65.6%) と最も多く、次いで「入学を希望する」127 人 (28.2%)、「入学を希望しない」28 人 (6.2%) の順になっている。

なお、「入学を希望する」、「入学を検討する」の肯定的な回答を合計すると、422 人 (93.8%) となっている。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	127	28.2
2	入学を検討する	295	65.6
3	入学を希望しない	28	6.2
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	450	100



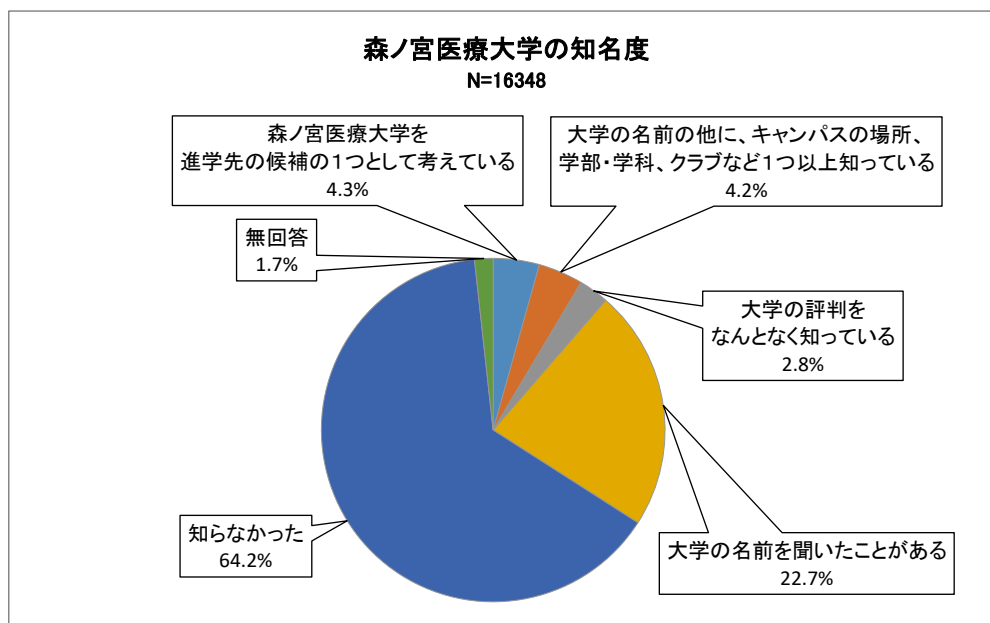
(8) 森ノ宮医療大学の知名度について

高校卒業後の進路で大学進学を希望する 16,348 人に、森ノ宮医療大学の知名度について調査した。

その結果、「知らなかった」が 10,494 人 (64.2%) と最も多く、次いで「大学の名前を聞いたことがある」が 3,713 人 (22.7%)、「森ノ宮医療大学を進学先の候補の 1 つとして考えている」708 人 (4.3%)、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科、クラブなど 1 つ以上知っている」690 人 (4.2%)、「大学の評判をなんとなく知っている」458 人 (2.8%) の順になっている。 ※「無回答」285 人 (1.7%)

森ノ宮医療大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	森ノ宮医療大学を進学先の候補の1つとして考えている	708	4.3
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科、クラブなど1つ以上知っている	690	4.2
3	大学の評判をなんとなく知っている	458	2.8
4	大学の名前を聞いたことがある	3,713	22.7
5	知らなかった	10,494	64.2
	無回答	285	1.7
	N (%ベース)	16,348	100



3. 調査結果のまとめ

「(7) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への入学意向について」より、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科へ「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 127 人いることがわかる。これによって、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の入学定員 40 人に対して約 3.2 倍の入学意向を確保しているといえる。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生が、合計で 422 人いることから、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の入学定員 40 人に対して約 10.6 倍の入学意向を示したといえる。

さらに下表より、「(6) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への受験意向について」と「(7) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への入学意向について」の調査結果をクロス集計したところ、「受験してみたい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 67 人となり、これは森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の入学定員 40 人に対して約 1.7 倍の入学意向を確保しているといえる。

受験意向 × 入学意向

上段:度数 下段:%		受験意向		
		合計	受験してみたい	受験先として 検討したい
入学意向	全体	450 100.0	87 19.3	363 80.7
	入学を希望する	127 100.0	67 52.8	60 47.2
	入学を検討する	295 100.0	17 5.8	278 94.2
	入学を希望しない	28 100.0	3 10.7	25 89.3
	無回答	0 -	0 -	0 -

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

調查票

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の 設置に係るアンケート調査

森ノ宮医療大学では、令和6年（2024年）4月を目処に、総合リハビリテーション学部言語聴覚学科（仮称）の設置を計画しています。このアンケート調査は、その基礎資料にするため、高校2年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。

※ 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の概要（リーフレット）をご覧ください。上記上でお答えください。

※ このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、その目的以外に利用することはございません。

※ 回答は、該当する番号を回答欄の の中へ直接ご記入ください。

【森ノ宮医療大学において設置を計画している言語聴覚学科（仮称）の概要】

- ・ 入学定員（予定） : 40名
- ・ 取得可能な資格（予定） : 言語聴覚士国家試験受験資格
- ・ 卒業後の想定進路 : 総合病院、クリニック、医療関連企業など

※言語聴覚学科（仮称）の設置は計画中であり、学部・学科名称、入学定員、学納金、取得可能資格等については変更する場合があります。

【あなたに関することについてお答えください】

【回答欄】

問1 あなたの学年をおたずねします。

1. 高校2年生 2. その他（ 年生）

問2 あなたの性別についておたずねします。

1. 男子 2. 女子 3. 回答しない

問3 あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

1. 大阪府 4. 奈良県 7. 香川県 10. その他
2. 京都府 5. 滋賀県 8. 徳島県 （ ）
3. 兵庫県 6. 和歌山県 9. 岡山県

【卒業後の進路についてお答えください】

問4 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つお選びください。

1. 大学進学
2. 短期大学進学
3. 専門学校進学
4. 就職
5. その他（具体的に： ）

1 を選ばれた方は問5へお進みください。
2、3、4、5 を選ばれた方は問10へお進みください。

問5 あなたは進学先（大学）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中からあてはまるものを第2位まで選んでください。回答後は問6へお進みください。

1. 保健、医療、リハビリテーション関係
2. 医学、歯学、薬学関係
3. 経済学、経営学、法学、社会学関係
4. 文学、哲学、心理学、文化、外国語、国際関係
5. 理学、生命科学、情報科学、工学、建築学関係
6. 農学、獣医学関係
7. 家政学、食物学、栄養学関係
8. 教育学、保育学関係
9. 体育学関係
10. その他（具体的に： ）

第1位

第2位

ここからは、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の概要（リーフレット）をご覧ください。お答えください。

【 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）への入学について 】

問 6 あなたは、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）について、どのようにお考えですか。次の中から 1 つお選びください。

- 1. 大いに興味・関心がある
- 2. 興味・関心がある
- 3. 興味・関心はない

1、2 を選ばれた方は問 7 へお進み下さい。
 3 を選ばれた方は問 10 へお進み下さい。

問 7 問 6 で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された方にお聞きします。それは、どのような理由からですか。次の中から 第 2 理由まで お選びください。回答後は問 8 へお進みください。

- | | | |
|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 1. 新しく設置される学科だから | 9. 大学のイメージが良いから | |
| 2. 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 10. 就職に有利そうだから | |
| 3. 具体的な勉強ができそう | 11. 学校のレベルが自分に合っているから | 第 1 理由 <input type="checkbox"/> |
| 4. 言語聴覚士になりたいから | 12. 自宅から通えるから | |
| 5. 興味のある分野だから | 13. 校舎・施設が充実していそうだから | 第 2 理由 <input type="checkbox"/> |
| 6. 国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから | 14. 医療分野に特化した大学だから | |
| 7. チーム医療を学べそうだから | 15. その他 | |
| 8. 病院等の医療機関と多様な連携をしているから | | 【具体的に： <input type="text"/> 】 |

問 8 あなたは森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）を受験したいと意思しますか。次の中から 1 つお選びください。

- 1. 受験してみたい
- 2. 受験先として検討したい
- 3. 受験先として考えないと思う

1、2 を選ばれた方は問 9 へお進み下さい。
 3 を選ばれた方は問 10 へお進み下さい。

問 9 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から 1 つお選びください。

- 1. 入学を希望する
- 2. 入学を検討する
- 3. 入学を希望しない

【 森ノ宮医療大学について 】

問 10 あなたは森ノ宮医療大学を知っていますか。次の中から 1 つお選びください。

- 1. 森ノ宮医療大学を進学先の候補の 1 つとして考えている
- 2. 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科、クラブなど 1 つ以上知っている
- 3. 大学の評判をなんとなく知っている
- 4. 大学の名前を聞いたことがある
- 5. 知らなかった

問 11 森ノ宮医療大学や、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

類似する大学・学部・学科一覧

《森ノ宮医療大学が設置を予定している学科》
言語聴覚学科（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	専攻名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
大阪	私立	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	言語聴覚学専攻	40	280,000	1,150,000	420,000	12,000	1,862,000
大阪	私立	大阪人間科学大学	保健医療学部	言語聴覚学科		40	200,000	1,000,000	580,000	40,000	1,820,000
大阪	私立	関西福祉科学大学	保健医療学部	リハビリテーション学科	言語聴覚学専攻	40	200,000	1,100,000	400,000	28,000	1,728,000
京都	私立	京都光華女子大学	健康科学部	医療福祉学科	言語聴覚専攻	30	250,000	1,220,000	180,000	19,100	1,669,100
京都	私立	京都先端科学大学	健康医療学部	言語聴覚学科		30	260,000	900,000	440,000	49,500	1,649,500
兵庫	私立	姫路獨協大学	医療保健学部	言語聴覚療法学科		20	300,000	1,100,000	400,000	53,300	1,853,300
大阪	私立	大和大学	保健医療学部	総合リハビリテーション学科	言語聴覚学専攻	40	200,000	1,550,000	0	30,000	1,780,000
大阪	私立	森ノ宮医療大学	総合リハビリテーション学部	言語聴覚学科（仮称）		40	250,000	1,000,000	550,000	70,000	1,870,000

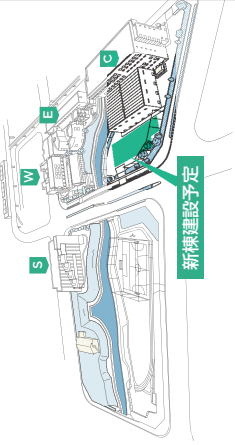
注1) 各大学情報については、公式ウェブサイト等により調査しました。

注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。

注3) 森ノ宮医療大学の学費は予定であり、変更する場合があります。

計画概要

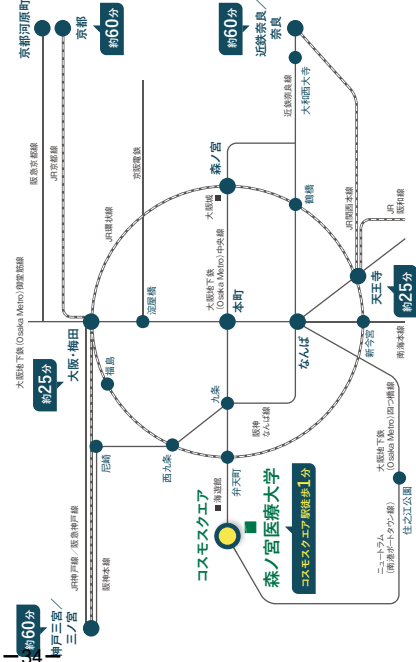
言語聴覚学科(仮称)の学舎となる
新棟を建設予定



新棟のハイスピードエントランスは、交通の利便性を高めることが期待されています。

最寄り駅から徒歩1分、通いやすい好アクセス

京阪(鴨川)と豊中線に囲まれた本学のキャンパスは、広大な海と空が一望できるベイエリアに位置し、大阪市内の主要ターミナル駅から30分以内、しかも最寄り駅「コスモスクエア」からは徒歩1分の好立地。兵庫・奈良・京都方面からのアクセスにも優まれ、卒業後も利用しやすい環境です。



想いのすべてを、医療の力に。
森ノ宮医療大学

- 看護学部
- 看護学科
- 臨床検査学科
- 臨床工学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科
- 医療技術学科
- 臨床検査学専攻(修士課程)
- 臨床工学科専攻(修士後期課程)
- 診療放射線学専攻(修士後期課程)
- 鍼灸学科

TEL **0120-68-8908**
https://www.morinomiyu-u.ac.jp

〒559-8611
大阪府住之江区南港北1-26-16
[TEL] 06-6616-6911



- 専攻科
- 助産学専攻科(1年課程)

(発行)2022年9月

2024年4月



想いのすべてを、医療の力に。

森ノ宮医療大学

総合リハビリテーション学部

言語聴覚学科 誕生予定

(仮称・設置
構想中)

入学定員
40名
(予定)

※構想中であるため今後、名称・内容・定員などは変更する場合があります。

Department of Speech-language-hearing Therapy

関西最大級 医療系総合大学の
総合リハビリテーション学部に
言語聴覚学科(仮称)が誕生(予定)。
リハビリテーションに関する3つの専門職が揃い、
チーム医療教育がさらに深化します。

Department of
Speech-Language-
Hearing Therapy

2024年4月開設予定
言語聴覚
学科
(仮称・設置構想中)

3学科連携により
学びが深まる
総合リハビリ
テーション学部

理学療法
学科
Department of
Physical Therapy

作業療法
学科
Department of
Occupational Therapy

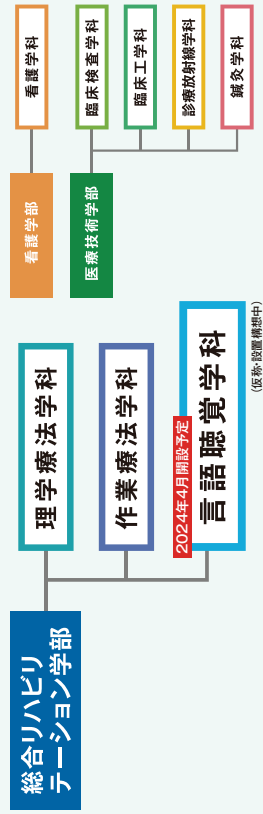


2024年4月、総合リハビリテーション学部にて3つ目の学科が誕生(予定)

「言語聴覚学科」を設置(構想中)

チーム医療の学びがさらに深化します

3学部8学科の医療系総合大学へ

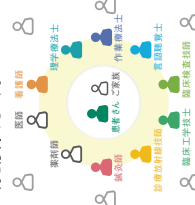


“関西最大級の医療系総合大学”森ノ宮医療大学だからできる医療教育

POINT 1

8学科連携で学ぶ実践的チーム医療教育

-IPE(International Professional Education)- チーム医療では、多職種が集まる場で他の専門スタッフの語が理解でき、なおかつ自らの専門分野で何ができるかを提案する力が求められます。本学では8学科が1つのキャンパス内にある環境を活かし、多職種の意見を聞き、自らの考えを伝える力を養うチーム医療のためのカリキュラムを実施。肩わりと協働しながら患者さんへ最善のアプローチ方法を考え、実践が



チーム医療のイメージ(一例)

POINT 2

豊富な医療機関と強固なつながり

大学全体で500施設以上の実習先を確保。地域の基幹病院と強固な連携体制を築き、大阪府をはじめとした関西エリアを中心に数多くの実習先を確保。多様な分野での実習が可能とし、さまざまなフィールドで活躍できる言語聴覚士を育成します。

実習病院(※全体系)

- 大阪急性期・総合医療センター/医療法人朝秀会/北野病院/医療法人協和会/南大阪病院/大阪国際がんセンター/関西メディカル病院/日本生命病院/近畿大学病院/社会医療法人愛仁会/JCHO大阪みなと中央病院/JCHO大阪南病院 など

POINT 3

入学から卒業後まで続くサポート

学生生活を支えるトリプルサポート体制。普段の学修から学生生活、国家試験対策や就職まであらゆる学生のニーズに対応するために、①学段の学修や大学生活、②国家試験対策、③就職キャリア、まで支援するトリプルサポート体制を導入し、学生をサポートしています。

国家試験合格者率

看護学科	看護師	100%	保健師	100%
助産学専攻科	助産師	100%		
理学療法学科	理学療法士	98.4%		
作業療法学科	作業療法士	100%		
臨床検査学科	臨床検査技師	80.0%		
臨床工学学科	臨床工学技士	98.1%		
鍼灸学科	はり師	95.7%	きゅう師	95.7%

(2022年3月卒業生実績)

話す、聴く、食べる、のスペシャリスト

言語聴覚学科

2024年4月開設予定

【入学定員】40名(予定) 【学位】学士(言語聴覚学)(予定) 【取得可能な資格】言語聴覚士(国家試験受験資格)(予定)

教育目標(育成する人材像)

- ①チーム医療に貢献できる協働性とコミュニケーション能力を有し、専門的な知識と技能および幅広い教養と豊かな感性を備え、科学的根拠に基づいて対象児・者を抱える問題の解決や支援のための言語聴覚療法を実践できる言語聴覚士の養成をめざします。
- ②必要な専門知識と技能の修得はるから、それらを効果的かつ実践的に活用し、多職種連携の理解を深めたチーム医療に貢献できる人材を育成します。
- ③主体的な学びや探求心・向上心により自己研鑽し、地域社会の人々の健康増進のために貢献できる言語聴覚士を育成します。

※構想中であるため今後、名称・内容・定員などは変更する場合があります。

? 言語聴覚士とは

話す・聴く・安全に食べられることを支援

小児から超高齢者まで幅広い年齢層を対象に、検査や訓練、助言などを行い、話す・聴く・食べるといった日常生活に欠かせない機能の回復や向上、社会復帰、発達を支援するのが言語聴覚士の仕事です。失語症や構音障がいなどの言語障がい、聴覚障がい、嚥下障がい、ことは発達遅延の遅れ、声の障がいなどに問題をもつ方とご家族を支援します。医療機関だけでなく、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活躍できます。

今後ますます求められる職種

医療技術の進歩に伴い、これまでは助かっていた命が救われる一方、障がいとともにも生きている現代社会において、今後ますます言語聴覚士をはじめリハビリテーション職のニーズは高まると予想されます。また高齢者の暮らしを地域全体で支え合う「地域包括ケア」体制において言語聴覚士はその一端を担っており、活躍の場は広がっていくとみられています。

AI時代にも求められる仕事

リハビリテーションの仕事は、単に症状に対する改善策を提供するだけでは成り立たず、豊かな人間性とコミュニケーション能力を発揮して患者さんの気持ちに寄り添った対応が求められます。コミュニケーションには、言葉だけではなく、思考、聴こえ、声の調子、表情、身振りなど様々な要素が含まれます。その複雑な障がい像を理解し、観察力や洞察力もフル活用しながら臨機応変に対応する言語聴覚士の業務は、AIには代替できない仕事だと考えられています。

女性が活躍しやすいフィールド

言語聴覚士は、男女ともに活躍できる仕事ですが女性の比率が高い職種です。それは、力仕事や少ないことが要因の一つと考えられます。また産休や育休に理解がある職場が多く、就業時間が規則的・基本的に夜勤がないため、女性が働きやすい環境が整っています。

PICK UP

理学療法士・作業療法士との連携

■ リハビリテーション3職種の連携

そもそも「リハビリテーション」とはラテン語で「回復」(Recovery)、「Habilis(適した)」「latio(状態)」が含まれる言葉で、「再びその人らしい状態にする」という意味を持っています。3つのリハビリテーション職はそれぞれ異なる領域を担当し、互いに連携し一つのチームとなって「その人らしい暮らしを取り戻す手助けを行っていくため、相互理解が欠かせません。

理学療法士	身体動作を取り戻す「動き」の専門家	例	歩けるようになる。歩けるようになる。歩けるようになる。
-------	-------------------	---	-----------------------------

作業療法士	日常生活に必要な動きを改善する専門家	例	歩けるようになった。歩けるようになった。歩けるようになった。
-------	--------------------	---	--------------------------------

言語聴覚士	他者とのコミュニケーションをとりやすくなる	例	ことばを用いて買いたいものを伝えたり、意思疎通ができるようになる。
-------	-----------------------	---	-----------------------------------

より日常的な内容を支援します

脳卒中などにより話す・聞いて理解する・読む書きが困難な方

CASE 1	想定される症状	失語症
	アプローチ方法	各種の言語機能検査を実施し、残された言語機能にも着目しながらコミュニケーションの向上を図る。

【大学で学修する領域】失語・高次脳機能障害(予定)

ろれつが回らない、喉頭がなんでも声が出ない方

CASE 2	想定される症状	構音障がい、音声障がい
	アプローチ方法	麻痺した喉頭の機能訓練、舌運動療法や人工喉頭などの代用法、文字書やコンピュータなどの工(補助)も活用。

【大学で学修する領域】言語聴覚学総論(予定)

病気が加齢により食べものを飲み込むことが困難な方

CASE 3	想定される症状	むせ込み、嚥下困難
	アプローチ方法	嚥下、評価や検査、嚥下造影検査等から原因を特定し、訓練や薬物療法を実施。

【大学で学修する領域】発声・嚥下障害学(予定)

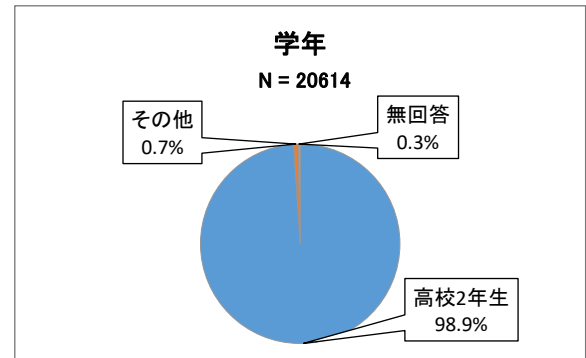
予想される就職先	一般的に病院等の医療機関が多いですが、保健・福祉、教育などの分野で活躍の場が拡大しています。
医療機関	大学病院/総合病院/診療所 など
保健施設	介護老人保健施設、デイケアセンター、小児デイケアセンターなど
福祉施設	特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、重症心身障害者施設など
教育機関	小中学校/特別支援学校、特別支援学校、言語聴覚士養成施設など

※IPW専門機関連携

單純集計表

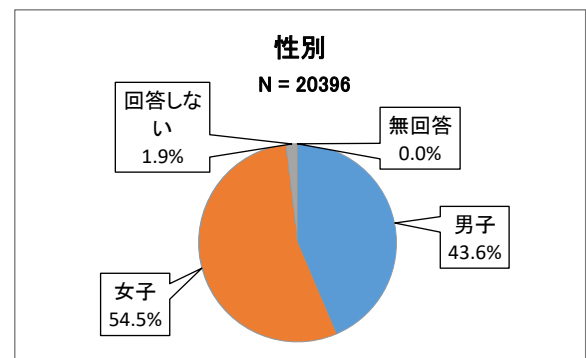
学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	20,396	98.9
2	その他	149	0.7
	無回答	69	0.3
	N (%ベース)	20,614	100



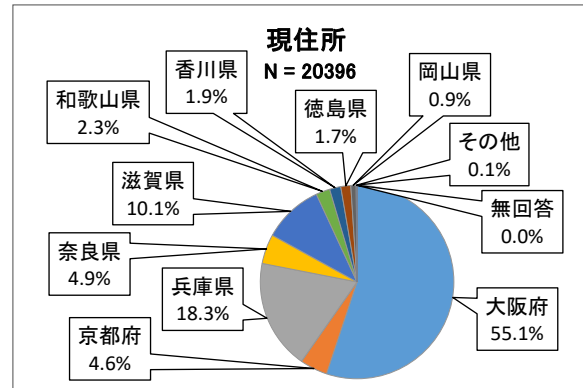
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	8,892	43.6
2	女子	11,114	54.5
3	回答しない	389	1.9
	無回答	1	0.0
	N (%ベース)	20,396	100



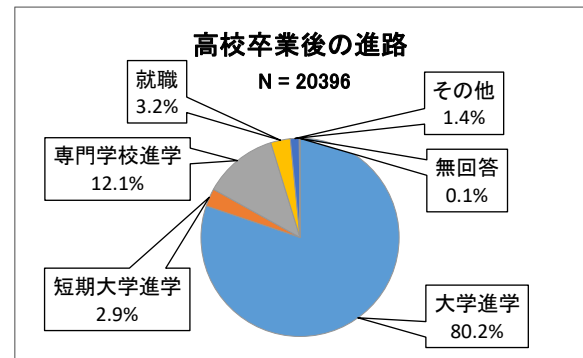
現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大阪府	11,243	55.1
2	京都府	940	4.6
3	兵庫県	3,742	18.3
4	奈良県	1,008	4.9
5	滋賀県	2,054	10.1
6	和歌山県	476	2.3
7	香川県	381	1.9
8	徳島県	340	1.7
9	岡山県	183	0.9
10	その他	26	0.1
	無回答	3	0.0
	N (%ベース)	20,396	100



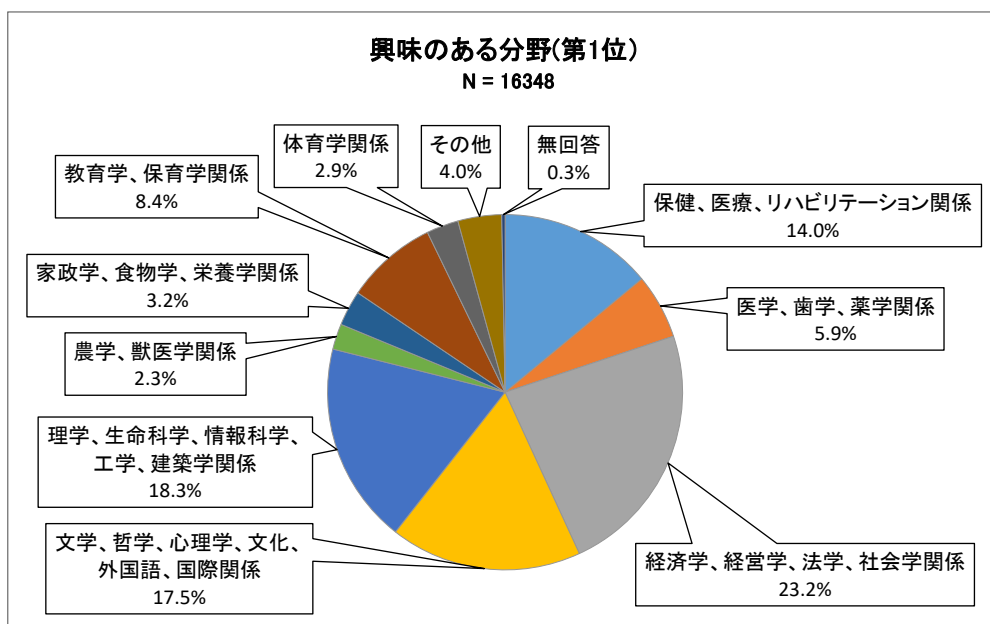
高校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	16,348	80.2
2	短期大学進学	595	2.9
3	専門学校進学	2,476	12.1
4	就職	654	3.2
5	その他	294	1.4
	無回答	29	0.1
	N (%ベース)	20,396	100



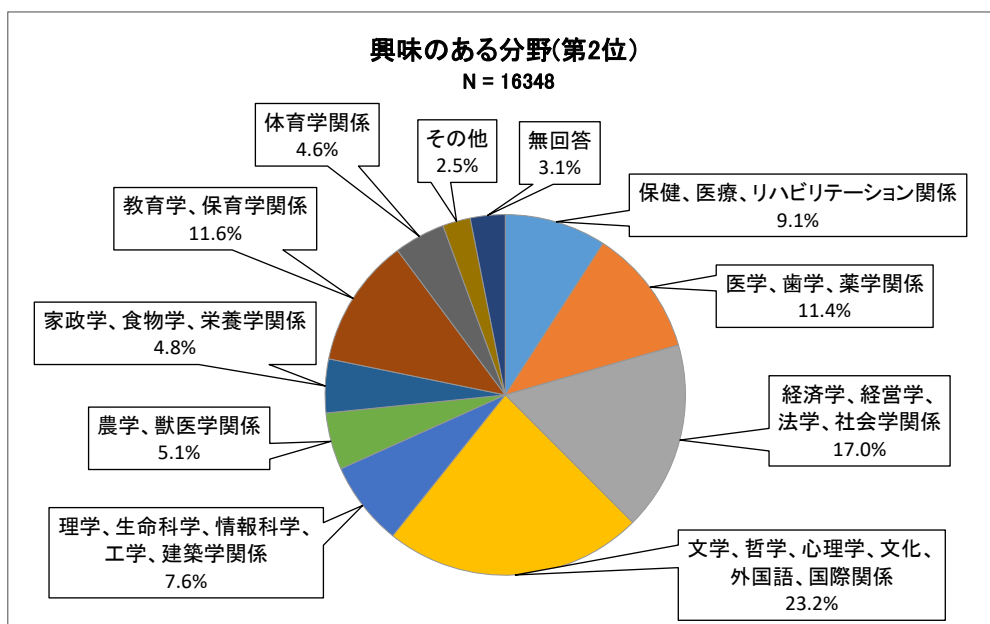
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	保健、医療、リハビリテーション関係	2,288	14.0
2	医学、歯学、薬学関係	965	5.9
3	経済学、経営学、法学、社会学関係	3,797	23.2
4	文学、哲学、心理学、文化、外国語、国際関係	2,857	17.5
5	理学、生命科学、情報科学、工学、建築学関係	2,993	18.3
6	農学、獣医学関係	381	2.3
7	家政学、食物学、栄養学関係	523	3.2
8	教育学、保育学関係	1,368	8.4
9	体育学関係	476	2.9
10	その他	652	4.0
	無回答	48	0.3
	N (%ベース)	16,348	100



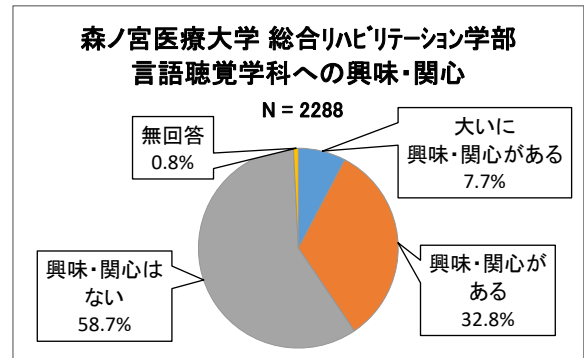
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	保健、医療、リハビリテーション関係	1,492	9.1
2	医学、歯学、薬学関係	1,866	11.4
3	経済学、経営学、法学、社会学関係	2,773	17.0
4	文学、哲学、心理学、文化、外国語、国際関係	3,797	23.2
5	理学、生命科学、情報科学、工学、建築学関係	1,237	7.6
6	農学、獣医学関係	835	5.1
7	家政学、食物学、栄養学関係	785	4.8
8	教育学、保育学関係	1,895	11.6
9	体育学関係	751	4.6
10	その他	407	2.5
	無回答	510	3.1
	N (%ベース)	16,348	100



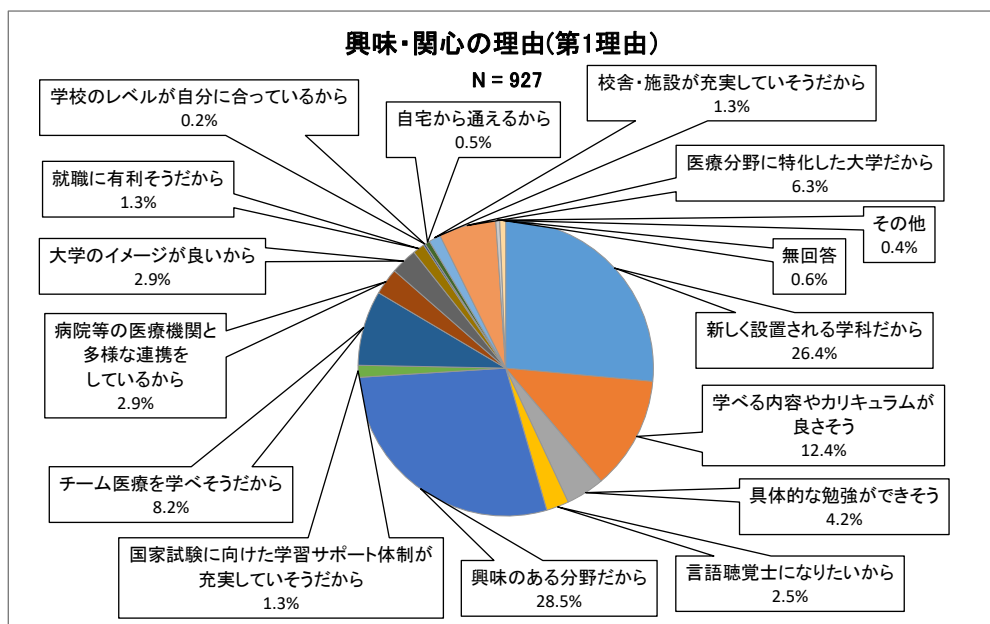
森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への
興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	176	7.7
2	興味・関心がある	751	32.8
3	興味・関心はない	1,343	58.7
	無回答	18	0.8
	N (%ベース)	2,288	100



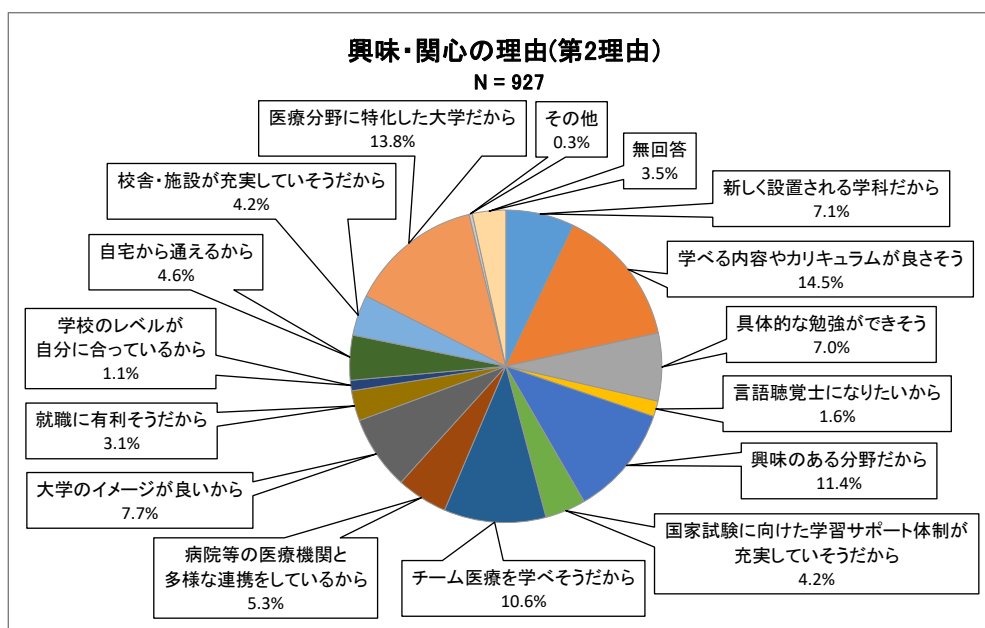
興味・関心の理由(第1理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	245	26.4
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	115	12.4
3	具体的な勉強ができそう	39	4.2
4	言語聴覚士になりたいから	23	2.5
5	興味のある分野だから	264	28.5
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	12	1.3
7	チーム医療を学べそうだから	76	8.2
8	病院等の医療機関と多様な連携をしているから	27	2.9
9	大学のイメージが良いから	27	2.9
10	就職に有利そうだから	12	1.3
11	学校のレベルが自分に合っているから	2	0.2
12	自宅から通えるから	5	0.5
13	校舎・施設が充実していそうだから	12	1.3
14	医療分野に特化した大学だから	58	6.3
15	その他	4	0.4
	無回答	6	0.6
	N (%ベース)	927	100



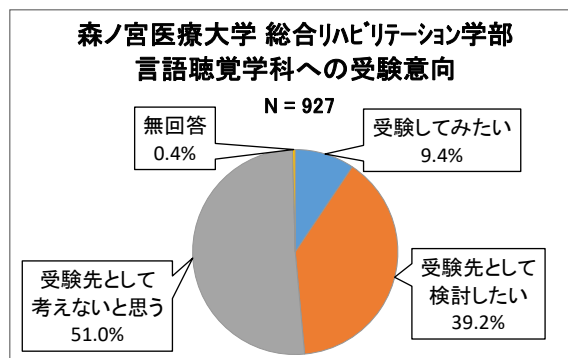
興味・関心の理由(第2理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	66	7.1
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	134	14.5
3	具体的な勉強ができそう	65	7.0
4	言語聴覚士になりたいから	15	1.6
5	興味のある分野だから	106	11.4
6	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそうだから	39	4.2
7	チーム医療を学べそうだから	98	10.6
8	病院等の医療機関と多様な連携をしているから	49	5.3
9	大学のイメージが良いから	71	7.7
10	就職に有利そうだから	29	3.1
11	学校のレベルが自分に合っているから	10	1.1
12	自宅から通えるから	43	4.6
13	校舎・施設が充実していそうだから	39	4.2
14	医療分野に特化した大学だから	128	13.8
15	その他	3	0.3
	無回答	32	3.5
	N (%ベース)	927	100



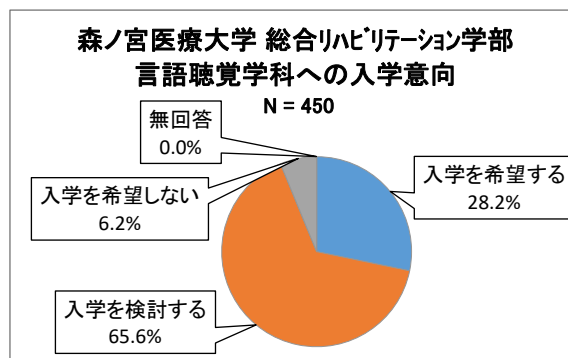
森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への
受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	87	9.4
2	受験先として検討したい	363	39.2
3	受験先として考えないと思う	473	51.0
	無回答	4	0.4
	N (% [^] -ス)	927	100



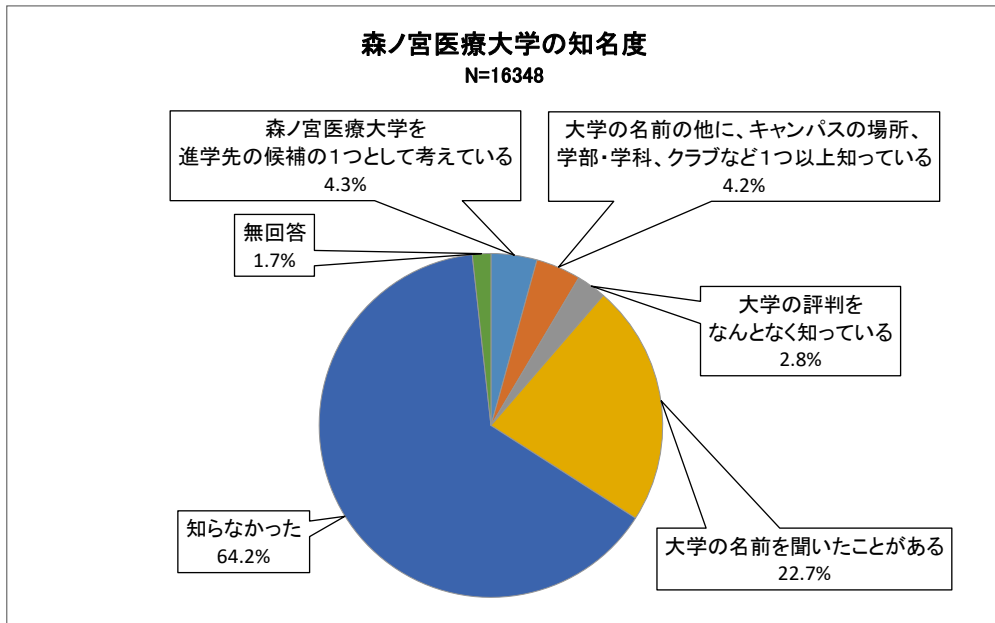
森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科への
入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	127	28.2
2	入学を検討する	295	65.6
3	入学を希望しない	28	6.2
	無回答	0	0.0
	N (% [^] -ス)	450	100



森ノ宮医療大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	森ノ宮医療大学を進学先の候補の1つとして考えている	708	4.3
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科、クラブなど1つ以上知っている	690	4.2
3	大学の評判をなんとなく知っている	458	2.8
4	大学の名前を聞いたことがある	3,713	22.7
5	知らなかった	10,494	64.2
	無回答	285	1.7
	N (%ベース)	16,348	100



大学の分野別学部入学状況(大阪府発表)

入学志願者数(人)

分野	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
私立	525,624	602,225	583,016	518,446	518,107
前年比	-	114.6%	96.8%	88.9%	99.9%
保健	48,287	47,262	48,749	45,405	46,960
前年比	-	97.9%	103.1%	93.1%	103.4%

入学者数(人)

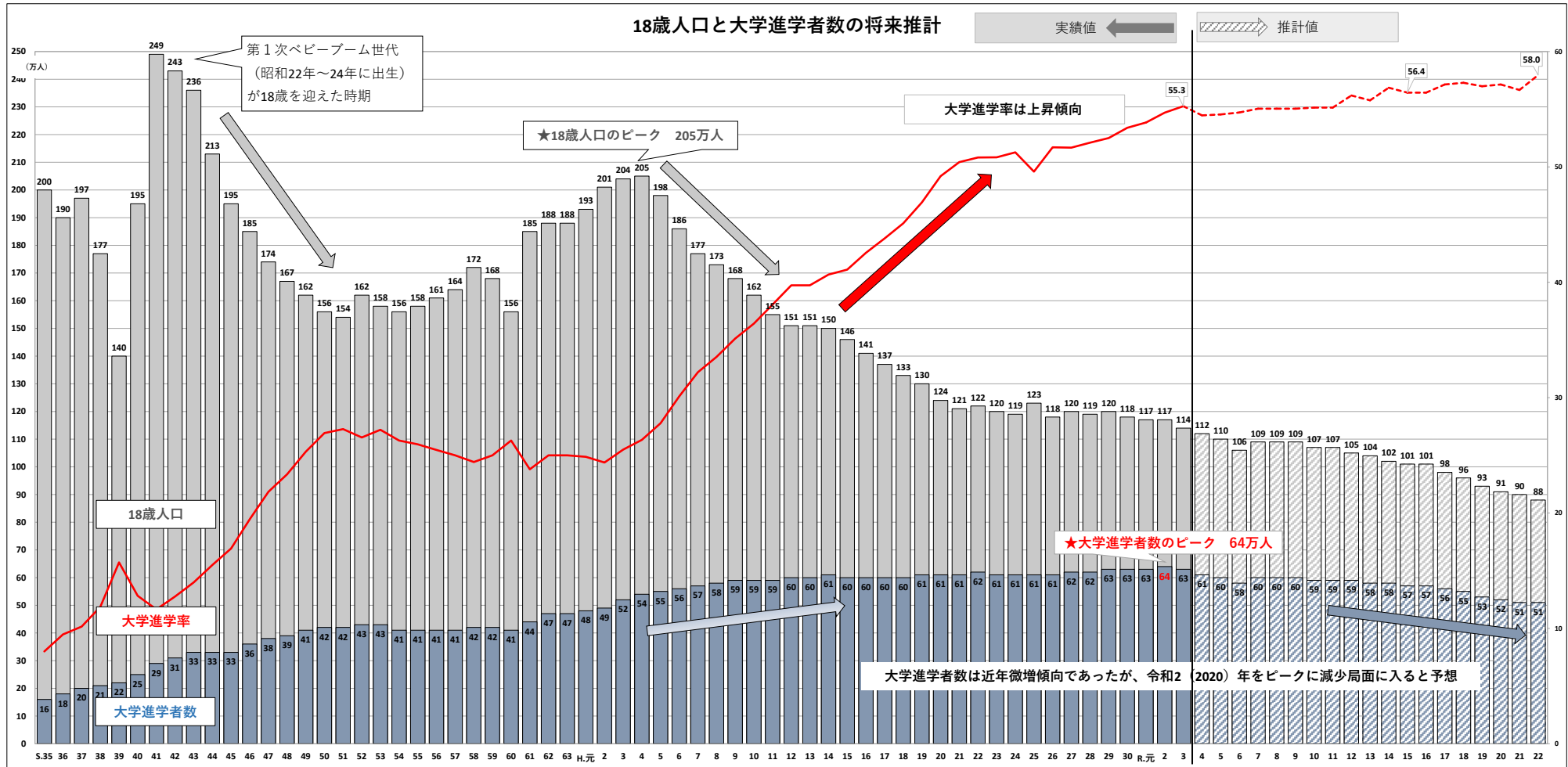
分野	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
私立	47,051	46,973	48,978	49,154	49,410
保健	5,017	5,214	5,441	5,549	5,480

※データはすべて大阪の学校統計(学校基本調査)より抜粋

18歳人口と大学進学者数の将来推計

【資料14】

	S.35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R.元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
18歳人口	200	190	197	177	140	195	249	243	236	213	195	185	174	167	162	156	154	162	158	156	161	164	172	168	156	185	188	188	193	201	204	205	198	186	177	173	168	162	155	151	150	146	141	137	133	130	124	121	122	120	119	123	118	120	119	120	118	117	117	114	112	110	106	109	109	109	107	107	105	104	102	101	101	98	96	93	91	90	88		
大学進学者数	16	18	20	21	22	25	29	31	33	33	33	36	38	39	41	42	42	43	43	41	41	41	41	42	42	41	44	47	47	48	49	52	54	55	56	57	58	59	59	59	60	60	61	60	60	60	60	61	61	61	61	61	61	61	62	62	63	63	64	63	61	60	58	60	60	60	59	59	59	58	58	57	57	56	55	53	52	51	51		
大学進学率	8.0	9.5	10.2	11.9	15.7	12.8	11.6	12.8	14.0	15.5	16.9	19.5	21.8	23.4	25.3	26.9	27.3	26.5	27.2	26.3	25.9	25.5	25.0	24.4	25.0	26.3	23.8	25.0	24.9	24.4	25.5	26.3	27.8	30.1	32.2	33.5	35.1	36.4	38.1	39.7	39.7	40.7	41.1	42.6	43.8	45.1	46.9	48.2	50.4	50.8	50.8	51.3	49.6	51.7	52.1	52.5	53.4	53.8	54.7	55.3	54.5	54.5	54.7	55.0	55.0	55.1	55.1	56.2	55.8	56.9	56.4	56.4	57.1	57.3	57.0	57.1	56.7	58.0			



18歳人口は、平成21～令和2年までほぼ横ばいで推移するが、令和3年から再び減少局面に突入し、令和22年には約88万人まで減少することが予測されている。

また、18歳人口が減少し続ける中でも大学進学率は上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、平成30年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入しうると予測される。

出典 ①中央教育審議会大学分科会大学振興部会（令和4年11月16日 第6回）【参考資料1】p.159「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」（文部科学省「学校基本統計」。令和16～22年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）（出生中位）」を基に作成

②中央教育審議会大学分科会将来構想部会（平成30年2月21日 第13回）【資料2】「大学への進学者数の将来推計について」上記グラフは、①②のデータから、18歳人口、大学進学者数、大学進学率を抽出して表示した。

- 18歳人口 = 3年前の中学校及び義務教育学校卒業数並びに中等教育学校前期課程修了者数
- 進学率 = 該年度の大学入学者数 ÷ 18歳人口

18歳人口予測（全体：近畿：2022～2034年）

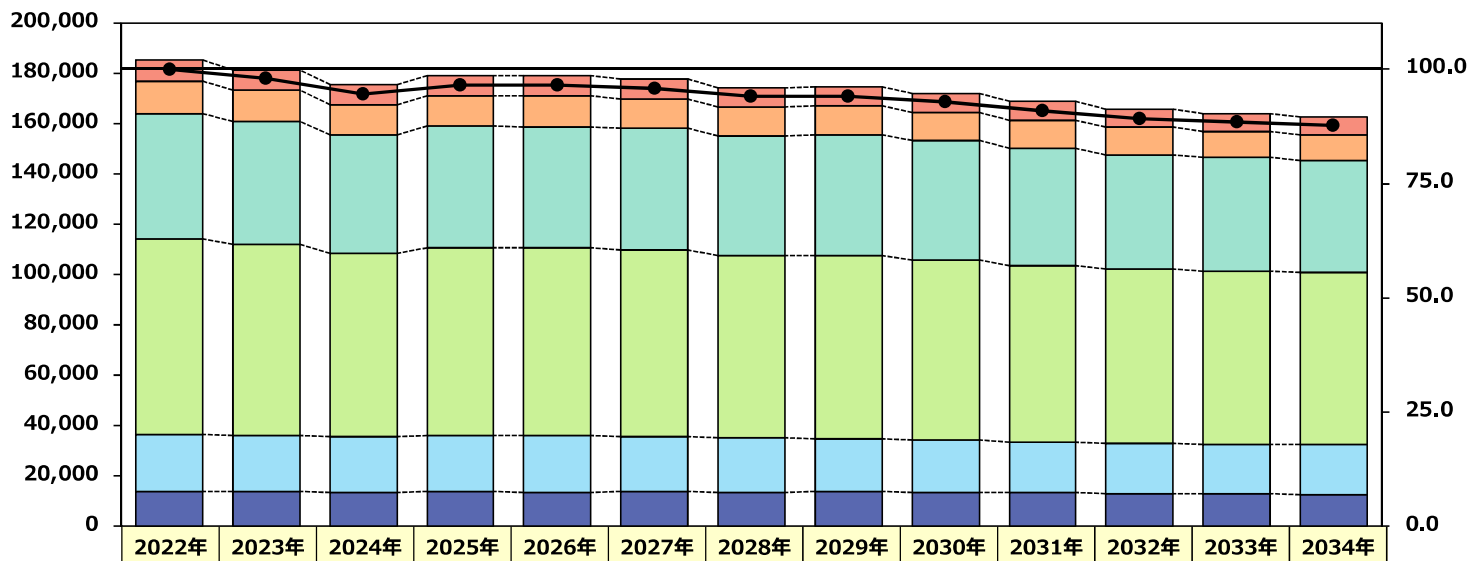
資料15

リクルート進学総研作成
「18歳人口予測」より転載

■ 2022年185,626人→2034年162,668人（22,958人減少）

- ・近畿エリアは22,958人・12.4%減少し、全国の減少率10.3%を2.1ポイント上回る。
- ・2024年に175,609人まで減少し、翌2025年に3,779人増加するがその後再び減少に転じ、2029年に微増するが、2030年以降は減少する。
- ・減少率が高いのは、和歌山県（2022年比較19.1%減少）。
- ・減少数が多いのは、大阪府（2022年77,446人→2034年68,299人、9,147人減少）。

(18歳人口：人) (指数)



		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
近畿	人数	185,626	181,639	175,609	179,388	179,313	178,046	174,431	174,633	172,217	168,955	165,722	164,183	162,668
	指数	100.0	97.9	94.6	96.6	96.6	95.9	94.0	94.1	92.8	91.0	89.3	88.4	87.6
滋賀	人数	14,028	13,783	13,318	13,807	13,725	13,802	13,620	13,758	13,530	13,379	13,215	12,967	12,831
	指数	100.0	98.3	94.9	98.4	97.8	98.4	97.1	98.1	96.4	95.4	94.2	92.4	91.5
京都	人数	22,738	22,376	22,202	22,532	22,277	21,990	21,590	21,090	20,688	20,103	20,071	19,794	19,714
	指数	100.0	98.4	97.6	99.1	98.0	96.7	95.0	92.8	91.0	88.4	88.3	87.1	86.7
大阪	人数	77,446	75,864	72,886	74,476	74,633	73,988	72,628	72,671	71,511	70,418	68,943	68,764	68,299
	指数	100.0	98.0	94.1	96.2	96.4	95.5	93.8	93.8	92.3	90.9	89.0	88.8	88.2
兵庫	人数	49,960	49,121	47,278	48,314	48,387	48,398	47,203	48,293	47,718	46,562	45,618	45,189	44,430
	指数	100.0	98.3	94.6	96.7	96.9	96.9	94.5	96.7	95.5	93.2	91.3	90.5	88.9
奈良	人数	12,847	12,367	12,013	12,318	12,290	11,904	11,703	11,314	11,190	11,116	10,823	10,352	10,428
	指数	100.0	96.3	93.5	95.9	95.7	92.7	91.1	88.1	87.1	86.5	84.2	80.6	81.2
和歌山	人数	8,607	8,128	7,912	7,941	8,001	7,964	7,687	7,507	7,580	7,377	7,052	7,117	6,966
	指数	100.0	94.4	91.9	92.3	93.0	92.5	89.3	87.2	88.1	85.7	81.9	82.7	80.9

		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
全国	人数	1,121,285	1,097,416	1,063,451	1,090,562	1,092,647	1,084,271	1,068,477	1,068,876	1,050,143	1,034,714	1,023,592	1,013,581	1,005,782
	指数	100.0	97.9	94.8	97.3	97.4	96.7	95.3	95.3	93.7	92.3	91.3	90.4	89.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：近畿：2013～2022年）

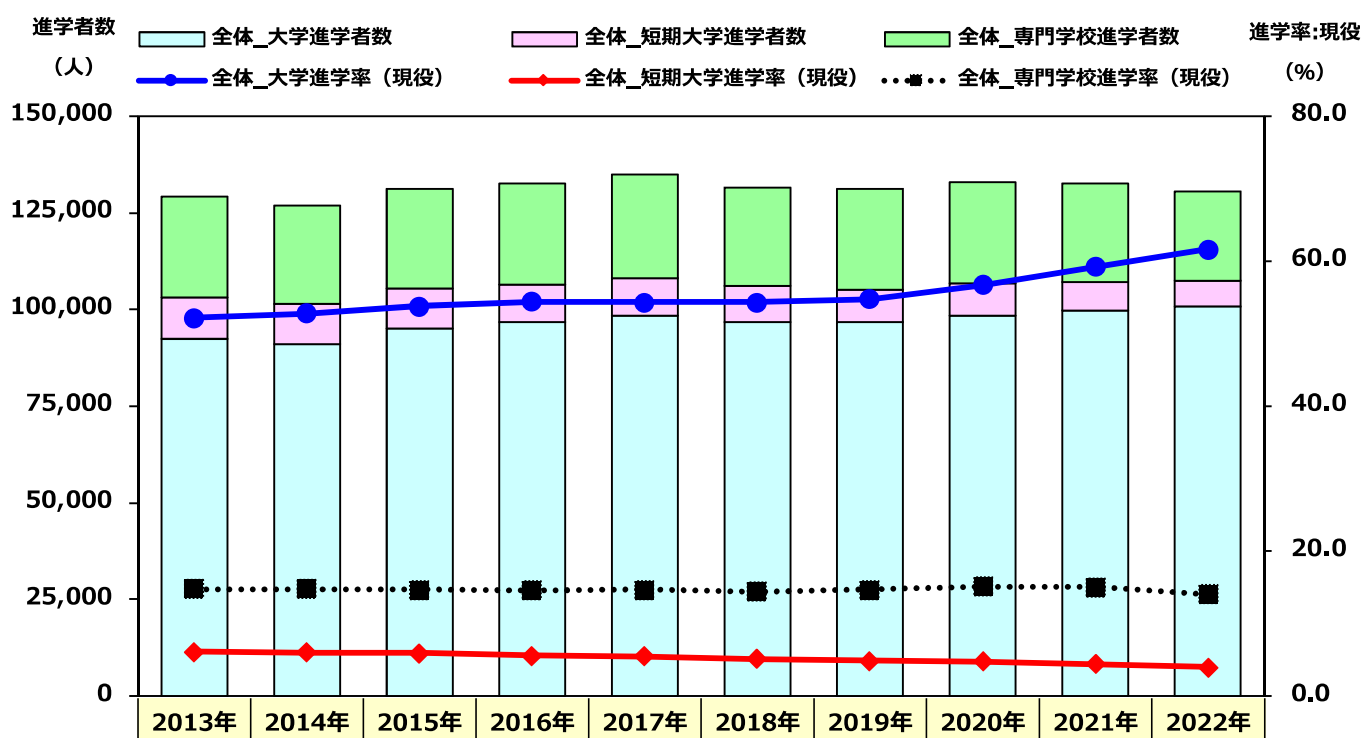
■ 10年で大学進学率が9.4ポイント上昇し、進学者数も8,518人増加する一方、短期大学進学者数は4,328人、専門学校進学者は3,098人減少

進学者数

- ・ 大学は、2013年92,259人→2022年100,777人（8,518人増加）と、9.2%増加。
- ・ 短期大学は、2013年10,843人→2022年6,515人（4,328人減少）と、39.9%減少。
- ・ 専門学校は、2013年26,216人→2022年23,118人（3,098人減少）と、11.8%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2013年52.2%→2022年61.6%（9.4ポイント上昇）。
- ・ 短期大学は、2013年6.1%→2022年4.0%（2.1ポイント低下）。
- ・ 専門学校は、2013年14.8%→2022年14.1%（0.7ポイント低下）。



		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
近畿	卒業生数	176,788	172,279	176,642	177,523	181,010	178,474	176,398	173,375	168,483	163,617	
	進学者数	大学	92,259	90,952	94,972	96,659	98,287	96,866	96,658	98,317	99,736	100,777
		短期大学	10,843	10,374	10,384	9,876	9,906	9,124	8,578	8,382	7,493	6,515
		専門学校	26,216	25,447	25,981	25,920	26,635	25,709	25,895	26,253	25,257	23,118
	進学率 (現役)	大学	52.2	52.8	53.8	54.4	54.3	54.3	54.8	56.7	59.2	61.6
		短期大学	6.1	6.0	5.9	5.6	5.5	5.1	4.9	4.8	4.4	4.0
		専門学校	14.8	14.8	14.7	14.6	14.7	14.4	14.7	15.1	15.0	14.1

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数（全日制・定時制+中等教育学校後期課程）

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数

・ 進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制+中等教育学校後期課程）

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：府県別：2013～2022年）

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
滋賀	卒業者数	12,690	12,082	12,360	12,656	12,884	12,737	12,729	12,786	12,548	12,129	
	進学者数	大学	6,250	5,951	6,011	6,168	6,405	6,170	6,271	6,521	6,565	6,635
		短期大学	887	793	850	787	799	782	697	702	637	574
		専門学校	2,082	1,965	2,049	2,114	2,171	2,137	2,148	2,113	2,187	2,006
	進学率 （現役）	大学	49.3	49.3	48.6	48.7	49.7	48.4	49.3	51.0	52.3	54.7
		短期大学	7.0	6.6	6.9	6.2	6.2	6.1	5.5	5.5	5.1	4.7
専門学校		16.4	16.3	16.6	16.7	16.9	16.8	16.9	16.5	17.4	16.5	
京都	卒業者数	23,240	22,250	22,966	22,813	23,480	23,074	23,240	22,541	22,049	21,821	
	進学者数	大学	13,606	13,178	13,911	13,846	14,256	13,959	14,158	14,155	14,444	14,670
		短期大学	1,382	1,303	1,254	1,231	1,243	1,134	1,044	1,019	868	824
		専門学校	3,350	3,096	3,155	3,128	3,217	3,162	3,106	3,111	3,033	2,884
	進学率 （現役）	大学	58.5	59.2	60.6	60.7	60.7	60.5	60.9	62.8	65.5	67.2
		短期大学	5.9	5.9	5.5	5.4	5.3	4.9	4.5	4.5	3.9	3.8
専門学校		14.4	13.9	13.7	13.7	13.7	13.7	13.4	13.8	13.8	13.2	
大阪	卒業者数	72,621	71,537	73,971	74,542	75,967	75,146	73,952	72,659	70,413	68,114	
	進学者数	大学	37,004	37,040	39,169	40,561	40,882	40,461	40,096	41,060	41,801	42,281
		短期大学	4,799	4,640	4,657	4,385	4,368	4,139	3,886	3,749	3,338	2,930
		専門学校	10,852	10,770	11,155	10,953	11,413	10,987	11,401	11,566	10,913	10,066
	進学率 （現役）	大学	51.0	51.8	53.0	54.4	53.8	53.8	54.2	56.5	59.4	62.1
		短期大学	6.6	6.5	6.3	5.9	5.7	5.5	5.3	5.2	4.7	4.3
専門学校		14.9	15.1	15.1	14.7	15.0	14.6	15.4	15.9	15.5	14.8	
兵庫	卒業者数	46,319	45,473	46,090	46,442	47,411	46,566	46,132	45,077	44,167	42,635	
	進学者数	大学	25,084	24,839	25,625	25,773	26,442	26,118	26,046	26,108	26,567	26,645
		短期大学	2,452	2,326	2,330	2,296	2,267	2,035	1,983	2,012	1,787	1,391
		専門学校	6,553	6,364	6,399	6,418	6,606	6,145	6,198	6,336	6,212	5,480
	進学率 （現役）	大学	54.2	54.6	55.6	55.5	55.8	56.1	56.5	57.9	60.2	62.5
		短期大学	5.3	5.1	5.1	4.9	4.8	4.4	4.3	4.5	4.0	3.3
専門学校		14.1	14.0	13.9	13.8	13.9	13.2	13.4	14.1	14.1	12.9	
奈良	卒業者数	12,585	12,000	12,153	12,166	12,282	12,158	11,630	11,830	11,338	11,102	
	進学者数	大学	6,455	6,107	6,525	6,458	6,483	6,453	6,308	6,508	6,416	6,530
		短期大学	765	777	733	659	696	573	554	534	540	463
		専門学校	1,742	1,658	1,494	1,687	1,726	1,698	1,520	1,604	1,454	1,385
	進学率 （現役）	大学	51.3	50.9	53.7	53.1	52.8	53.1	54.2	55.0	56.6	58.8
		短期大学	6.1	6.5	6.0	5.4	5.7	4.7	4.8	4.5	4.8	4.2
専門学校		13.8	13.8	12.3	13.9	14.1	14.0	13.1	13.6	12.8	12.5	
和歌山	卒業者数	9,333	8,937	9,102	8,904	8,986	8,793	8,715	8,482	7,968	7,816	
	進学者数	大学	3,860	3,837	3,731	3,853	3,819	3,705	3,779	3,965	3,943	4,016
		短期大学	558	535	560	518	533	461	414	366	323	333
		専門学校	1,637	1,594	1,729	1,620	1,502	1,580	1,522	1,523	1,458	1,297
	進学率 （現役）	大学	41.4	42.9	41.0	43.3	42.5	42.1	43.4	46.7	49.5	51.4
		短期大学	6.0	6.0	6.2	5.8	5.9	5.2	4.8	4.3	4.1	4.3
専門学校		17.5	17.8	19.0	18.2	16.7	18.0	17.5	18.0	18.3	16.6	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業者数：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

※専門学校＝専修学校専門課程

競合校の入試動向分析

【資料16】

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	専攻名	入学定員	入試年度	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	入学者数	定員充足率
大阪	私立	大阪人間科学大学	保健医療学部	言語聴覚学科		40	2021	43	39	30	1.08	データなし	データなし
						40	2022	60	52	28	1.50	データなし	データなし
京都	私立	京都光華女子大学	健康科学部	医療福祉学科	言語聴覚専攻	30	2021	71	42	31	2.37	データなし	データなし
						30	2022	62	28	25	2.07	データなし	データなし
兵庫	私立	姫路獨協大学	医療保健学部	言語聴覚療法学科		20	2021	41	41	39	2.05	25	125%
						20	2022	26	26	24	1.30	15	75%
大阪	私立	大和大学	保健医療学部	総合リハビリテーション学科	言語聴覚学専攻	40	2021	258	256	128	6.45	データなし	データなし
						40	2022	377	358	94	9.43	データなし	データなし

注1) 各大学情報については、公式ウェブサイト等により調査しました。

注2) 志願倍率は入学定員に対する志願者数の割合です。

競合校の立地状況



★森ノ宮医療大学

★: 森ノ宮医療大学
(大阪府大阪市)

A: 大阪河崎リハビリテーション大学
(大阪府貝塚市)

B: 大阪人間科学大学
(大阪府摂津市)

C: 関西福祉科学大学
(大阪府柏原市)

D: 京都光華女子大学
(京都府京都市右京区)

E: 京都先端科学大学
(京都府京都市右京区)

F: 姫路獨協大学
(兵庫県姫路市)

G: 大和大学
(大阪府吹田市)

本学より半径
約20km圏内

過去5カ年の本学の入学試験状況

2023年3月1日現在

(志願者数・受験者数・合格者数・競争率・入学者数・定員超過率)

学部	学科	入試年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率(受験者数/合格者数)	入学者数	定員超過率	
看護学部	看護学科	R4	90	1,512	1,453	199	7.30	91	1.01	
		R3	90	1,401	1,342	199	6.74	90	1.00	
		R2	90	1,259	1,198	181	6.62	90	1.00	
		R1	90	1,108	1,071	153	7.00	90	1.00	
		H30	90	1,393	1,344	157	8.56	90	1.00	
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	R4	70	788	757	145	5.22	70	1.00	
		R3	70	757	734	144	5.10	70	1.00	
		R2	70	707	689	112	6.15	70	1.00	
		R1	70	574	560	104	5.38	70	1.00	
		H30	70	712	696	100	6.96	70	1.00	
	作業療法学科	R4	40	428	419	101	4.15	50	1.25	
		R3	40	337	325	93	3.49	45	1.13	
		R2	40	316	304	59	5.15	52	1.30	
		R1	40	215	206	77	2.68	50	1.25	
		H30	40	305	300	71	4.23	53	1.33	
医療技術学部	臨床検査学科	R4	70	909	867	145	5.98	75	1.07	
		R3	70	580	554	162	3.42	72	1.03	
		R2	70	607	588	126	4.67	72	1.03	
		R1	60	558	536	119	4.50	72	1.20	
		H30	60	490	483	129	3.74	72	1.20	
	臨床工学科	R4	60	550	535	135	3.96	73	1.22	
		R3	60	515	492	145	3.39	71	1.18	
		R2	60	322	305	110	2.77	66	1.10	
		R1	60	217	208	96	2.17	71	1.18	
		H30	60	252	248	100	2.48	70	1.17	
	診療放射線学科	R4	80	1,240	1,193	160	7.46	90	1.13	
		R3	80	1,038	989	172	5.75	93	1.16	
		R2	80	1,021	983	146	6.73	90	1.13	
		R1								—
		H30								—
	鍼灸学科	R4	60	260	255	97	2.63	70	1.17	
		R3	60	190	187	107	1.75	59	0.98	
		R2	60	219	215	90	2.39	69	1.15	
		R1	60	151	150	97	1.55	68	1.13	
		H30	60	152	149	108	1.38	70	1.17	
全学部合計	R4	470	5,687	5,479	982	5.58	519	1.10		
	R3	470	4,818	4,623	1,022	4.52	500	1.06		
	R2	470	4,451	4,282	824	5.20	509	1.08		
	R1	380	2,823	2,731	646	4.23	421	1.11		
	H30	380	3,304	3,220	665	4.84	425	1.12		

※学部再編に伴い保健医療学部看護学科は令和4年4月より募集停止し、令和4年4月より看護学部看護学科を設置

※学部再編に伴い保健医療学部理学療法学科および作業療法学科は令和4年4月より募集停止し、令和4年4月より総合リハビリテーション学部理学療法学科および作業療法学科を設置

※令和4年4月より保健医療学部を医療技術学部へ名称変更

令和4（2022）年度入試志願者数比較（関西地区）

【資料19】

関西エリアの医療系大学の志願者数 ※医療分野のみを有する大学（医科大学除く）

大学名	志願者数
森ノ宮医療大学（指定校除くと5612名）	5,687
兵庫医科大学（旧・兵庫医療大学）※1	3,187
大阪医科薬科大学（旧・大阪医科大学）※1	2,957
神戸薬科大学	2,203
京都薬科大学	1,991
藍野大学	1,758
関西医療大学	1,270
明治国際医療大学	519
東京医療保健大学 和歌山看護学部	424
京都看護大学	405
四條畷学園大学	399
神戸市看護大学	386
京都医療科学大学	364
宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 ※2	311
大阪保健医療大学	265
宝塚大学	262
大阪河崎リハビリテーション大学	232
宝塚医療大学 ※2	206
大阪物療大学	150
天理医療大学（2023年度より天理大学と統合）	非公開
関西看護医療大学	非公開
大阪行岡医療大学	非公開

注）他大学の志願者数はパスナビ（旺文社）データ参照

※1 大学統合により、医療分野のみを有する大学ではなくなったが、便宜上医学部を除いた人数を示す。

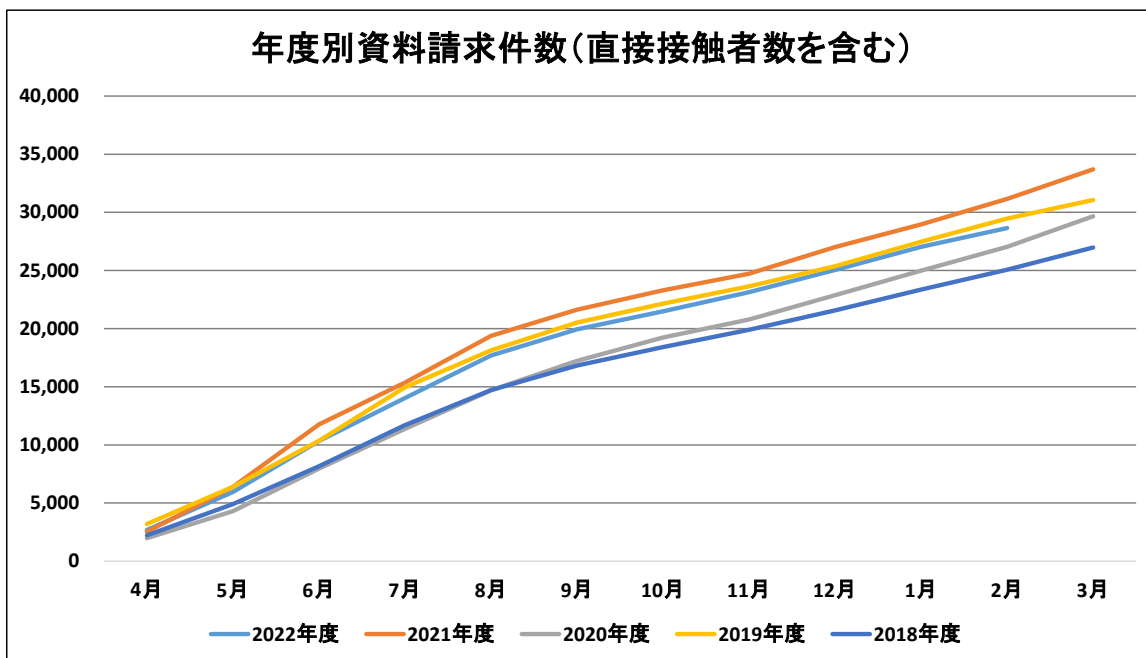
※2 志願者数非公開のため、受験生数で示す。

森ノ宮医療大学 年度別資料請求数(直接接触者数を含む)

【資料20】

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別累積請求数 (件)	2022年度	2,682	5,957	10,324	14,025	17,693	19,942	21,484	23,125	25,034	27,031	28,649	△	25,056
	2021年度	2,528	6,392	11,766	15,350	19,383	21,633	23,295	24,721	27,015	28,967	31,162	33,700	33,700
	2020年度	1,978	4,311	7,954	11,382	14,695	17,218	19,244	20,784	22,874	24,990	27,025	29,665	29,665
	2019年度	3,198	6,399	10,356	14,953	18,131	20,515	22,158	23,627	25,361	27,476	29,458	31,060	31,060
	2018年度	2,223	4,902	8,161	11,709	14,715	16,830	18,420	19,891	21,571	23,352	25,067	26,977	26,977

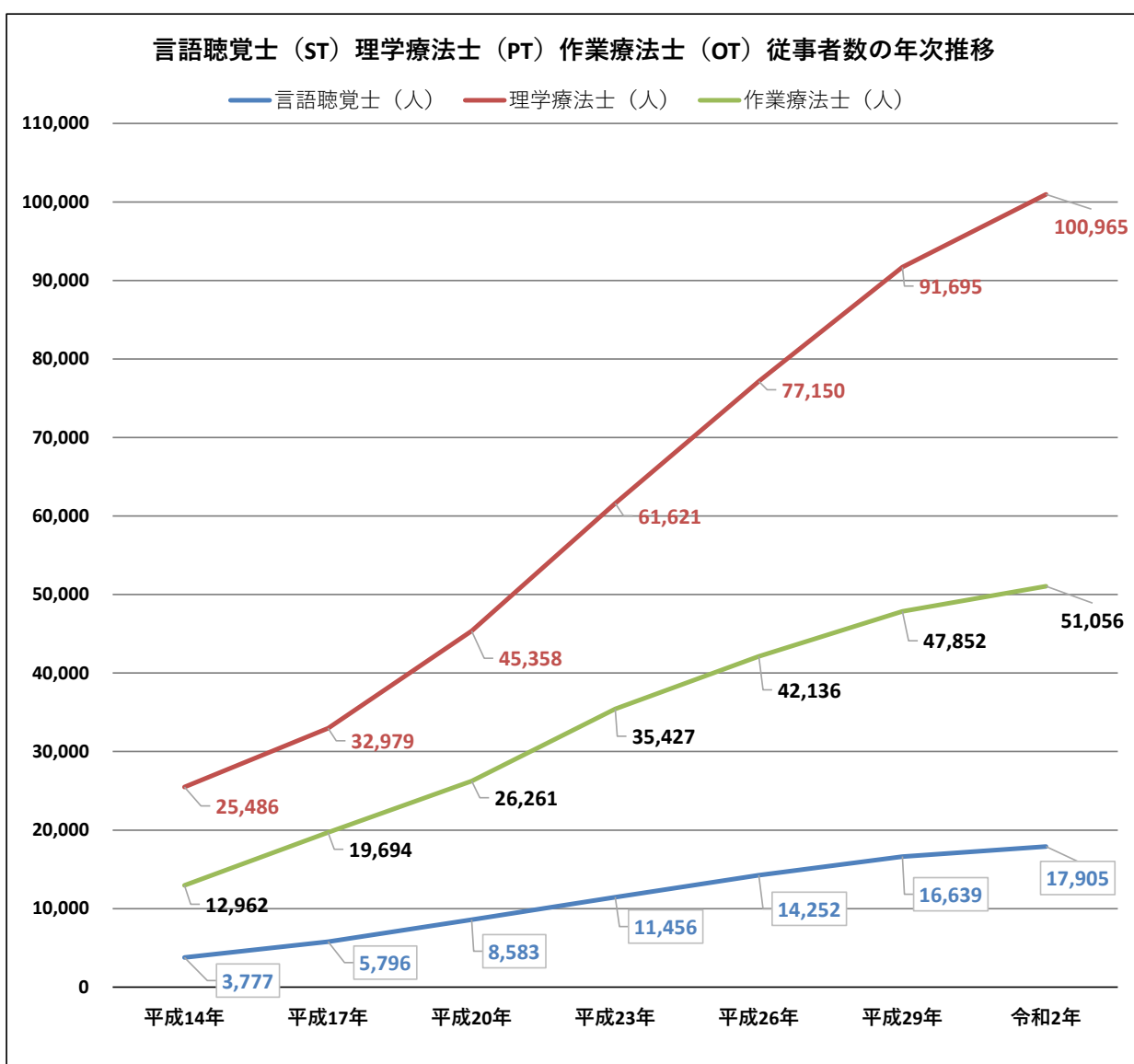
※2022年度の数字は、2023年2月27日時点のもの



言語聴覚士・理学療法士・作業療法士従事者数の年次推移（病院・診療所）

職種別にみた施設の従事者数（病院・一般診療所）

白書年次	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年
資料時点	H14.10.1	H17.10.1	H20.10.1	H23.10.1	H26.10.1	H29.10.1	R.2.10.1
西暦	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年	2020年
言語聴覚士（人）	3,777	5,796	8,583	11,456	14,252	16,639	17,905
理学療法士（人）	25,486	32,979	45,358	61,621	77,150	91,695	100,965
作業療法士（人）	12,962	19,694	26,261	35,427	42,136	47,852	51,056

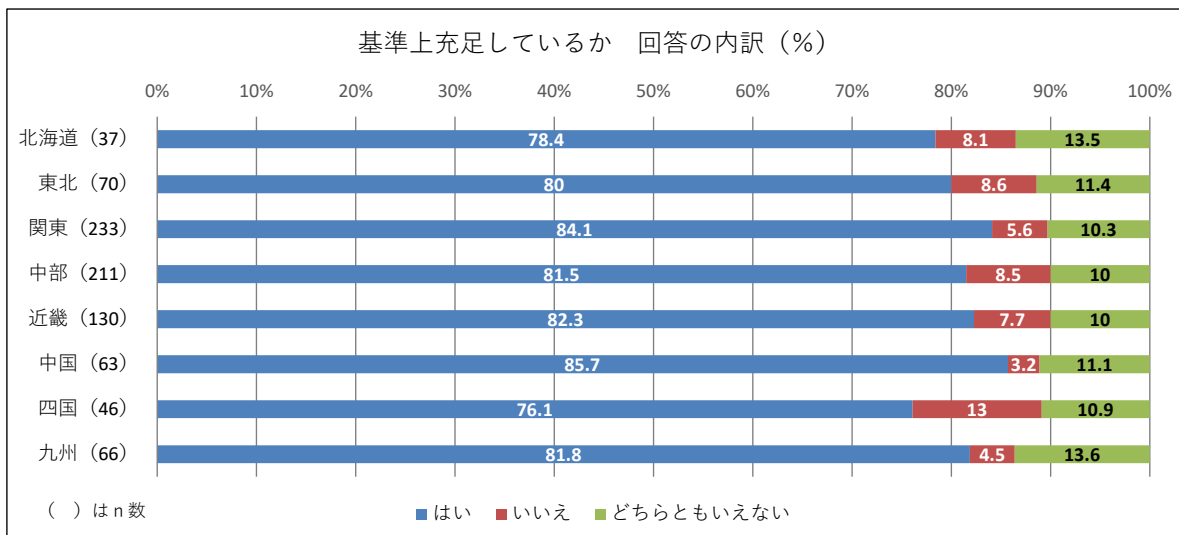


厚生労働統計調査 2.保健衛生 2.1.医療（施設）「医療施設調査」（平成14年～令和2年）

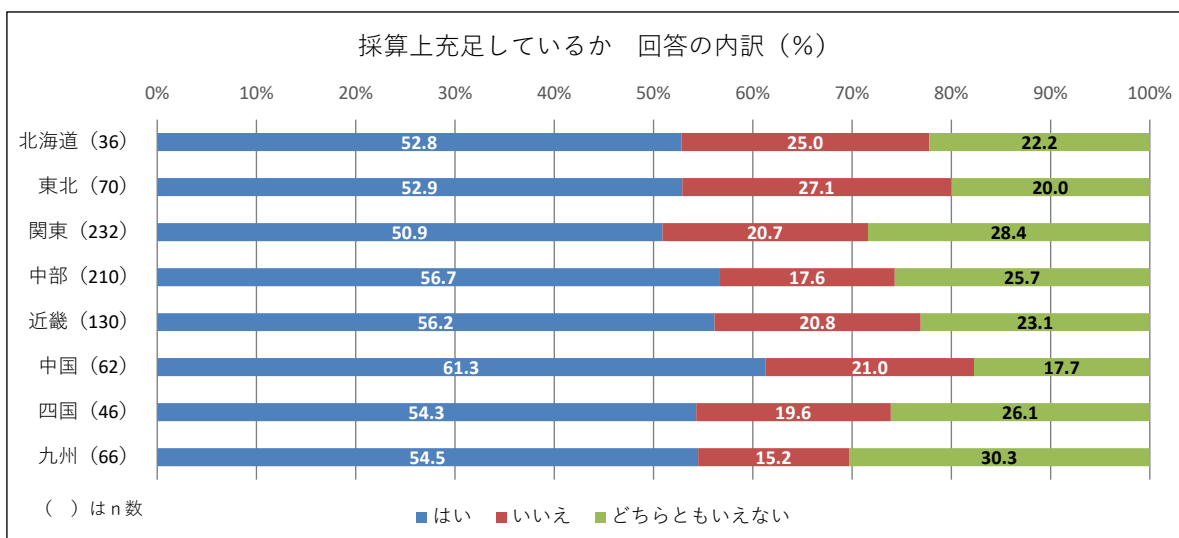
病院に勤務する言語聴覚士数の充足

「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会 平成28年5月～6月実施）より

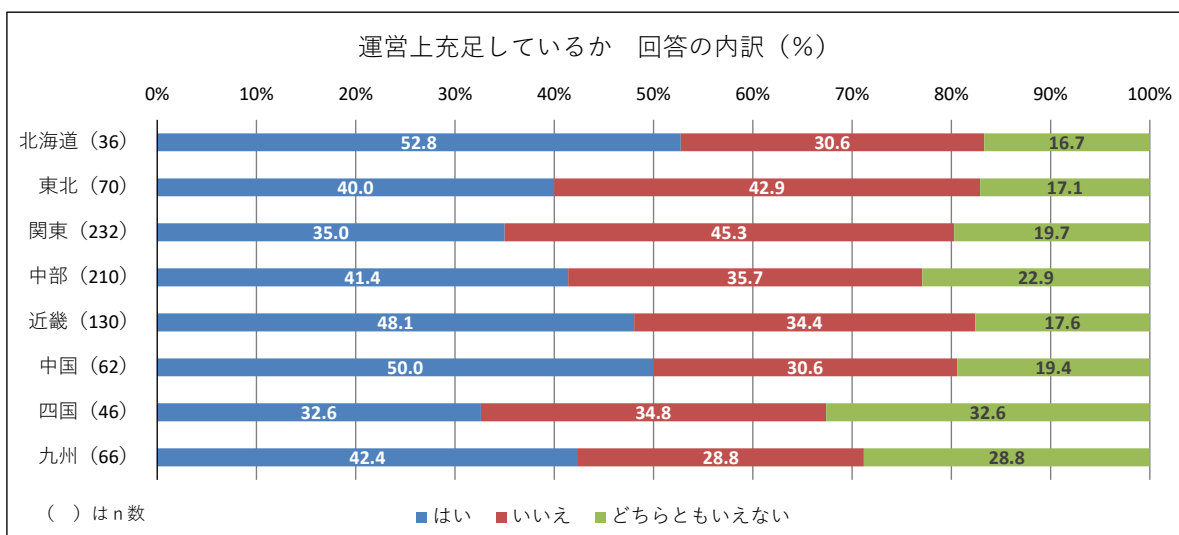
問：現在、貴院において数は充足していますか。（基準上、採算上、運営上 について回答）



→ すべての地域の施設で、基準上はほぼ充足していると回答する率が高い



→ 採算上（経営上必要な人員数）充足していると回答した割合は、基準上の充足に比べると減少している

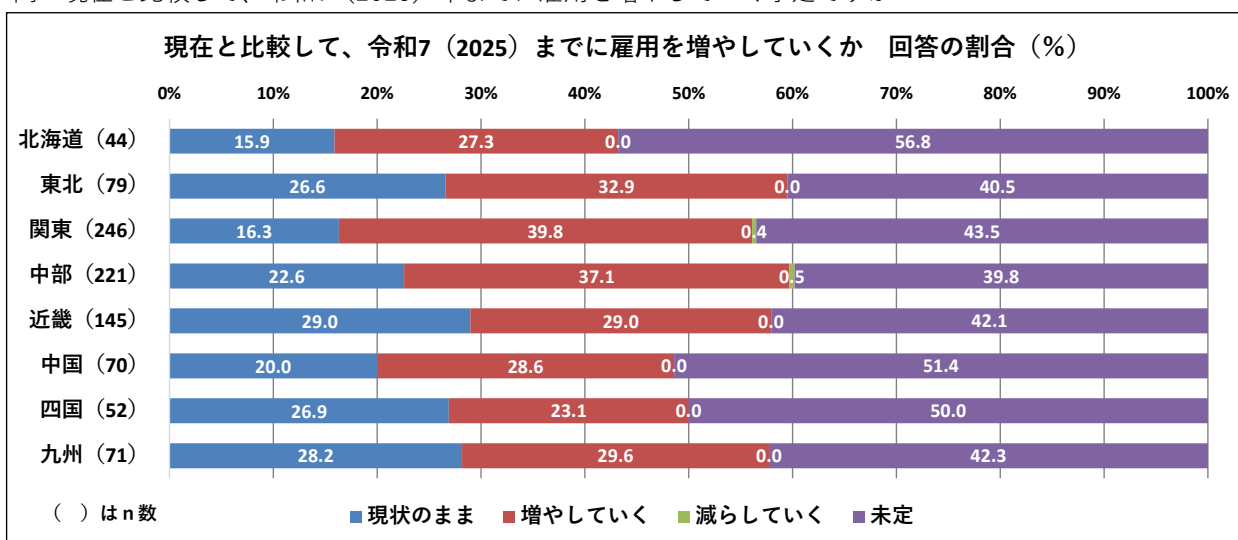


→ 運営上（患者の状況に応じた必要な人員）では、充足していないと回答した割合が増加している

言語聴覚士雇用の意向と現状

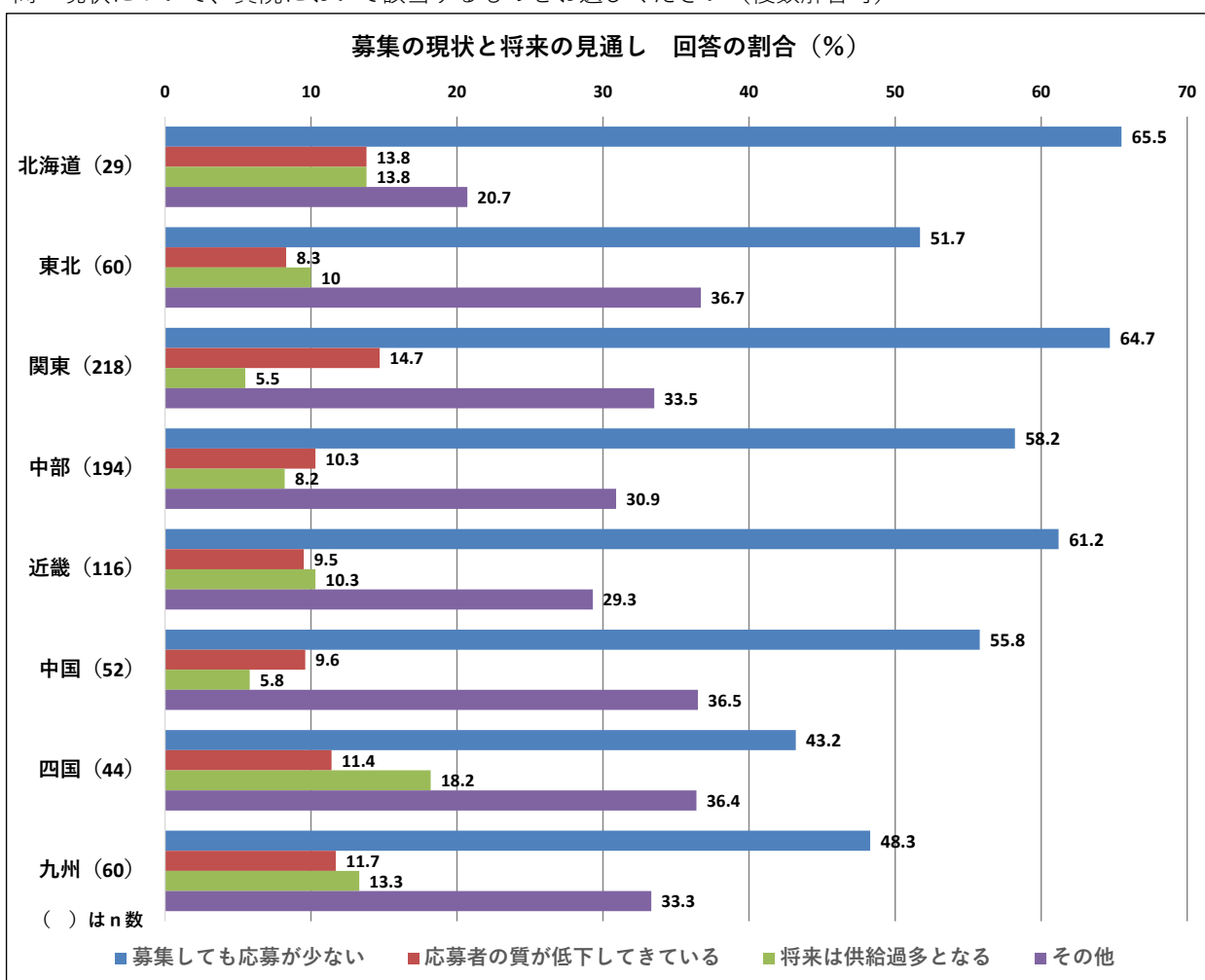
「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会 平成28年5月～6月実施）より

問：現在と比較して、令和7（2025）年までに雇用を増やしていく予定ですか



→ 北海道（56.8％）、中国（51.4％）、四国（50.0％）の未定の割合が高かった。

問：現状について、貴院において該当するものをお選びください（複数解答可）

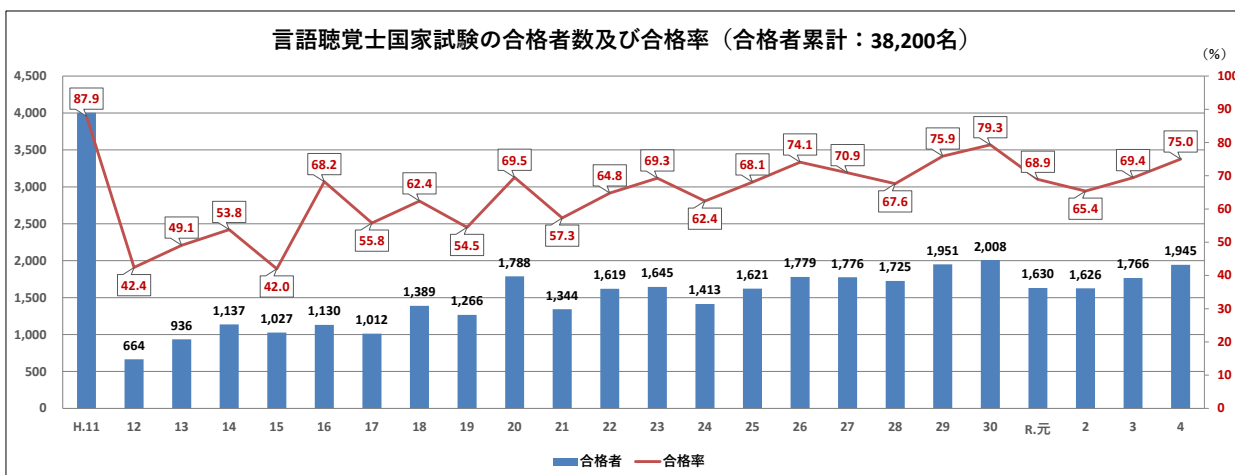


→ 四国、九州を除き「募集しても応募が少ない」との回答の割合が高かった。

言語聴覚士の就業状況と勤務先_一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会員動向 (令和4年4月1日現在) より

言語聴覚士国家試験の合格者数及び合格率

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
合格者	4,003	664	936	1,137	1,027	1,130	1,012	1,389	1,266	1,788	1,344	1,619	1,645	1,413	1,621	1,779	1,776	1,725	1,951	2,008	1,630	1,626	1,766	1,945
合格率	88	42	49	54	42	68	56	62	55	70	57	65	69	62	68	74	71	68	76	79	69	65	69	75

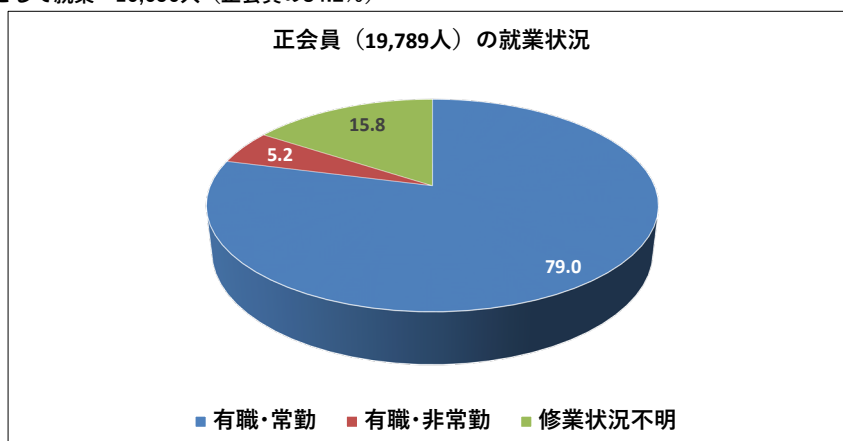


合格者累計：38,200人

日本言語聴覚士協会会員数：19,789人 (有資格者38,200人の51.8%)

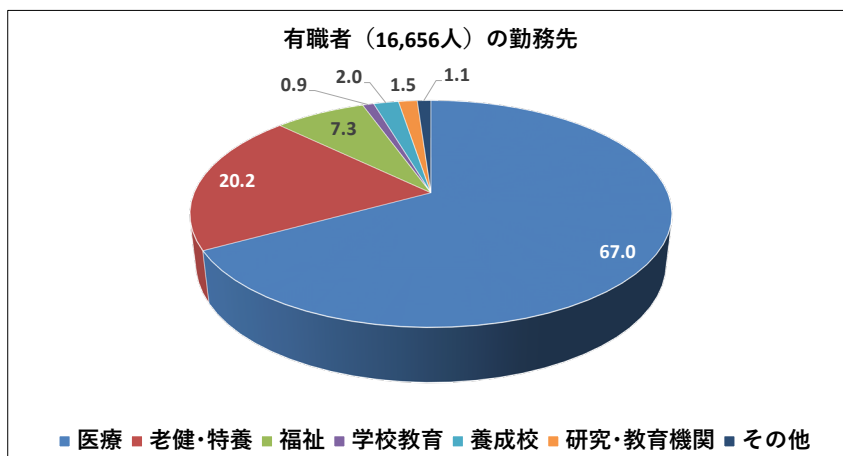
正会員19,789人の就業状況：言語聴覚士として就業 16,656人 (正会員の84.2%)

就業状況	%
有職・常勤	79.0
有職・非常勤	5.2
修業状況不明	15.8



有職者16,656人の勤務先

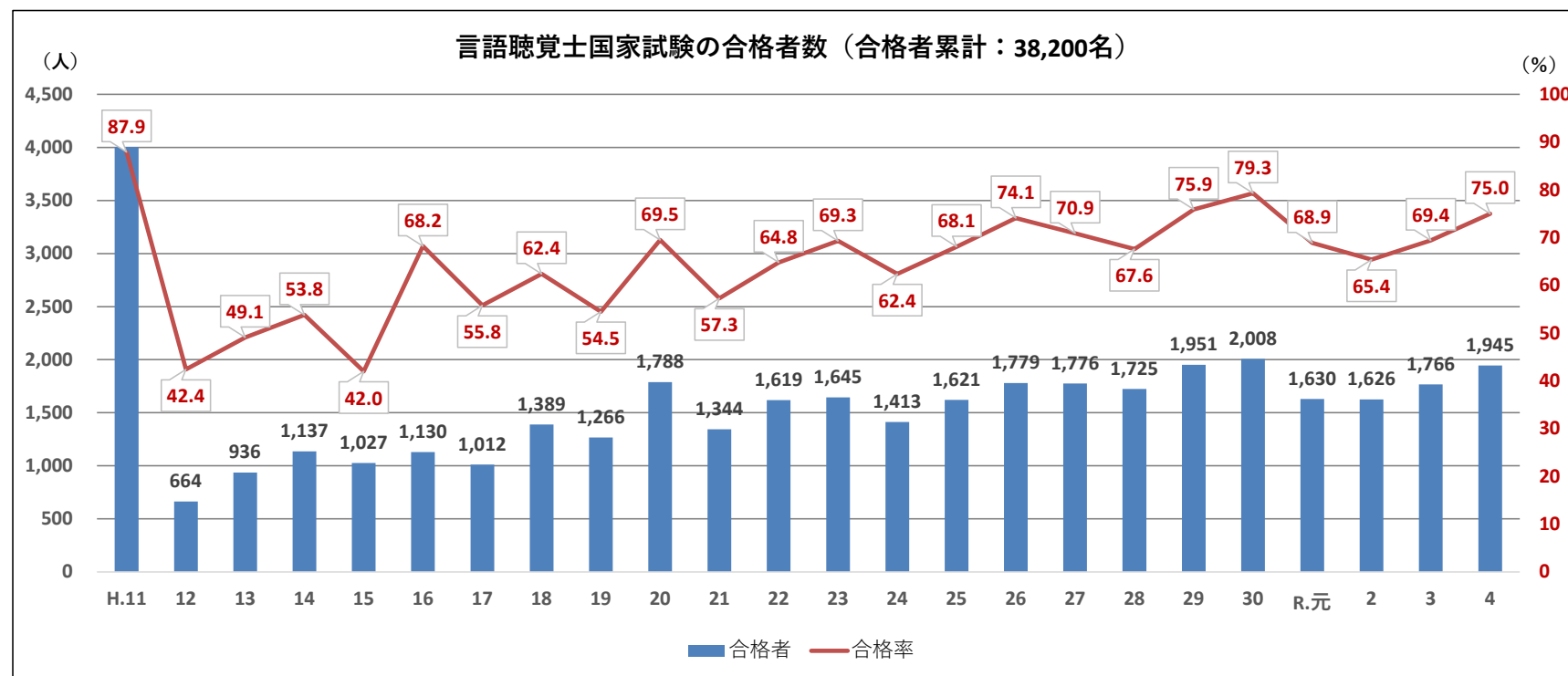
勤務先	%
医療	67.0
老健・特養	20.2
福祉	7.3
学校教育	0.9
養成校	2.0
研究・教育機関	1.5
その他	1.1



言語聴覚士国家試験の合格者数

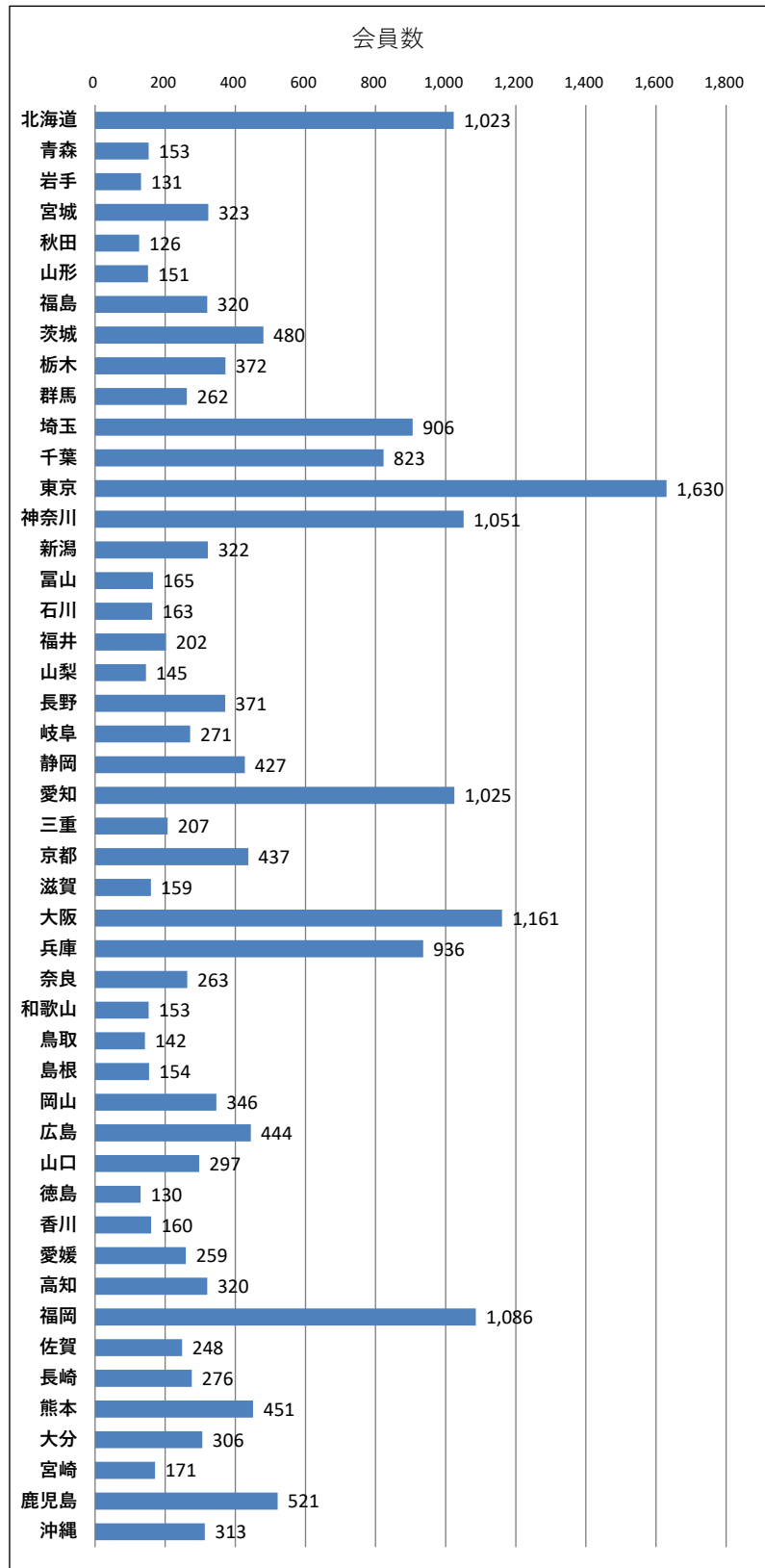
【資料25】

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	H.11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R.元	2	3	4
合格者	4,003	664	936	1,137	1,027	1,130	1,012	1,389	1,266	1,788	1,344	1,619	1,645	1,413	1,621	1,779	1,776	1,725	1,951	2,008	1,630	1,626	1,766	1,945
合格率	87.9	42.4	49.1	53.8	42.0	68.2	55.8	62.4	54.5	69.5	57.3	64.8	69.3	62.4	68.1	74.1	70.9	67.6	75.9	79.3	68.9	65.4	69.4	75.0



一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会員動向 (令和4年4月1日現在)

都道府県	会員数
北海道	1,023
青森	153
岩手	131
宮城	323
秋田	126
山形	151
福島	320
茨城	480
栃木	372
群馬	262
埼玉	906
千葉	823
東京	1,630
神奈川	1,051
新潟	322
富山	165
石川	163
福井	202
山梨	145
長野	371
岐阜	271
静岡	427
愛知	1,025
三重	207
京都	437
滋賀	159
大阪	1,161
兵庫	936
奈良	263
和歌山	153
鳥取	142
島根	154
岡山	346
広島	444
山口	297
徳島	130
香川	160
愛媛	259
高知	320
福岡	1,086
佐賀	248
長崎	276
熊本	451
大分	306
宮崎	171
鹿児島	521
沖縄	313
合計	19,782



一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会員動向（令和4年4月1日現在）

【資料28】

森ノ宮医療大学 就職の状況（過去3年間）

学部	学科	令和元（2019）年度					令和2（2020）年度					令和3（2021）年度				
		卒業者数 （人）	就職 希望者数	就職者 数	就職率 （％）	求人社数	卒業者数 （人）	就職 希望者数	就職者 数	就職率 （％）	求人社数	卒業者数 （人）	就職 希望者数	就職者 数	就職率 （％）	求人社数
保健医療学部	看護学科	82	75	75	100	587	76	70	70	100	683	84	78	77	99	927
	理学療法学科	62	62	60	96	904	65	65	56	86	1,068	62	62	60	97	1,264
	作業療法学科	40	40	38	95	843	38	38	37	97	1,044	45	45	44	98	1,161
	鍼灸学科	56	53	43	81	345	57	55	43	78	372	55	53	41	77	365
	臨床検査学科	69	68	35	51	248	65	63	41	65	285	67	65	41	63	427
	臨床工学科					108					138	63	60	44	73	277
	診療放射線学科										85					121
保健医療学部計		309	298	251	84	3,035	301	291	247	85	3,675	376	363	307	85	4,542
合 計		309	298	251	84	3,035	301	291	247	85	3,675	376	363	307	85	4,542

※看護学部および総合リハビリテーション学部は令和4年に設置したため卒業生はまだ出ていない

2022年度 就職先へのアンケート調査結果

【I, 調査の概要】

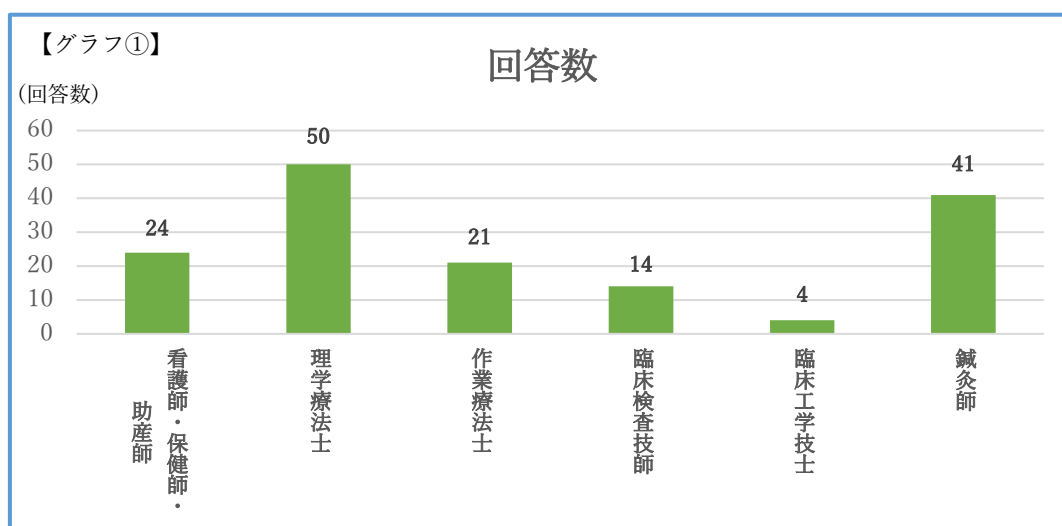
1. **調査対象** 森ノ宮医療大学卒業生の就業先全て（620 施設）
2. **調査期間および方法**
2022年12月13日～2023年1月16日まで。卒業生就業先に対し、郵送にて調査への協力依頼をした上で、Microsoft のサービスを利用しインターネット上で回答いただいた。
3. **職種ごとの回答率**
看護師・保健師・助産師 15.6% 理学療法士 32.5% 作業療法士 13.6%
臨床検査技師 9.1% 臨床工学技士 2.6% 鍼灸師 26.6%

【II, 結果】

1. 就業先の情報

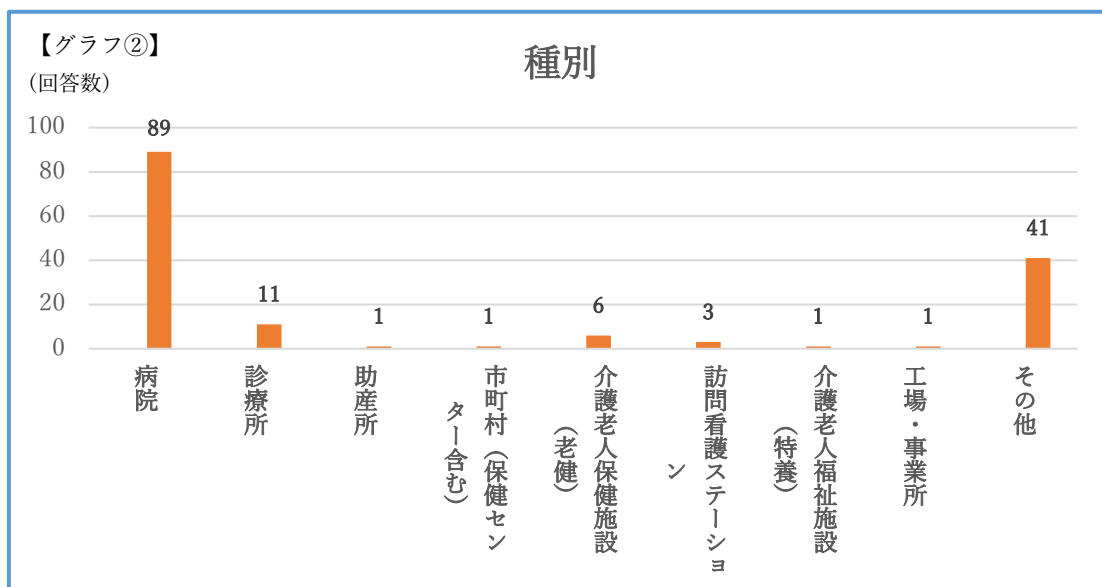
1) 回答総数について

全職種に対する回答総数をグラフ①に示した。理学療法士からの回答が最も多かった。



2) 種別について

全回答施設の種別をグラフ②に示した。「病院」から回答が最も多く、次点が「その他」であった。その他では、「検査センター」や「SMO(治験)」、「美容サロン」等の回答があった。



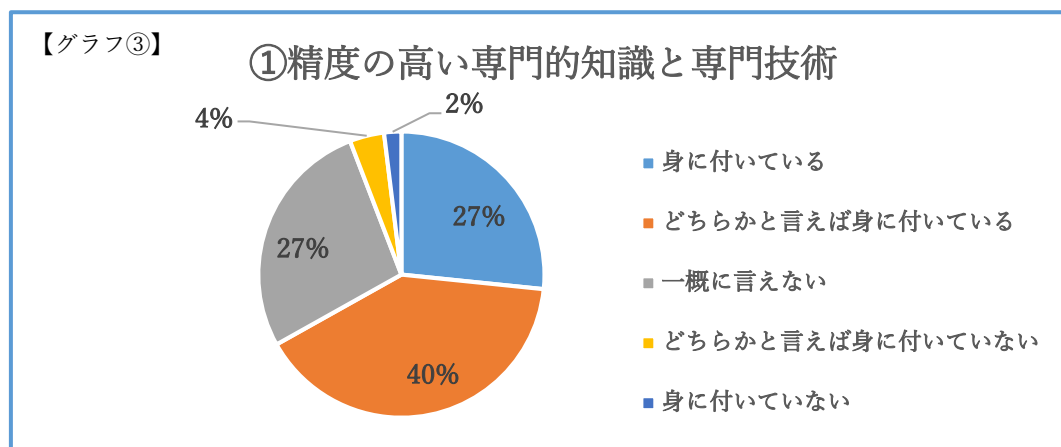
2. 本学の学位授与方針（ディプロマポリシー）について

本学の学位授与方針（ディプロマポリシー）に相応しい能力が身に付いているかについて、全回答の集計を項目ごとにグラフに示した。（グラフ③・④・⑤・⑥）

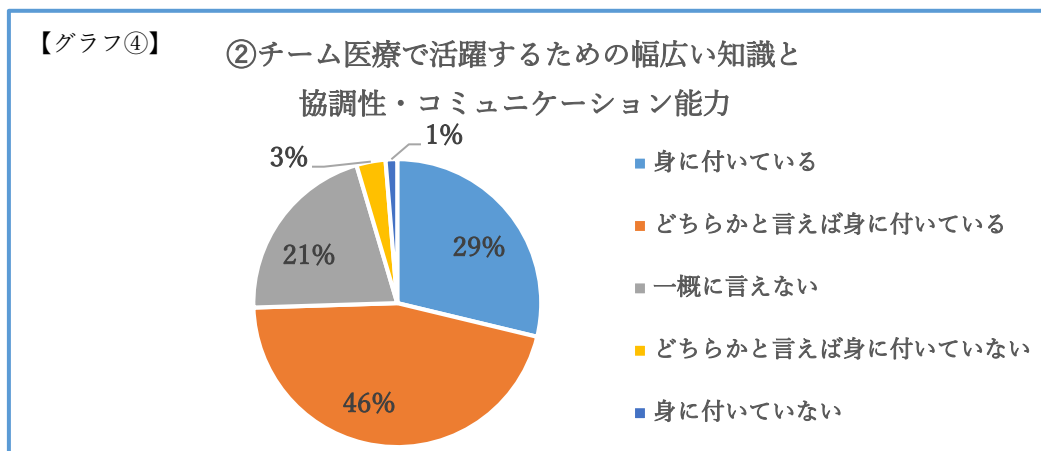
各項目とも「身に付いている」もしくは「どちらかと言えば身に付いている」の割合が過半数を占めた。

一方で「④主体的問題解決能力」については、35%が「一概に言えない」と回答しており、大学としての課題が示された。

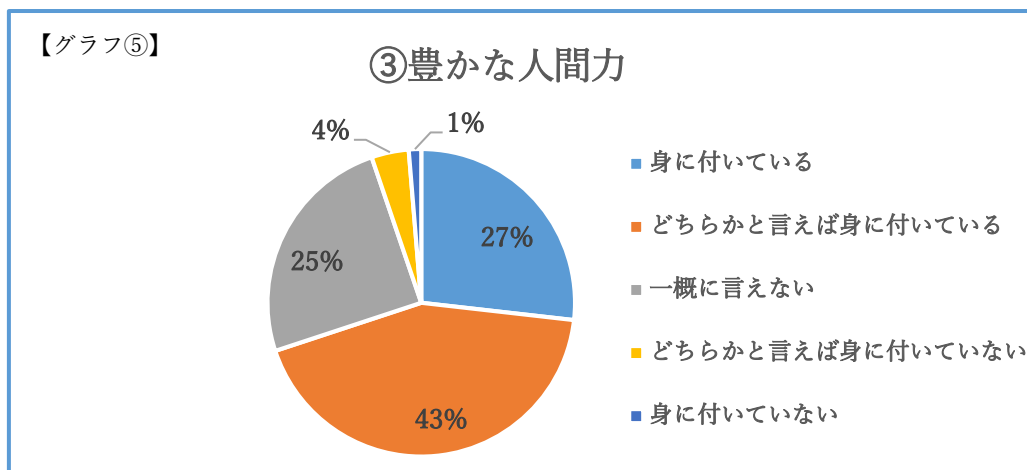
①精度の高い専門的知識と専門技術



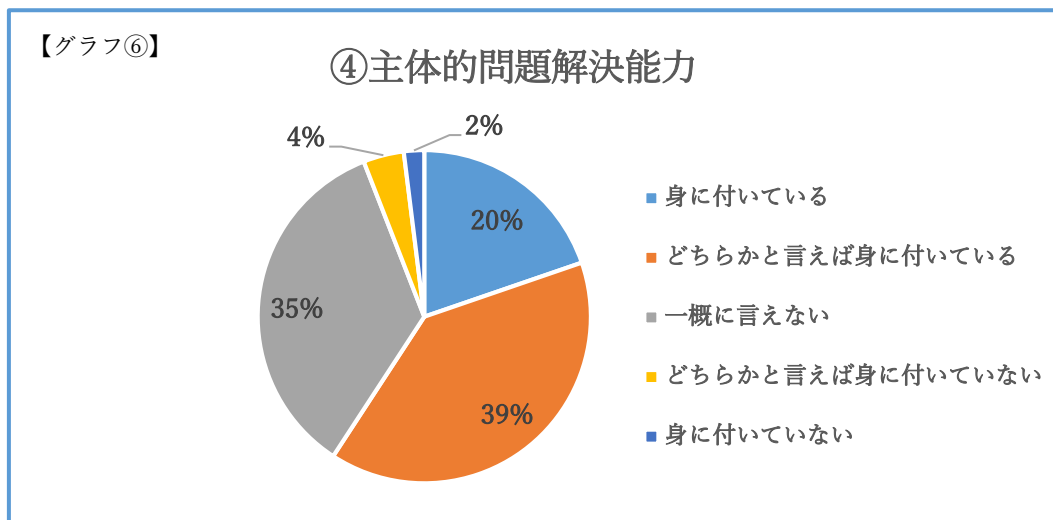
②チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力



③豊かな人間力



④主体的問題解決能力

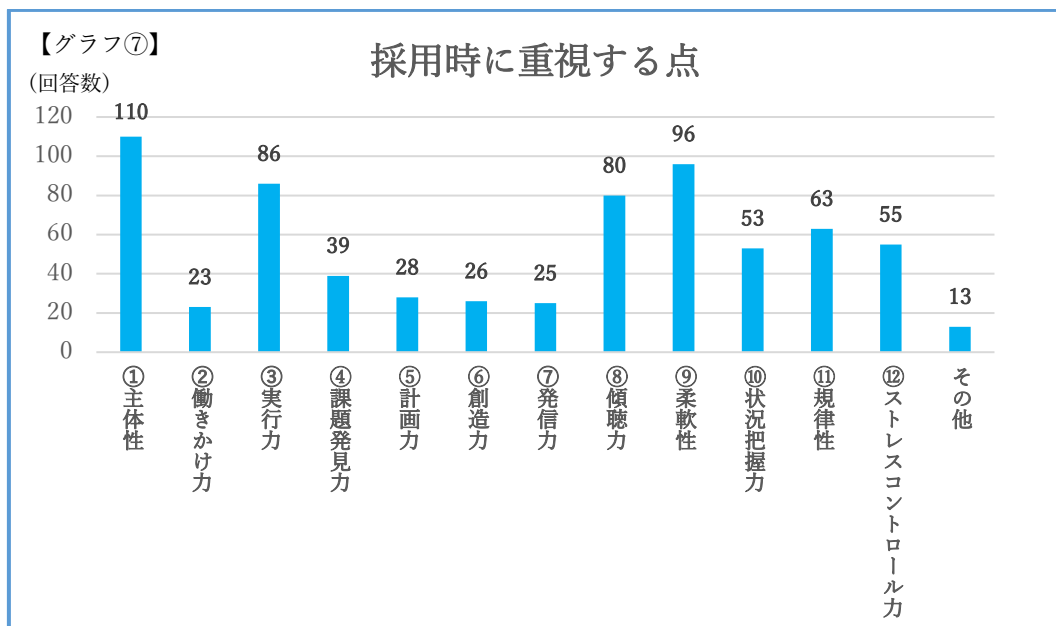


3. 採用について

1) 採用時に重視する点について

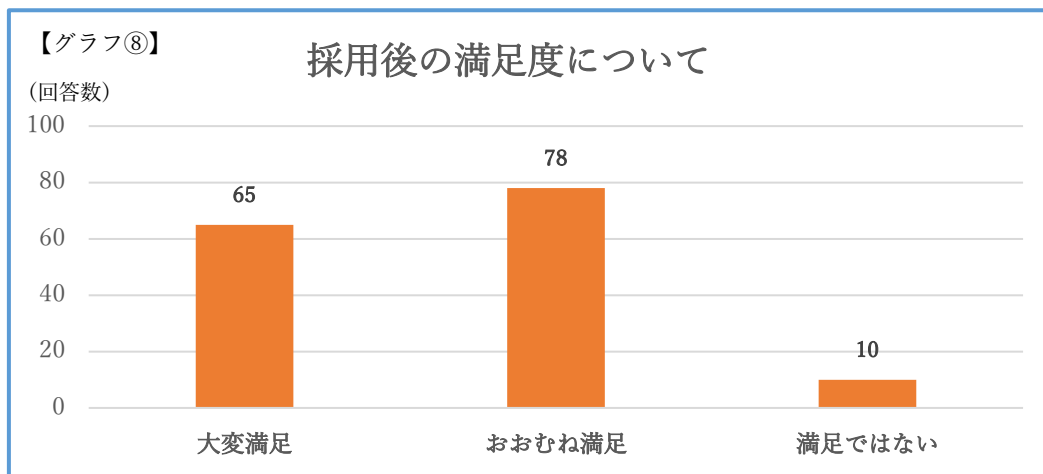
採用選考時に重視する点をグラフ⑦に示した。(複数回答：1施設5つまで)

「主体性」を挙げた施設が最も多く、次点は「柔軟性」であった。また、その他には「素直さ」や「人間力」等の回答があった。



2) 採用後の満足度について

採用後の満足度をグラフ⑧に示した。「大変満足」もしくは「おおむね満足」の割合が約93%であった。「満足ではない」と回答した施設の意見には、「主体性、計画力がない」や「技術・知識の習得が遅いため」等があった。



以上

【資料30】

近隣の他大学 言語聴覚学科 求人の状況

大学名	定員	2021年度 求人数	学生1名あたりの 求人数 (求人倍率)
大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻	40	687	17.2
姫路獨協大学 医療保健学部 言語聴覚療法学科	20	-	※ 43.4
京都光華女子大学 健康科学部医療福祉学科 言語聴覚専攻	30	518	17.3

※姫路獨協大学は求人倍率のみ公表

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部
言語聴覚学科（仮称）の卒業生に対する
病院・医療系企業等の採用意向に関する
アンケート調査報告

令和4年12月

一般財団法人 日本開発構想研究所

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の卒業生に対する病院・医療系企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和6年4月に予定している森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の開設に向けて、森ノ宮医療大学卒業生の採用実績のある病院・医療系企業等、または卒業生の就職が見込まれる病院・医療系企業等の採用担当者にアンケートを実施し、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の卒業生に対する病院・医療系企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

森ノ宮医療大学卒業生の採用実績のある病院・医療系企業等、または卒業生の就職が見込まれる28都府県（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県）に所在する病院・医療系企業等2,253施設の採用担当者にアンケートへの協力を依頼した。

(3) 調査方法

森ノ宮医療大学卒業生の採用実績のある病院・医療系企業等、または卒業生の就職が見込まれる病院・医療系企業等2,253施設の採用担当者にアンケート用紙及び森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の概要を示したリーフレットを郵送し、アンケートを実施した。回答は病院・医療系企業等から一般財団法人日本開発構想研究所へ直接郵送し、645件の有効回答を得た。

集計結果より、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和4年10月～令和4年12月

(5) 有効回収率等

調査対象数：2,253件

有効回答数：645件

有効回収率：約28.6%（有効回答645件÷調査対象2,253件）

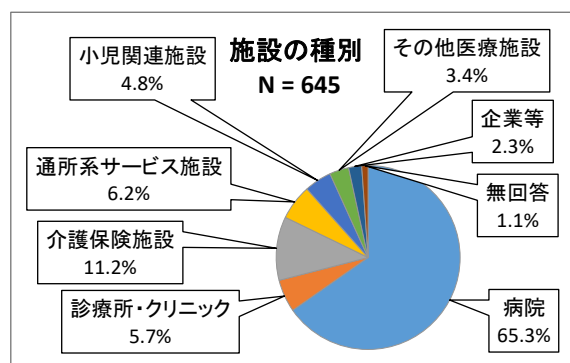
※森ノ宮医療大学において設置を構想している総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 施設の種別について

施設の種別について調査した結果、回答のあった施設 645 件のうち、「病院」が 421 件 (65.3%) と最も多く、次いで「介護保険施設」72 件 (11.2%)、「通所系サービス施設」40 件 (6.2%)、「診療所・クリニック」37 件 (5.7%)、「小児関連施設」31 件 (4.8%)、「その他医療施設」22 件 (3.4%)、「企業等」15 件 (2.3%) の順になっている。 ※「無回答」7件 (1.1%)

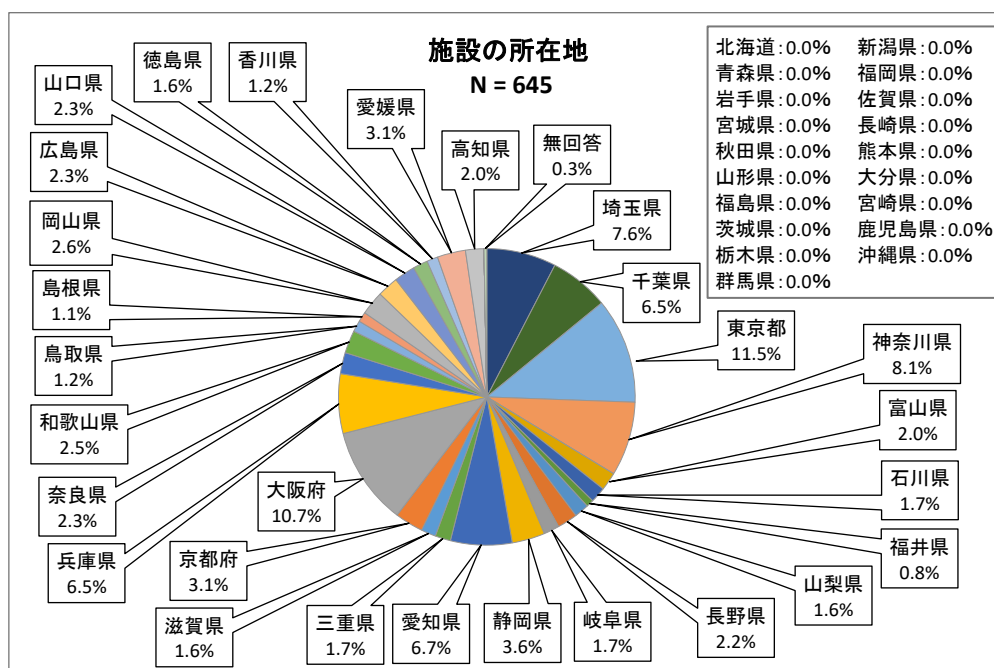
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院	421	65.3
2	診療所・クリニック	37	5.7
3	介護保険施設	72	11.2
4	通所系サービス施設	40	6.2
5	小児関連施設	31	4.8
6	その他医療施設	22	3.4
7	企業等	15	2.3
	無回答	7	1.1
	N (%ベース)	645	100



(2) 施設の所在地について

施設の所在地について調査した結果、回答のあった施設 645 件のうち、10 件以上の回答を得られたものを挙げると、「東京都」が 74 件 (11.5%) と最も多く、次いで「大阪府」69 件 (10.7%)、「神奈川県」52 件 (8.1%)、「埼玉県」49 件 (7.6%)、「愛知県」43 件 (6.7%)、「千葉県」42 件 (6.5%)、「兵庫県」42 件 (6.5%)、「静岡県」23 件 (3.6%)、「京都府」20 件 (3.1%)、「愛媛県」20 件 (3.1%)、「岡山県」17 件 (2.6%)、「和歌山県」16 件 (2.5%)、「奈良県」15 件 (2.3%)、「広島県」15 件 (2.3%)、「山口県」15 件 (2.3%)、「長野県」14 件 (2.2%)、「富山県」13 件 (2.0%)、「高知県」13 件 (2.0%)、「石川県」11 件 (1.7%)、「岐阜県」11 件 (1.7%)、「三重県」11 件 (1.7%)、「山梨県」10 件 (1.6%)、「滋賀県」10 件 (1.6%)、「徳島県」10 件 (1.6%) の順になっている。 ※「無回答」2 件 (0.3%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	No.	カテゴリ	件数	(全体)%	No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	北海道	0	0.0	18	福井県	5	0.8	34	広島県	15	2.3
2	青森県	0	0.0	19	山梨県	10	1.6	35	山口県	15	2.3
3	岩手県	0	0.0	20	長野県	14	2.2	36	徳島県	10	1.6
4	宮城県	0	0.0	21	岐阜県	11	1.7	37	香川県	8	1.2
5	秋田県	0	0.0	22	静岡県	23	3.6	38	愛媛県	20	3.1
6	山形県	0	0.0	23	愛知県	43	6.7	39	高知県	13	2.0
7	福島県	0	0.0	24	三重県	11	1.7	40	福岡県	0	0.0
8	茨城県	0	0.0	25	滋賀県	10	1.6	41	佐賀県	0	0.0
9	栃木県	0	0.0	26	京都府	20	3.1	42	長崎県	0	0.0
10	群馬県	0	0.0	27	大阪府	69	10.7	43	熊本県	0	0.0
11	埼玉県	49	7.6	28	兵庫県	42	6.5	44	大分県	0	0.0
12	千葉県	42	6.5	29	奈良県	15	2.3	45	宮崎県	0	0.0
13	東京都	74	11.5	30	和歌山県	16	2.5	46	鹿児島県	0	0.0
14	神奈川県	52	8.1	31	鳥取県	8	1.2	47	沖縄県	0	0.0
15	新潟県	0	0.0	32	島根県	7	1.1		無回答	2	0.3
16	富山県	13	2.0	33	岡山県	17	2.6		N (%^-)	645	100
17	石川県	11	1.7								



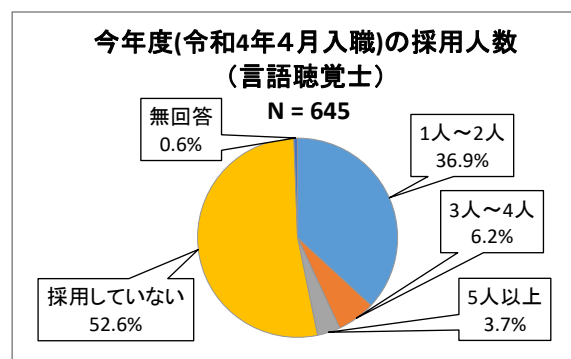
(3) 今年度（令和4年4月入職）の採用人数（言語聴覚士）について

今年度（令和4年4月入職）の採用人数（言語聴覚士）について調査した結果、回答のあった施設 645 件のうち、「採用していない」が 339 件（52.6%）と最も多く、次いで「1人～2人」238 件（36.9%）、「3人～4人」40 件（6.2%）、「5人以上」24 件（3.7%）の順になっている。

※「無回答」4 件（0.6%）

今年度(令和4年4月入職)の採用人数（言語聴覚士）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人～2人	238	36.9
2	3人～4人	40	6.2
3	5人以上	24	3.7
4	採用していない	339	52.6
	無回答	4	0.6
	N (%ベース)	645	100



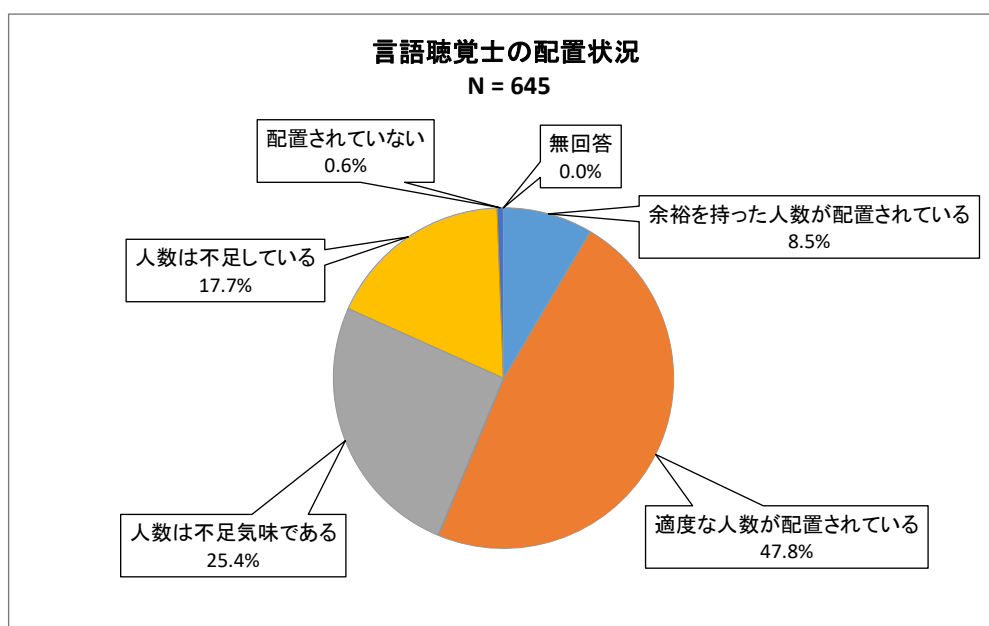
(4) 言語聴覚士の配置状況について

現在の言語聴覚士の配置状況について調査した結果、回答のあった施設 645 件のうち、「適度な人数が配置されている」が 308 件 (47.8%) と最も多く、次いで「人数は不足気味である」164 件 (25.4%)、「人数は不足している」114 件 (17.7%)、「余裕を持った人数が配置されている」55 件 (8.5%)、「配置されていない」4 件 (0.6%) の順になっている。

「余裕を持った人数が配置されている」、「適度な人数が配置されている」、「人数は不足気味である」、「人数は不足している」と回答した施設数を合計すると 641 施設となり、この 641 施設には言語聴覚士が配置されていることがわかる。

言語聴覚士の配置状況

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	余裕を持った人数が配置されている	55	8.5
2	適度な人数が配置されている	308	47.8
3	人数は不足気味である	164	25.4
4	人数は不足している	114	17.7
5	配置されていない	4	0.6
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	645	100



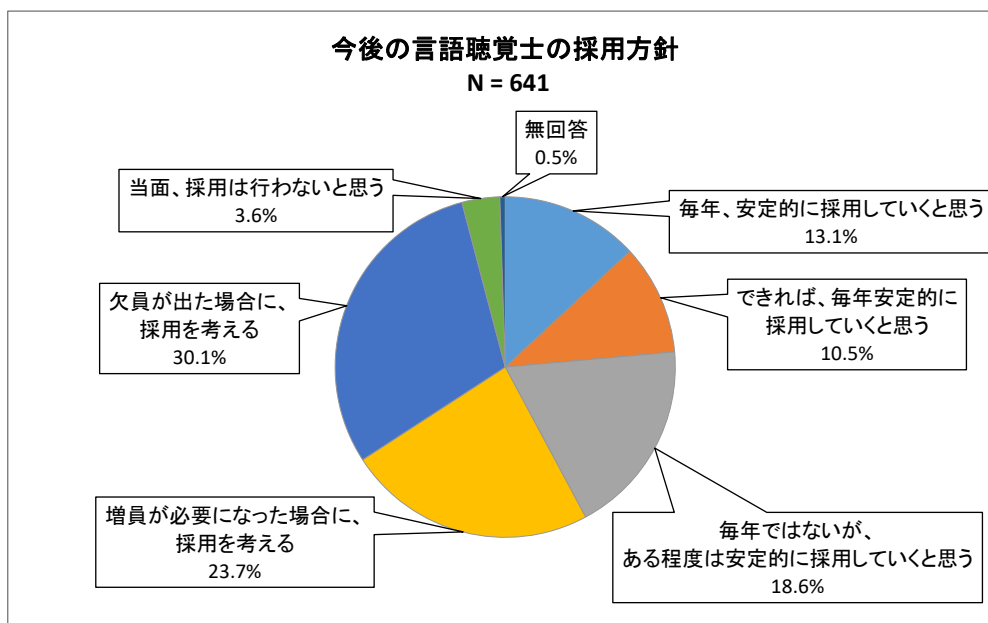
(5) 今後の言語聴覚士の採用方針について

「(4) 言語聴覚士の配置状況について」の結果から、現在言語聴覚士が配置されていることがわかった 641 施設に、今後の言語聴覚士の採用方針について調査した。

その結果、「欠員が出た場合に、採用を考える」が 193 件 (30.1%) と最も多く、次いで「増員が必要になった場合に、採用を考える」152 件 (23.7%)、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う」119 件 (18.6%)、「毎年、安定的に採用していくと思う」84 件 (13.1%)、「できれば、毎年安定的に採用していくと思う」67 件 (10.5%)、「当面、採用は行わないと思う」23 件 (3.6%) の順になっている。 ※「無回答」3 件 (0.5%)

今後の言語聴覚士の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	84	13.1
2	できれば、毎年安定的に採用していくと思う	67	10.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う	119	18.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	152	23.7
5	欠員が出た場合に、採用を考える	193	30.1
6	当面、採用は行わないと思う	23	3.6
	無回答	3	0.5
	N (%ベース)	641	100



(6) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の社会的必要性について

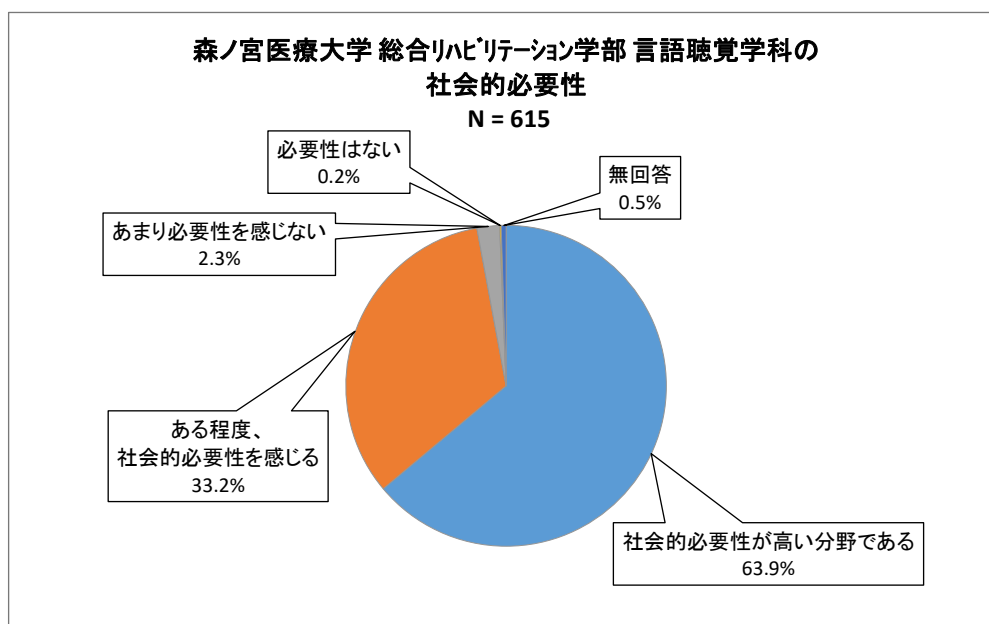
「(5) 今後の言語聴覚士の採用方針について」において「無回答」と「当面、採用は行わないと思う」と回答した施設を除いた 615 施設に対して、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の社会的必要性について調査した。

その結果、「社会的必要性が高い分野である」が 393 件 (63.9%) と最も多く、次いで「ある程度、社会的必要性を感じる」204 件 (33.2%)、「あまり必要性を感じない」14 件 (2.3%)、「必要性はない」1 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」3 件 (0.5%)

なお、「社会的必要性が高い分野である」、「ある程度、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合計すると、597 件 (97.1%) となっている。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	393	63.9
2	ある程度、社会的必要性を感じる	204	33.2
3	あまり必要性を感じない	14	2.3
4	必要性はない	1	0.2
	無回答	3	0.5
	N (%ベース)	615	100



(7) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるものについて

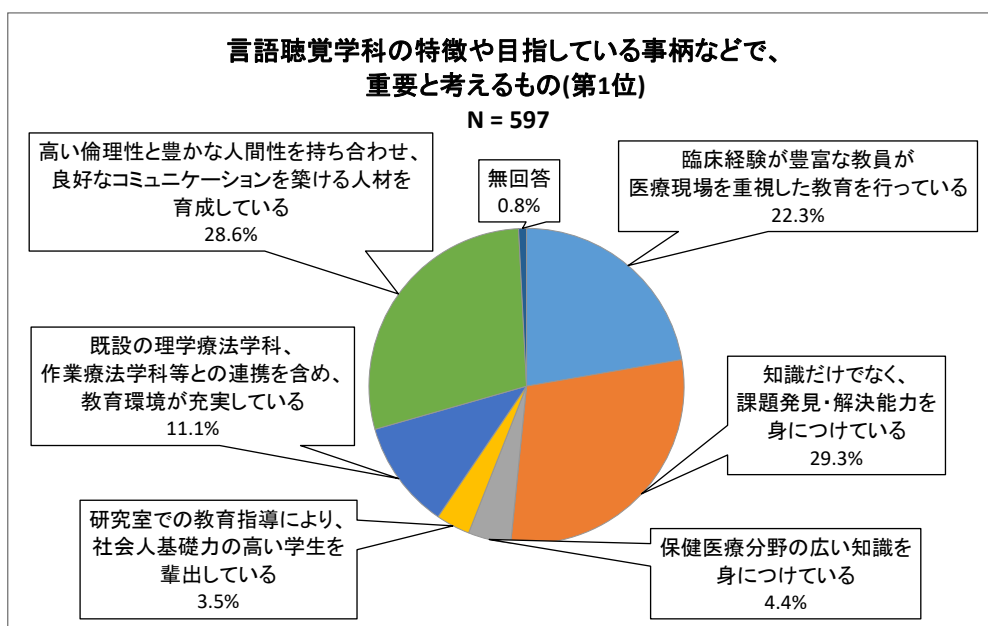
7-1 言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるもの（第1位）

「(6) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の社会的必要性について」において肯定的な回答をした 597 施設に対して、言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるもの（第1位）について調査した。

その結果、「知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている」が 175 件（29.3%）と最も多く、次いで「高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している」171 件（28.6%）、「臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている」133 件（22.3%）、「既設の理学療法学科、作業療法学科等との連携を含め、教育環境が充実している」66 件（11.1%）、「保健医療分野の広い知識を身につけている」26 件（4.4%）、「研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している」21 件（3.5%）の順になっている。 ※「無回答」5 件（0.8%）

言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるもの(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている	133	22.3
2	知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている	175	29.3
3	保健医療分野の広い知識を身につけている	26	4.4
4	研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している	21	3.5
5	既設の理学療法学科、作業療法学科等との連携を含め、教育環境が充実している	66	11.1
6	高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している	171	28.6
	無回答	5	0.8
	N (%ベース)	597	100



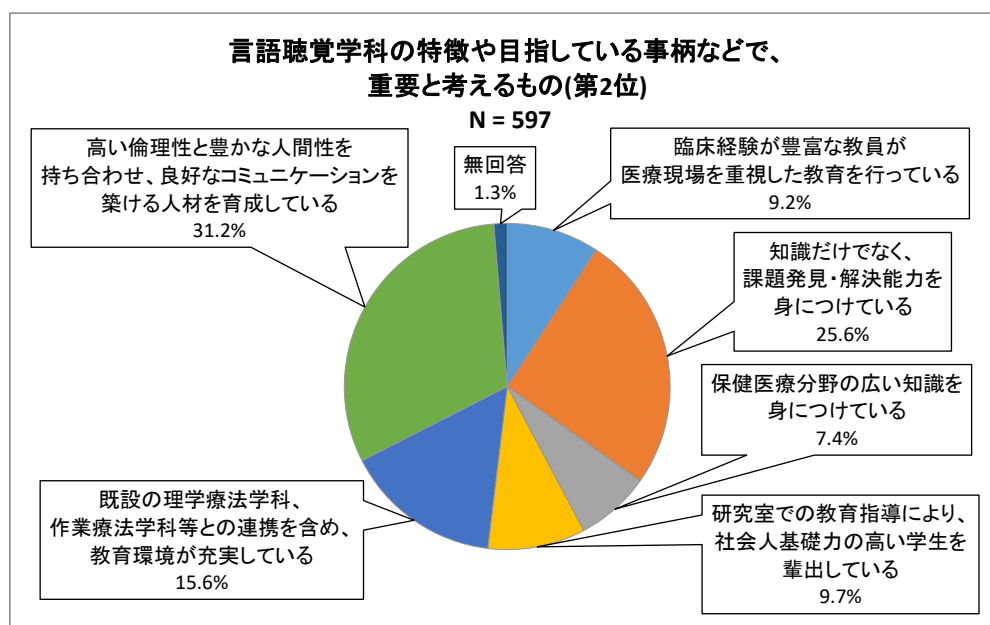
7-2 言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるもの（第2位）

「(6) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の社会的必要性について」において肯定的な回答をした 597 施設に対して、言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるもの（第2位）について調査した。

その結果、「高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している」が 186 件（31.2%）と最も多く、次いで「知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている」153 件（25.6%）、「既設の理学療法学科、作業療法学科等との連携を含め、教育環境が充実している」93 件（15.6%）、「研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している」58 件（9.7%）、「臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている」55 件（9.2%）、「保健医療分野の広い知識を身につけている」44 件（7.4%）の順になっている。 ※「無回答」8 件（1.3%）

言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるもの(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている	55	9.2
2	知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている	153	25.6
3	保健医療分野の広い知識を身につけている	44	7.4
4	研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している	58	9.7
5	既設の理学療法学科、作業療法学科等との連携を含め、教育環境が充実している	93	15.6
6	高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している	186	31.2
	無回答	8	1.3
	N (%ベース)	597	100



(8) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用意向について

「(6) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の社会的必要性について」において肯定的な回答をした 597 施設に対して、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用意向について調査した。

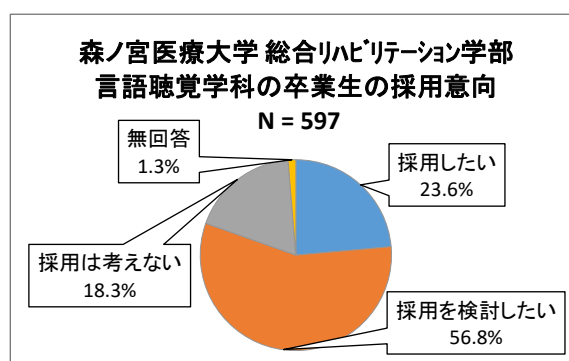
その結果、「採用を検討したい」が 339 件 (56.8%) と最も多く、次いで「採用したい」141 件 (23.6%)、「採用は考えない」109 件 (18.3%) の順になっている。

※「無回答」8 件 (1.3%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合計すると、480 件 (80.4%) となっている。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	141	23.6
2	採用を検討したい	339	56.8
3	採用は考えない	109	18.3
	無回答	8	1.3
	N (%ベース)	597	100



(9) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用人数について

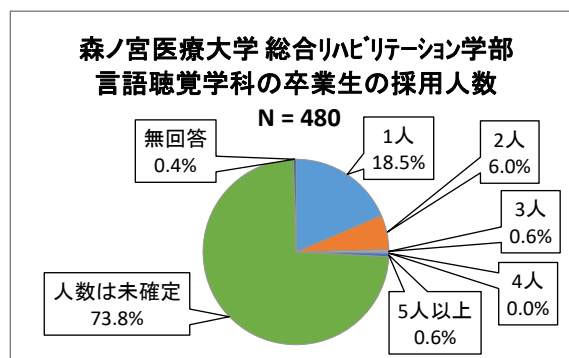
「(8) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用意向について」において肯定的な採用意向を示した 480 施設に対して、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の将来的な採用人数について調査した。

その結果、「人数は未確定」が 354 件 (73.8%) と最も多く、次いで「1人」89 件 (18.5%)、「2人」29 件 (6.0%)、「3人」3 件 (0.6%)、「5人以上」3 件 (0.6%) の順になっている。

※「無回答」2 件 (0.4%)

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	89	18.5
2	2人	29	6.0
3	3人	3	0.6
4	4人	0	0.0
5	5人以上	3	0.6
6	人数は未確定	354	73.8
	無回答	2	0.4
	N (%ベース)	480	100



3. 調査結果のまとめ

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(8) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(9) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定」※）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「5人以上」は最低数である「5人」として計算した。

※「人数は未確定」とは、「(8) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用意向について」において、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

「(8) 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用意向について」において、「採用したい」141件、「採用を検討したい」339件の回答を得ている。

下表より、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、181人分となる。入学定員は40人であるため、約4.5倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」、「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は525人分となり、これは、入学定員40人に対して、約13.1倍となる。

回答数(件)	「採用したい」のみ		合計
人数(人)			
1人(A)	52	(a)	(A) × (a) 52
2人(B)	22	(b)	(B) × (b) 44
3人(C)	3	(c)	(C) × (c) 9
4人(D)	-	(d)	(D) × (d) -
5人以上(E)	3	(e)	(E) × (e) 15
人数は未確定(F)	61	(f)	(F) × (f) 61
無回答	-		

合計採用意向 181人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件)	「採用したい」「採用を検討したい」の合計		合計
人数(人)			
1人(A)	89	(a)	(A) × (a) 89
2人(B)	29	(b)	(B) × (b) 58
3人(C)	3	(c)	(C) × (c) 9
4人(D)	-	(d)	(D) × (d) -
5人以上(E)	3	(e)	(E) × (e) 15
人数は未確定(F)	354	(f)	(F) × (f) 354
無回答	2		

合計採用意向 525人

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

調查票

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の 設置に係るアンケート調査

本調査は、令和6年（2024年）4月に設置を計画している森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）について、設置の基礎資料とするため、貴施設の採用状況・意向についてお聞きするものです。

※ このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、その目的以外に利用することはございません。

※ 回答は、該当する番号を回答欄の □ の中へ直接ご記入下さい。

★ 調査回答締め切りのお願い ★

令和4年11月30日（水）までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします。

【 貴施設についてお聞きします 】

Q1. 貴施設の種類についてお聞きします。 【回答欄】
次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1. 病院 | 4. 通所系サービス施設 | 6. その他医療施設 |
| 2. 診療所・クリニック | 5. 小児関連施設 | 7. 企業等 |
| 3. 介護保険施設 | | |

Q2. 貴施設の所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | | | | |
|---------|----------|----------|---------|----------|
| 1. 北海道 | 11. 埼玉県 | 21. 岐阜県 | 31. 鳥取県 | 41. 佐賀県 |
| 2. 青森県 | 12. 千葉県 | 22. 静岡県 | 32. 島根県 | 42. 長崎県 |
| 3. 岩手県 | 13. 東京都 | 23. 愛知県 | 33. 岡山県 | 43. 熊本県 |
| 4. 宮城県 | 14. 神奈川県 | 24. 三重県 | 34. 広島県 | 44. 大分県 |
| 5. 秋田県 | 15. 新潟県 | 25. 滋賀県 | 35. 山口県 | 45. 宮崎県 |
| 6. 山形県 | 16. 富山県 | 26. 京都府 | 36. 徳島県 | 46. 鹿児島県 |
| 7. 福島県 | 17. 石川県 | 27. 大阪府 | 37. 香川県 | 47. 沖縄県 |
| 8. 茨城県 | 18. 福井県 | 28. 兵庫県 | 38. 愛媛県 | |
| 9. 栃木県 | 19. 山梨県 | 29. 奈良県 | 39. 高知県 | |
| 10. 群馬県 | 20. 長野県 | 30. 和歌山県 | 40. 福岡県 | |

Q3. 今年度（令和4年4月入職）に採用された「言語聴覚士」の人数は、何人程度ですか。該当する番号を 1 つお選びください。

- | | |
|----------|------------|
| 1. 1人～2人 | 3. 5人以上 |
| 2. 3人～4人 | 4. 採用していない |

番号でご回答
ください

Q4. 現在の「言語聴覚士」の配置状況について、該当する番号を 1 つお選びください。

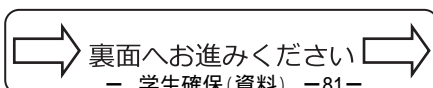
1. 余裕をもった人数が配置されている
2. 適度な人数が配置されている
3. 人数は不足気味である
4. 人数は不足している
5. 配置されていない

1～4を選ばれた方はQ5へお進みください。
5を選ばれた方はQ10へお進みください。

Q5. 今後の「言語聴覚士」の採用について、お考えに近い番号を 1 つお選びください。

1. 毎年、安定的に採用していくと思う
2. できれば、毎年安定的に採用していくと思う
3. 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う
4. 増員が必要になった場合に、採用を考える
5. 欠員が出た場合に、採用を考える
6. 当面、採用は行わないと思う

1～5を選ばれた方はQ6へお進みください。
6を選ばれた方はQ10へお進みください。



ここからは、森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科（仮称）の概要（リーフレット）をご覧ください

Q6. 森ノ宮医療大学が設置を計画している言語聴覚学科（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である
2. ある程度、社会的必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない
4. 必要性はない

1、2 を選ばれた方はQ7へお進みください。
3、4 を選ばれた方はQ10へお進みください。

Q7. 森ノ宮医療大学が設置を計画している言語聴覚学科（仮称）の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるものはどれですか。

あてはまる番号を第2位までお選びください。

1. 臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている
2. 知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている
3. 保健医療分野の広い知識を身につけている
4. 研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している
5. 既設の理学療法学科、作業療法学科等との連携を含め、教育環境が充実している
6. 高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している

第1位

第2位

Q8. 森ノ宮医療大学が設置を計画している言語聴覚学科（仮称）の卒業生の採用についておたずねします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1、2 を選ばれた方はQ9へお進みください。
3 を選ばれた方はQ10へお進みください。

Q9. 森ノ宮医療大学が設置を計画している言語聴覚学科（仮称）の卒業生を、毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上
6. 人数は未確定

番号でご回答
ください

Q10. 森ノ宮医療大学が設置を計画している言語聴覚学科（仮称）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

計画概要

医療者をめざす仲間が集う開放的な空間

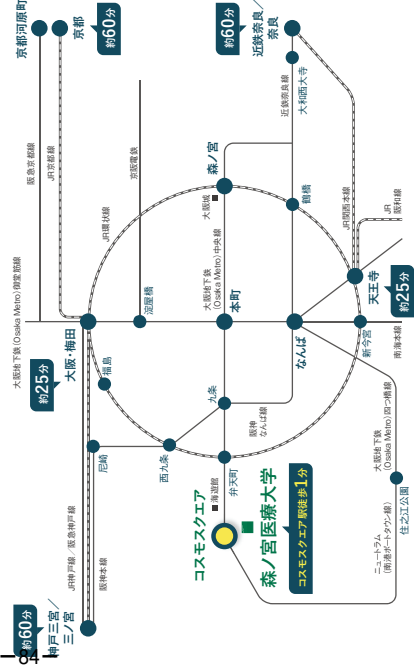
言語聴覚学科(仮称)の学舎となる
新棟を建設予定



新棟のハースはイメージのため、重要となる可能性があります。

ACCESS 最寄り駅から徒歩1分、通いやすい好アクセス

鴨川(運河)と豊かな緑に囲まれた本学のキャンパスは、広大な海と空が一望できるベイエリアに位置
大阪市内の主要ターミナル駅から30分以内。しかも最寄り駅「コスモスクエア」からは徒歩1分の好立地。
兵庫・奈良・京都方面からのアクセスにも恵まれ、卒業後も利用しやすい環境です。



「神戸(三宮)」「京都」「奈良」各方面から
約60分
大阪市内の主要ターミナル駅
「奈良(梅田)」「なんば」「天王寺」から
30分以内
最寄り駅「コスモスクエア」
2番出口から
徒歩約1分
(南へ約90m)

森ノ宮医療大学
想いのすべてを、医療の力に。

- 看護学部
- 看護学科
- 臨床検査学科
- 臨床工学科
- 臨床理学科
- 診療放射線学科
- 鍼灸学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科

0120-68-8908
https://www.morinomiyu-u.ac.jp

- 大学院 保健医療科学研究科
- 保健医療学専攻(修士課程)
- 医療科学専攻(博士後期課程)
- 看護学専攻(博士前期課程/博士後期課程)
- 専攻科
- 助産学専攻科(1年課程)

(発行)2022年9月

2024年4月

総合リハビリテーション学部

言語聴覚学科 誕生予定

(仮称・設置
構想中)

入学定員
40名
(予定)

※構想中であるため今後、名称・内容・定員などは変更する場合があります。

Department of Speech-language-hearing Therapy

関西最大級 医療系総合大学の
総合リハビリテーション学部に

言語聴覚学科(仮称)が誕生(予定)。
リハビリテーションに関する3つの専門職が揃い、
チーム医療教育がさらに深化します。



理学療法
学科

作業療法
学科

2024年4月開設予定
言語聴覚
学科
(仮称・設置構想中)

3学科連携により
学びが深まる
総合リハビリ
テーション学部

Department of
Physical Therapy

Department of
Occupational Therapy



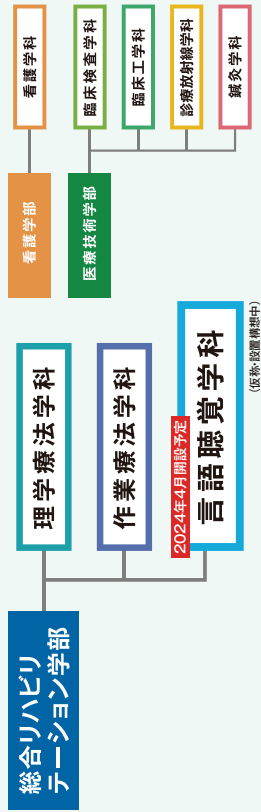
2024年4月、総合リハビリテーション学部にて3つ目の学科が誕生(予定)

「言語聴覚学科」を設置

(仮称)

チーム医療の学びがさらに深化します

3学部8学科の医療系総合大学へ

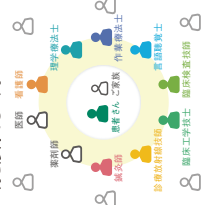


“関西最大級の医療系総合大学”森ノ宮医療大学だからできる医療教育

POINT 1

8学科連携で学ぶ
実践的チーム医療教育

—IPE(International Professional Education)—
チーム医療では、多職種が集まる場で他の専門スタッフの語が理解でき、なおかつ自らの専門分野で何ができるかを提案する力が求められます。本学では8学科が1つのキャンパス内にある環境を活かし、多職種の意見を聞き、自らの考えを伝える力を養うチーム医療のためのカリキュラムを実施。周りと協働しながら患者さんへ最善のアプローチ方法を考え、実践できる力を修得できます。



チーム医療のイメージ(一例)

POINT 2

豊富な医療機関と
強固なつながり

大学全体で500施設以上の実習先を確保。地域の基幹病院と強固な連携体制を築き、大阪府をはじめとした関西エリアを中心に数多くの実習先を確保。多様な分野での実習が可能とし、さまざまなフィールドで活躍できる言語聴覚士を育成します。

実習病院(仮全体)

- 大阪急性期・総合医療センター/医療法人朝秀会/北野病院/医療法人協和会/南大阪病院/大阪国際がんセンター/関西メディカル病院/日本生命病院/近畿大学病院/社会医療法人愛仁会/JCHO大阪みなと中央病院/JCHO大阪病院 など

POINT 3

入学から卒業後まで
続くサポート

学生生活を支えるトリプルサポート体制。普段の学修から学生生活、国家試験対策や就職まであらゆる学生のニーズに対応するために、①学段の学修や大学生活、②国家試験対策、③就職キャリア、まで支援するトリプルサポート体制を導入し、学生をサポートしています。

国家試験合格率

看護学科	看護師	100%	保健師	100%
助産学専攻科	助産師	100%		
理学療法学科	理学療法士	98.4%		
作業療法学科	作業療法士	100%		
臨床検査学科	臨床検査技師	80.0%		
臨床工学科	臨床工学士	98.1%		
鍼灸学科	はり師	95.7%	きゅう師	95.7%

(2022年3月卒業生実績)

話す、聴く、食べる、のスペシャリスト

言語聴覚学科

2024年4月
開設予定

【入学定員】40名(予定) 【学位】学士(言語聴覚学)(予定) 【取得可能な資格】言語聴覚士(国家試験受験資格)(予定)

教育目標(育成する人材像)

- ①チーム医療に貢献できる協働性とコミュニケーション能力を有し、専門的な知識と技能および幅広い教養と豊かな感性を備え、科学的根拠に基づいて対象児・者が抱える問題の解決や支援のための言語聴覚療法を実践できる言語聴覚士の養成をめざします。
- ②必要な専門知識と技能の修得はるから、それらを効果的かつ実践的に活用し、多職種連携の理解を深めたチーム医療に貢献できる人材を育成します。
- ③主体的な学びや探求心・向上心により自己研鑽し、地域社会の人々の健康増進のために貢献できる言語聴覚士を育成します。

※ 構想中であるため今後、名称・内容・定員などは変更する場合があります。

?

言語聴覚士とは

話す・聴く・安全に食べられることを支援

小児から超高齢者まで幅広い年齢層を対象に、検査や訓練、助言などを行い、話す・聴く・食べるといった日常生活に欠かせない機能の回復や向上、社会復帰、発達を支援するのが言語聴覚士の仕事です。失語症や構音障害などの言語障がい、聴覚障がい、嚥下障がい、ことは発達遅延の遅れ、声の障がいなどに問題をもつ方とご家族を支援します。医療機関だけでなく、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活躍できます。

今後はますます求められる職種

医療技術の進歩に伴い、これまでは助かっていた命が救われる一方、障がいとともに生きる人が増える現代社会において、今後ますます言語聴覚士をはじめリハビリテーション職のニーズは高まると予想されます。また高齢者の暮らしを地域全体で支え合う「地域包括ケア」体制において言語聴覚士はその一端を担っており、活躍の場は広がっていくとみられています。

AI時代にも求められる仕事

リハビリテーションの仕事は、単に症状に対する改善策を提供するだけでは成り立たず、豊かな人間性とコミュニケーション能力を発揮して患者さんの気持ちに寄り添った対応が求められます。コミュニケーションには、言葉だけではなく、思考、聴こえ、声の調子、表情、身振りの様々な要素が含まれます。その複雑な障がい像を理解し、観察力や洞察力もフル活用しながら臨機応変に対応する言語聴覚士の業務は、AIには代替できない仕事だと考えられています。

女性が活躍しやすいフィールド

言語聴覚士は、男女ともに活躍できる仕事ですが女性の比率が高い職種です。それは、力仕事や少ないことが要因の一つと考えられます。また産休や育休に理解がある職場が多く、就業時間が規則的・基本的に夜勤がないため、女性が働きやすい環境が整っています。

PICK UP

理学療法士・作業療法士との連携

リハビリテーション3職種の連携

そもそも「リハビリテーション」とはラテン語で「回復」(Recovery)、「Habilis(適した)」「latio(状態)」が含まれる言葉で、「再びその人らしい状態にする」という意味を持つています。3つのリハビリテーション職はそれぞれ異なる領域を担当し、互いに連携し一つのチームとなって「その人らしい暮らしを取り戻す」ためのサポートを行っています。

理学療法士	身体動作を取り戻す「動き」の専門家
例	歩けるようになった

作業療法士	日常生活に必要な動きを改善する専門家
例	歩けるようになった 足で買い物へ行

言語聴覚士	他者とのコミュニケーションを 取り戻す専門家
例	ことばを用いて買いたい ものを伝えたり、意思疎通が できるようにする。

森ノ宮医療大学でリハビリテーション3職種のつながりが学べる授業(予定) 「チームリハビリテーション」PW「演習」

※IPW専門機関連携

例えばこんな支援を行います

脳卒中などにより話す・聞いて理解する・読む書きが困難な方

CASE 1 想定される症状
失語症

アプローチ方法
各種の言語機能検査を実施し、残された言語機能にも着目しながらコミュニケーションの向上を図る。
【大学で学修する領域】失語・高次脳機能障害(予定)

つれづれが回らない、喉頭がなんでも声が出ない方

CASE 2 想定される症状
構音障がい、音声障がい

アプローチ方法
麻痺した喉頭の機能訓練、発声法や人工呼吸器などの代用法、文字書やコンピュータなどの工(補助)も活用。
【大学で学修する領域】言語聴覚学総論(予定)

病気が加齢により食べものを飲み込むことが困難な方

CASE 3 想定される症状
むせ込み、嚥下困難

アプローチ方法
観察、評価や検査、嚥下造影検査等から原因を特定し、訓練や薬物療法を実施。
【大学で学修する領域】発声・嚥下障害学(予定)

予想される就職先

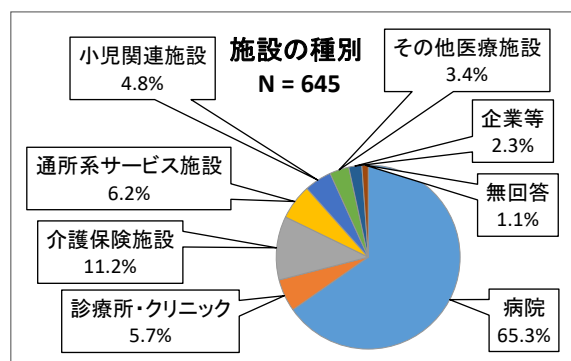
医療機関	大学病院/総合病院/診療所 など
保健施設	介護老人保健施設、デイケアセンター、小児デイケアセンターなど
福祉施設	特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、重症心身障害児施設 など
教育機関	小中学校/特別支援学校、特別支援科、特別支援科、言語聴覚士養成施設 など

一般的に病院等の医療機関が多いですが、保健・福祉、教育などの分野で活躍の場が幅広くです。

單純集計表

施設の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院	421	65.3
2	診療所・クリニック	37	5.7
3	介護保険施設	72	11.2
4	通所系サービス施設	40	6.2
5	小児関連施設	31	4.8
6	その他医療施設	22	3.4
7	企業等	15	2.3
	無回答	7	1.1
	N (%ベース)	645	100

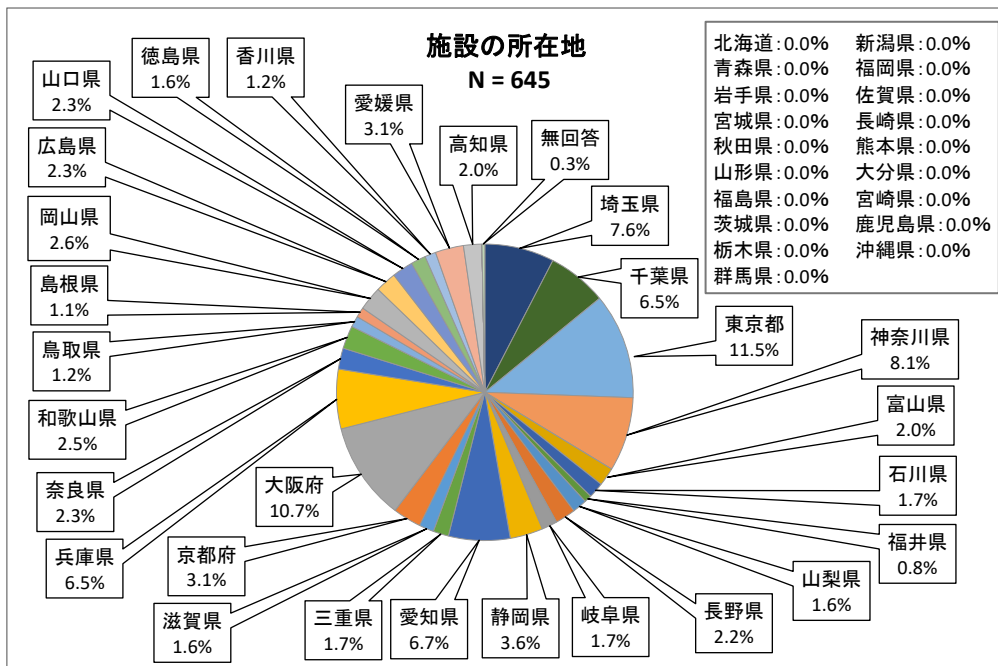


施設の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	北海道	0	0.0
2	青森県	0	0.0
3	岩手県	0	0.0
4	宮城県	0	0.0
5	秋田県	0	0.0
6	山形県	0	0.0
7	福島県	0	0.0
8	茨城県	0	0.0
9	栃木県	0	0.0
10	群馬県	0	0.0
11	埼玉県	49	7.6
12	千葉県	42	6.5
13	東京都	74	11.5
14	神奈川県	52	8.1
15	新潟県	0	0.0
16	富山県	13	2.0
17	石川県	11	1.7

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
18	福井県	5	0.8
19	山梨県	10	1.6
20	長野県	14	2.2
21	岐阜県	11	1.7
22	静岡県	23	3.6
23	愛知県	43	6.7
24	三重県	11	1.7
25	滋賀県	10	1.6
26	京都府	20	3.1
27	大阪府	69	10.7
28	兵庫県	42	6.5
29	奈良県	15	2.3
30	和歌山県	16	2.5
31	鳥取県	8	1.2
32	島根県	7	1.1
33	岡山県	17	2.6

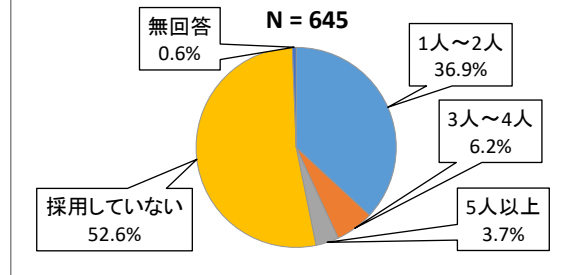
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
34	広島県	15	2.3
35	山口県	15	2.3
36	徳島県	10	1.6
37	香川県	8	1.2
38	愛媛県	20	3.1
39	高知県	13	2.0
40	福岡県	0	0.0
41	佐賀県	0	0.0
42	長崎県	0	0.0
43	熊本県	0	0.0
44	大分県	0	0.0
45	宮崎県	0	0.0
46	鹿児島県	0	0.0
47	沖縄県	0	0.0
	無回答	2	0.3
	N (%^-ス)	645	100



今年度(令和4年4月入職)の採用人数(言語聴覚士)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人~2人	238	36.9
2	3人~4人	40	6.2
3	5人以上	24	3.7
4	採用していない	339	52.6
	無回答	4	0.6
	N (%ベース)	645	100

今年度(令和4年4月入職)の採用人数
(言語聴覚士)

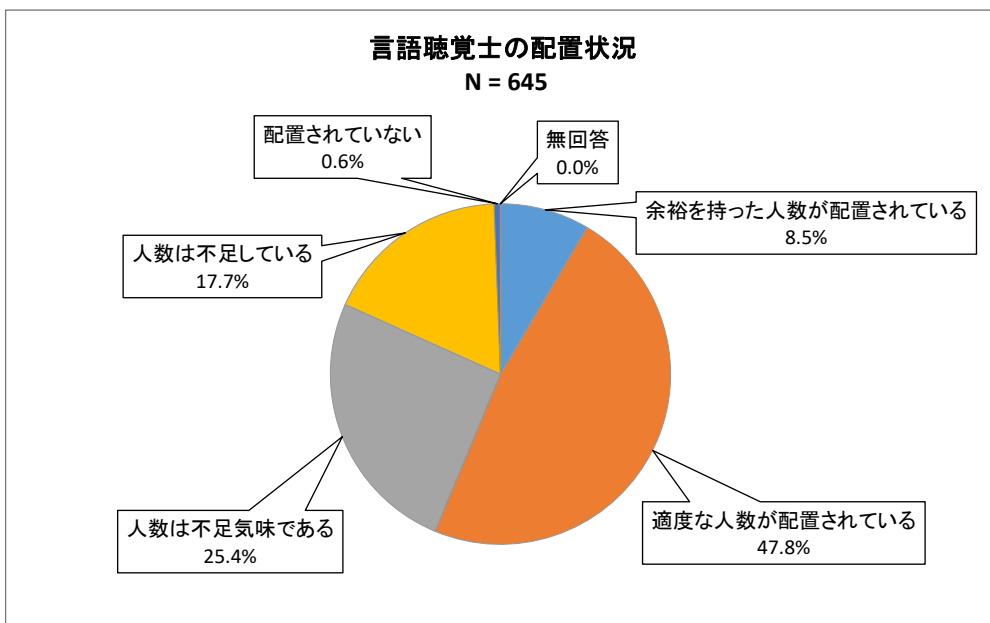


言語聴覚士の配置状況

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	余裕を持った人数が配置されている	55	8.5
2	適度な人数が配置されている	308	47.8
3	人数は不足気味である	164	25.4
4	人数は不足している	114	17.7
5	配置されていない	4	0.6
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	645	100

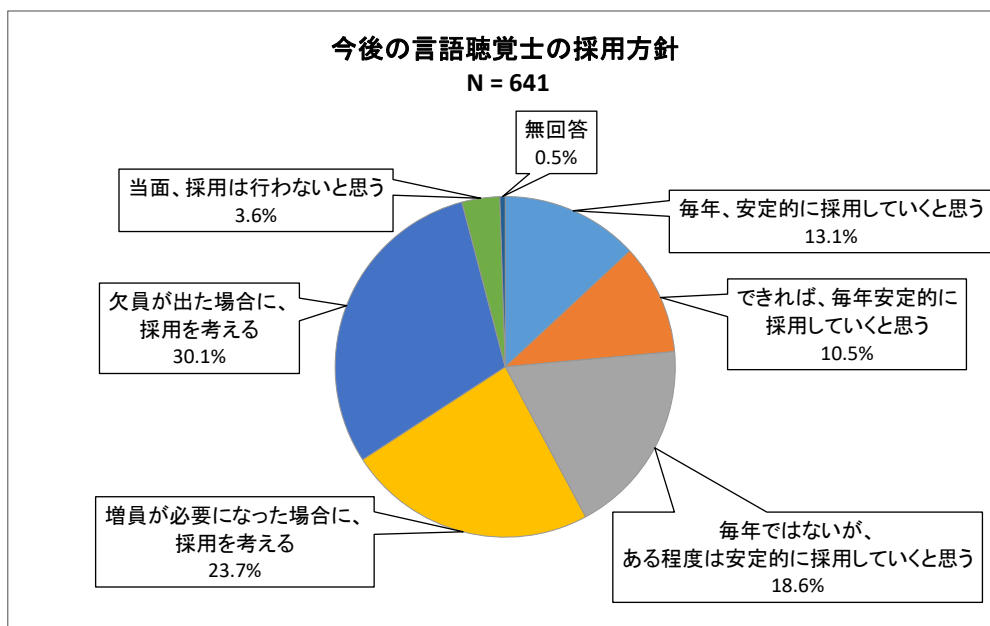
言語聴覚士の配置状況

N = 645



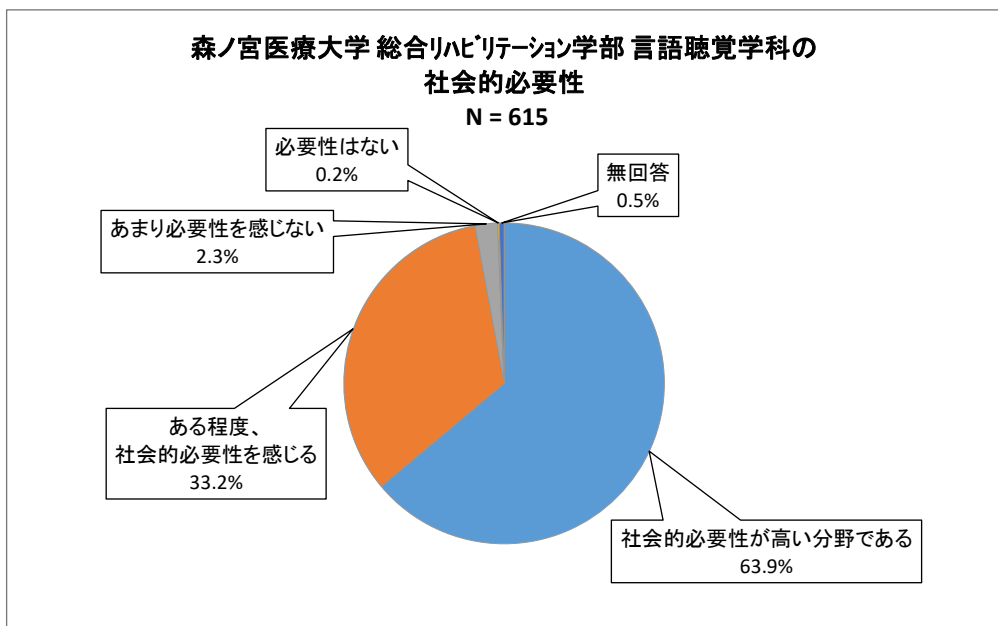
今後の言語聴覚士の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	84	13.1
2	できれば、毎年安定的に採用していくと思う	67	10.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う	119	18.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	152	23.7
5	欠員が出た場合に、採用を考える	193	30.1
6	当面、採用は行わないと思う	23	3.6
	無回答	3	0.5
	N (%ベース)	641	100



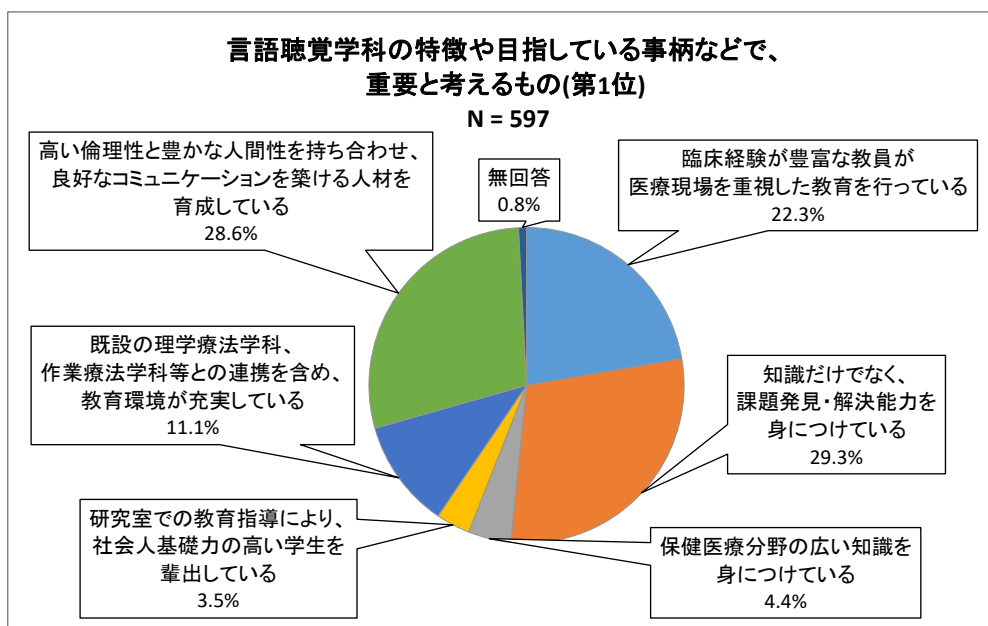
森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	393	63.9
2	ある程度、社会的必要性を感じる	204	33.2
3	あまり必要性を感じない	14	2.3
4	必要性はない	1	0.2
	無回答	3	0.5
	N (%ベース)	615	100



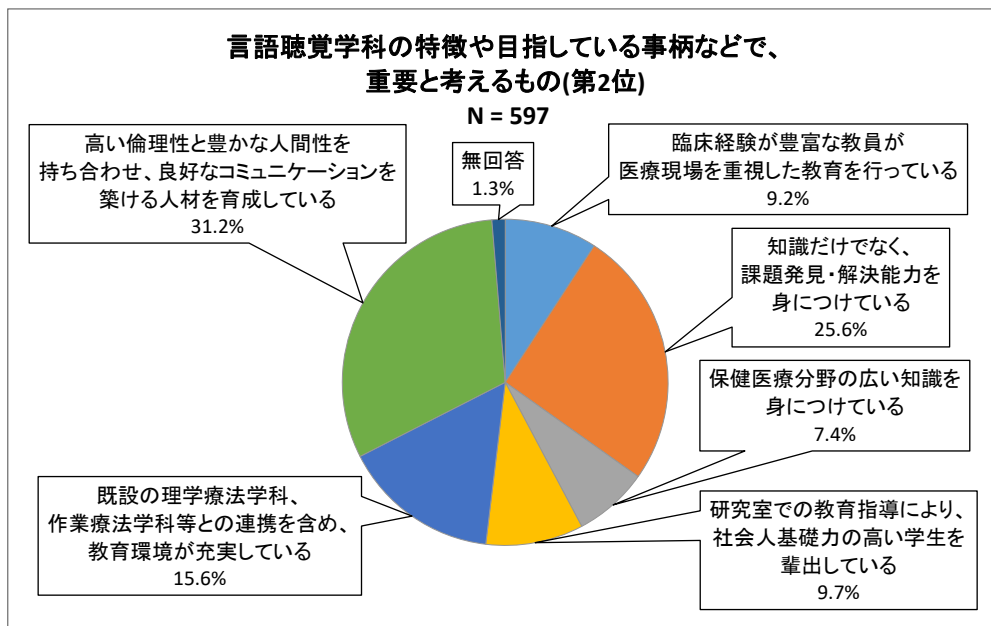
言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるもの(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている	133	22.3
2	知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている	175	29.3
3	保健医療分野の広い知識を身につけている	26	4.4
4	研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している	21	3.5
5	既設の理学療法学科、作業療法学科等との連携を含め、教育環境が充実している	66	11.1
6	高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している	171	28.6
	無回答	5	0.8
	N (%ベース)	597	100



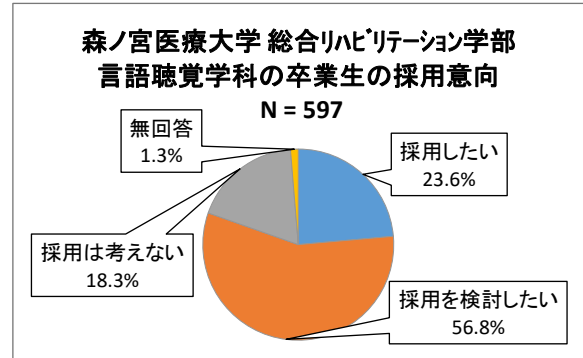
言語聴覚学科の特徴や目指している事柄などで、重要と考えるもの(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	臨床経験が豊富な教員が医療現場を重視した教育を行っている	55	9.2
2	知識だけでなく、課題発見・解決能力を身につけている	153	25.6
3	保健医療分野の広い知識を身につけている	44	7.4
4	研究室での教育指導により、社会人基礎力の高い学生を輩出している	58	9.7
5	既設の理学療法学科、作業療法学科等との連携を含め、教育環境が充実している	93	15.6
6	高い倫理性と豊かな人間性を持ち合わせ、良好なコミュニケーションを築ける人材を育成している	186	31.2
	無回答	8	1.3
	N (%ベース)	597	100



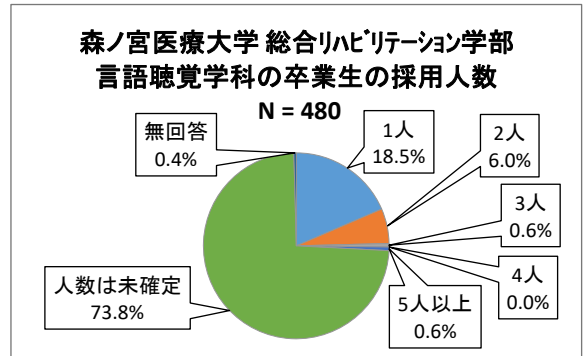
森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	141	23.6
2	採用を検討したい	339	56.8
3	採用は考えない	109	18.3
	無回答	8	1.3
	N (%ベース)	597	100



森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科の卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	89	18.5
2	2人	29	6.0
3	3人	3	0.6
4	4人	0	0.0
5	5人以上	3	0.6
6	人数は未確定	354	73.8
	無回答	2	0.4
	N (%ベース)	480	100



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	アキ モトニ 青木 元邦 <令和3年4月>		博士 (医学)		森ノ宮医療大学学長 (令和3.4~令和7.3)